

河内長野市
在宅介護実態調査
報告書

令和 8(2026)年 3 月
河内長野市

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書作成にあたって	1
II. 単純集計	2
1. 基本調査項目(A票)	2
(1) 世帯類型	2
(2) 家族等による介護の頻度	2
(3) 主な介護者の本人との関係	3
(4) 主な介護者の性別	3
(5) 主な介護者の年齢	4
(6) 主な介護者が行っている介護	4
(7) 介護のための離職の有無	5
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況	5
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	6
(10) 施設等検討の状況	6
(11) 本人が抱えている傷病	7
(12) 訪問診療の利用の有無	8
(13) 介護保険サービスの利用の有無	8
(14) 介護保険サービス未利用の理由	9
2. 主な介護者様用の調査項目(B票)	10
(1) 主な介護者の勤務形態	10
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	10
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	11
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	12
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	12
3. 要介護認定データ	13
(1) 年齢	13
(2) 性別	13
(3) 二次判定結果(要介護度)	14
(4) サービス利用の組み合わせ	14
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	15
(6) 通所系サービスの合計利用回数	15
(7) 短期系サービスの合計利用回数	16
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	16
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	17

III. クロス集計	18
1. 介護保険事業計画の策定に向けた検討	18
(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	18
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	20
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	22
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	25
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	28
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	30
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	33
(8) 在宅生活の維持に向けた支援・サービス提供体制に関する考察	39
2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	41
(1) 基本集計	41
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	44
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係 47	
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	51
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	53
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	55
(7) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービス提供体制の構築に関する考察	59
3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	61
(1) 基礎集計	61
(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	62
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」	64
(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」	68
(5) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源整備に関する考察	72
4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	74
(1) 基礎集計	74
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	75
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	77
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	80
(5) 将来の世帯類型の変化に応じた介護サービス提供体制に関する考察	83
5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	85
(1) 基礎集計	85
(2) 訪問診療の利用割合	88
(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	90
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無	90
(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援に関する考察	92
6. サービス未利用の理由など	94

(1)	要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	94
(2)	認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	98
(3)	認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス.....	102
(4)	本人の年齢別・主な介護者の年齢.....	106
(5)	要介護度別の抱えている傷病.....	107
(6)	訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病.....	108

I. 調査の概要

1. 調査の目的

河内長野市在宅介護実態調査は、河内長野市第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定にむけて、在宅介護サービスを利用する要支援・要介護認定者を対象に、在宅介護の抱える課題の特定に資することなどを目的として実施しました。

2. 調査概要

調査期間	令和7年11月1日から11月25日
調査方法	郵送による調査票の配布・回収
調査対象者	介護保険要支援・要介護認定者(介護保険施設入所者、及び、介護保険サービス利用実績のない者を除く)
調査対象者数	1,500
有効回答数	889
有効回答率	59.3%

3. 報告書作成にあたって

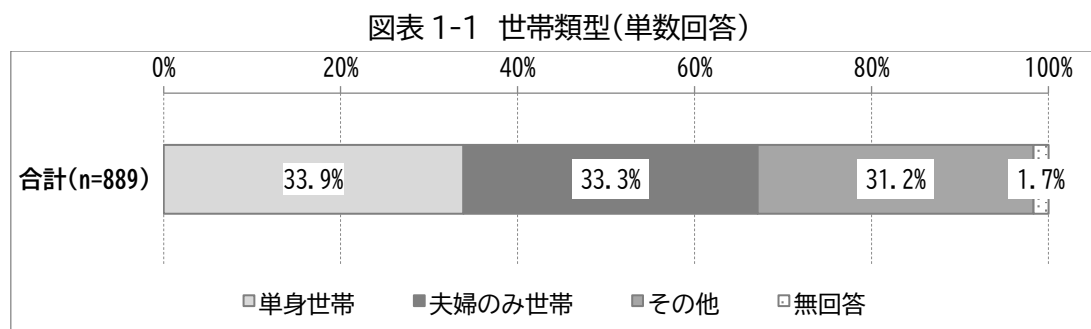
- ① 厚生労働省提供の分析ツールによる集計分析を行いました。
- ② 図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

II. 単純集計

1. 基本調査項目(A票)

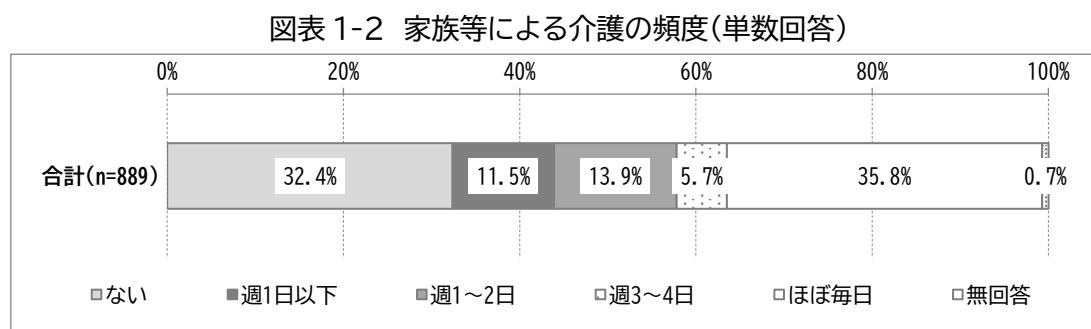
(1) 世帯類型

「単身世帯」の割合が最も高く33.9%となっている。次いで、「夫婦のみ世帯(33.3%)」「その他(31.2%)」となっている。



(2) 家族等による介護の頻度

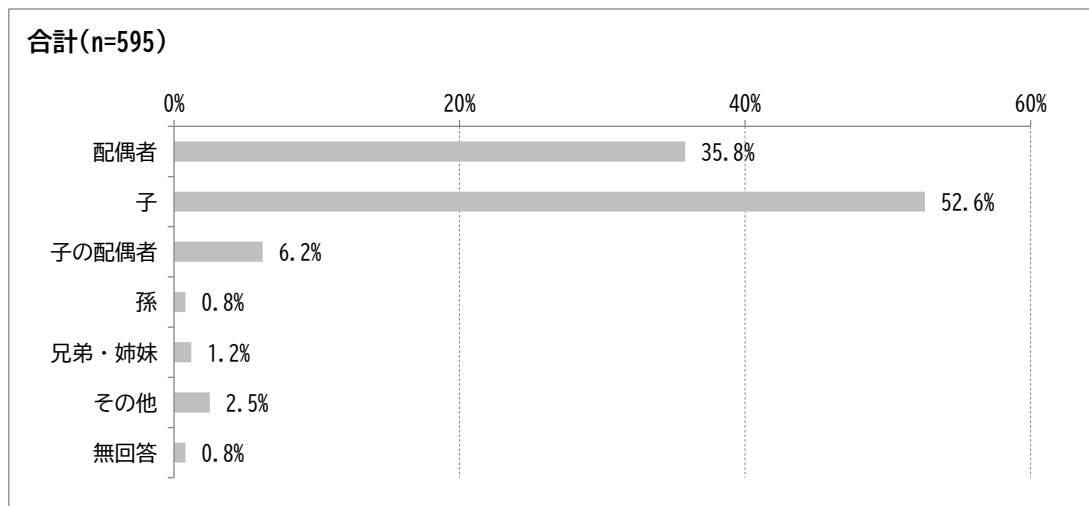
「ほぼ毎日」の割合が最も高く35.8%となっている。次いで、「ない(32.4%)」「週1~2日(13.9%)」となっている。



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く52.6%となっている。次いで、「配偶者(35.8%)」「子の配偶者(6.2%)」となっている。

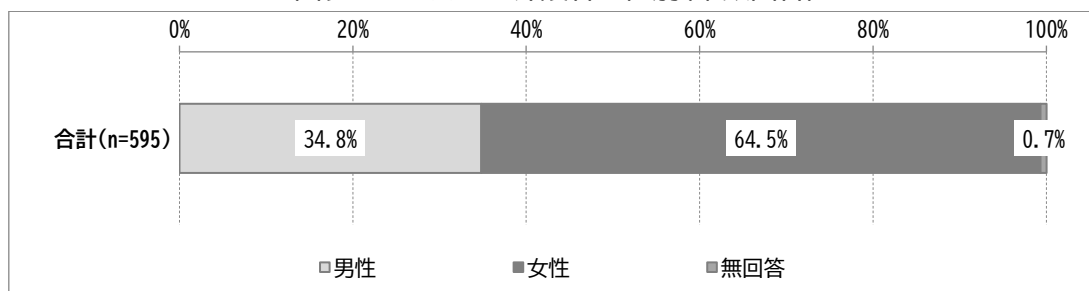
図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係(単数回答)



(4) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く64.5%となっている。次いで、「男性(34.8%)」となっている。

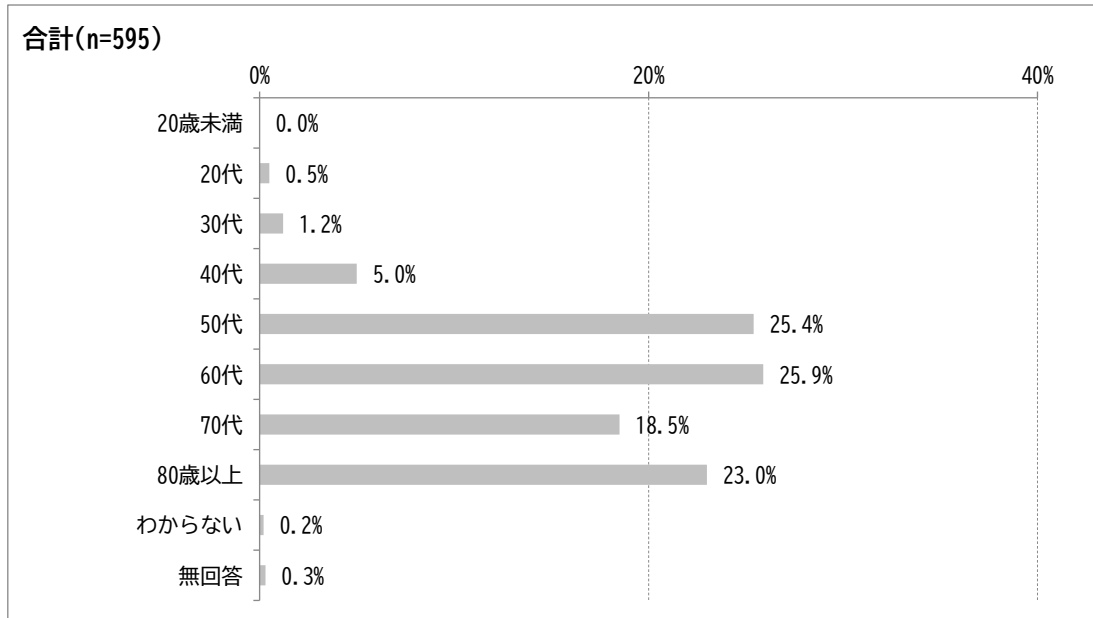
図表 1-4 ★主な介護者の性別(単数回答)



(5) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く25.9%となっている。次いで、「50代(25.4%)」「80歳以上(23.0%)」となっている。

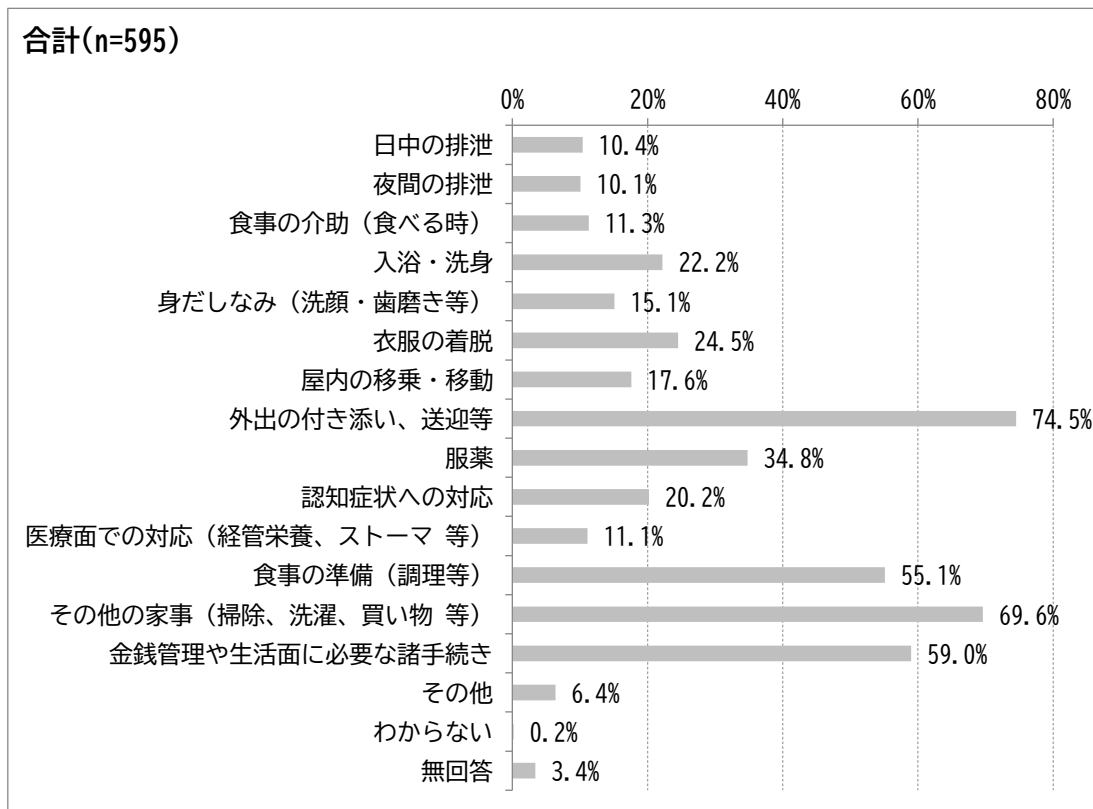
図表 1-5 主な介護者の年齢(単数回答)



(6) 主な介護者が行っている介護

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く74.5%となっている。次いで、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)(69.6%)」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き(59.0%)」となっている。

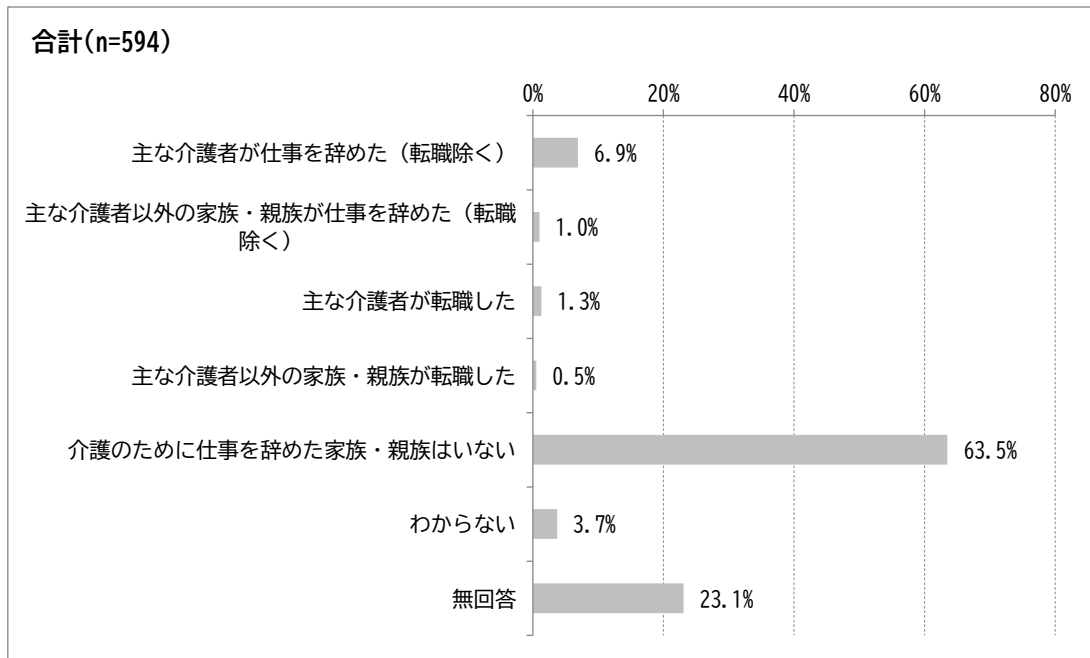
図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護(複数回答)



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く63.5%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)(6.9%)」「わからない(3.7%)」となっている。

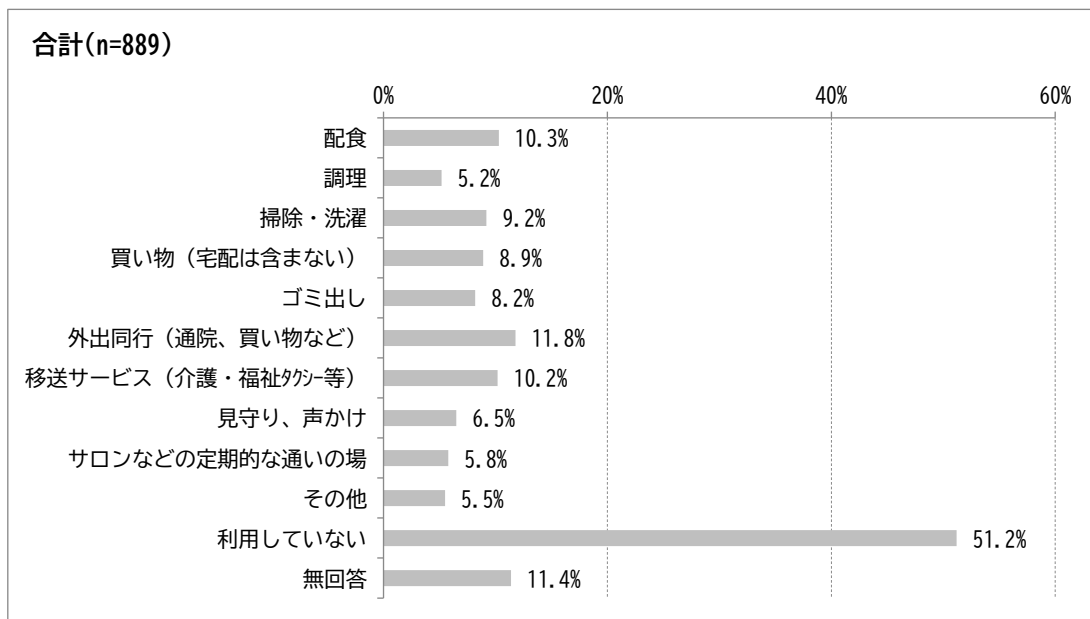
図表 1-7 介護のための離職の有無(複数回答)



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く51.2%となっている。次いで、「外出同行(通院、買い物など)(11.8%)」「配食(10.3%)」となっている。

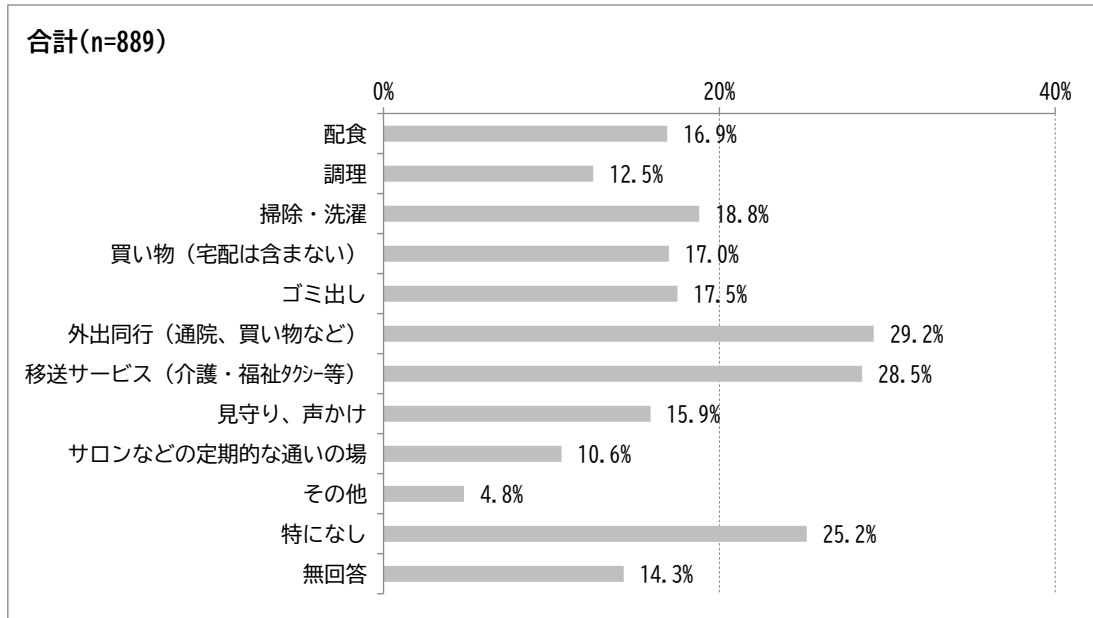
図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況(複数回答)



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「外出同行(通院、買い物など)」の割合が最も高く 29.2%となっている。次いで、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)(28.5%)」「特になし(25.2%)」となっている。

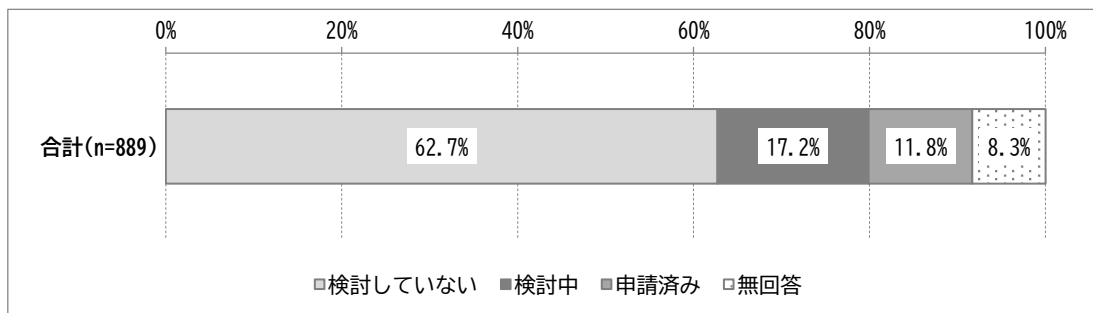
図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス(複数回答)



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 62.7%となっている。次いで、「検討中(17.2%)」「申請済み(11.8%)」となっている。

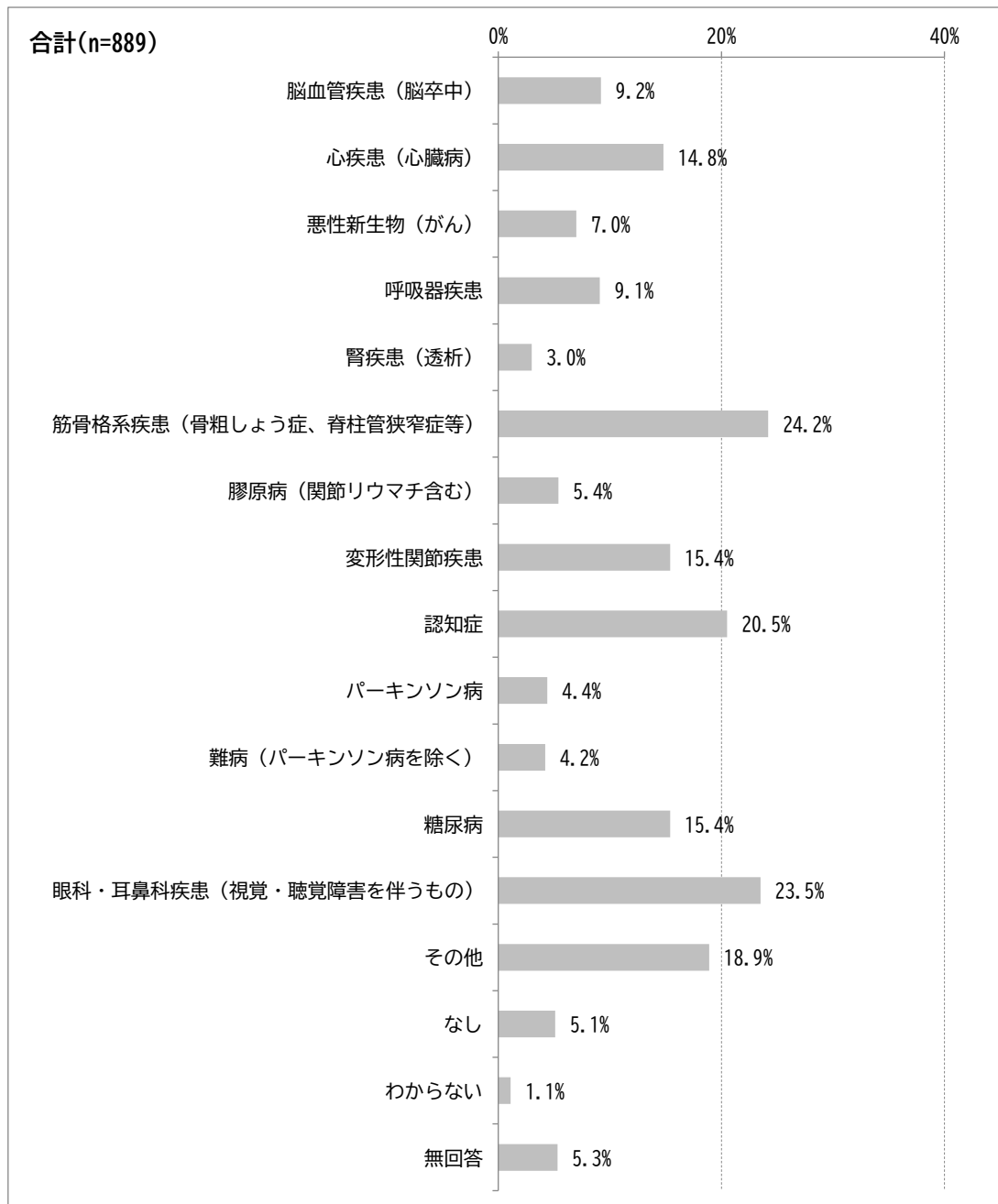
図表 1-10 施設等検討の状況(単数回答)



(11) 本人が抱えている傷病

「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」の割合が最も高く24.2%となっている。次いで、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)(23.5%)」「認知症(20.5%)」となっている。

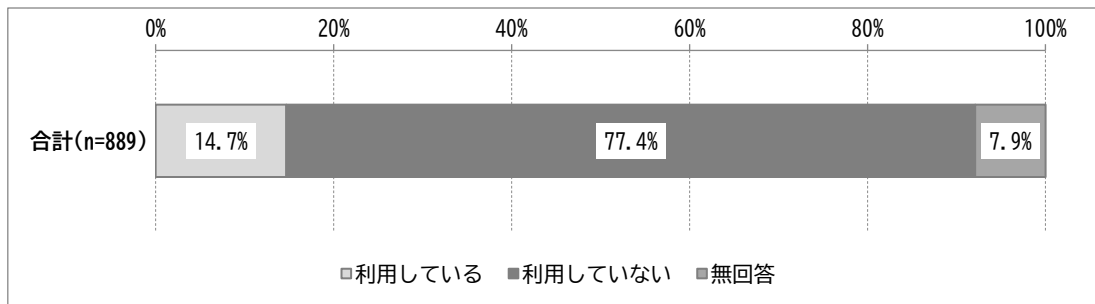
図表 1-11 ★本人が抱えている傷病(複数回答)



(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く77.4%となっている。次いで、「利用している(14.7%)」となっている。

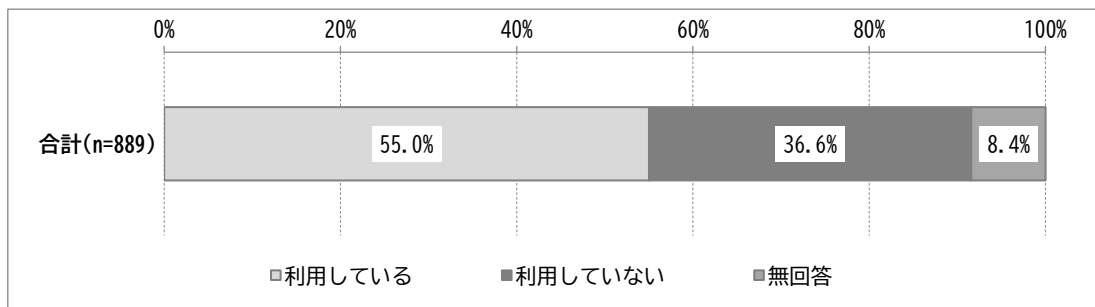
図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無(単数回答)



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く55.0%となっている。次いで、「利用していない(36.6%)」となっている。

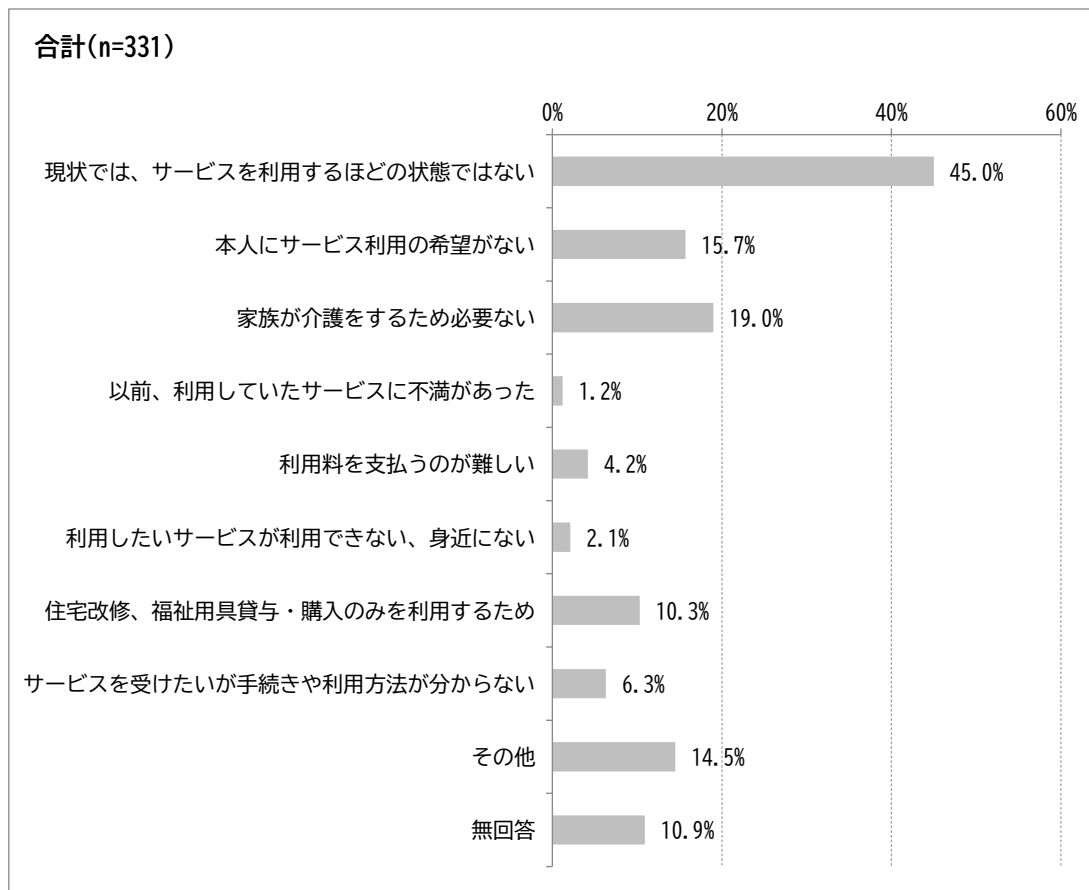
図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無(単数回答)



(14) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く45.0%となっている。次いで、「家族が介護をするため必要ない(19.0%)」「本人にサービス利用の希望がない(15.7%)」となっている。

図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由(複数回答)

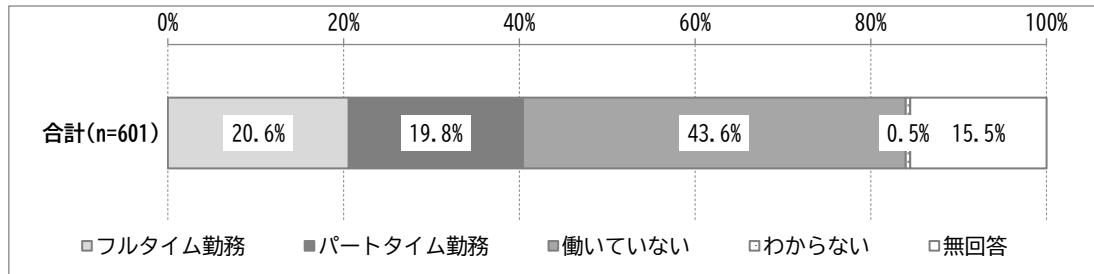


2. 主な介護者様用の調査項目(B票)

(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 43.6%となっている。次いで、「フルタイム勤務(20.6%)」「パートタイム勤務(19.8%)」となっている。

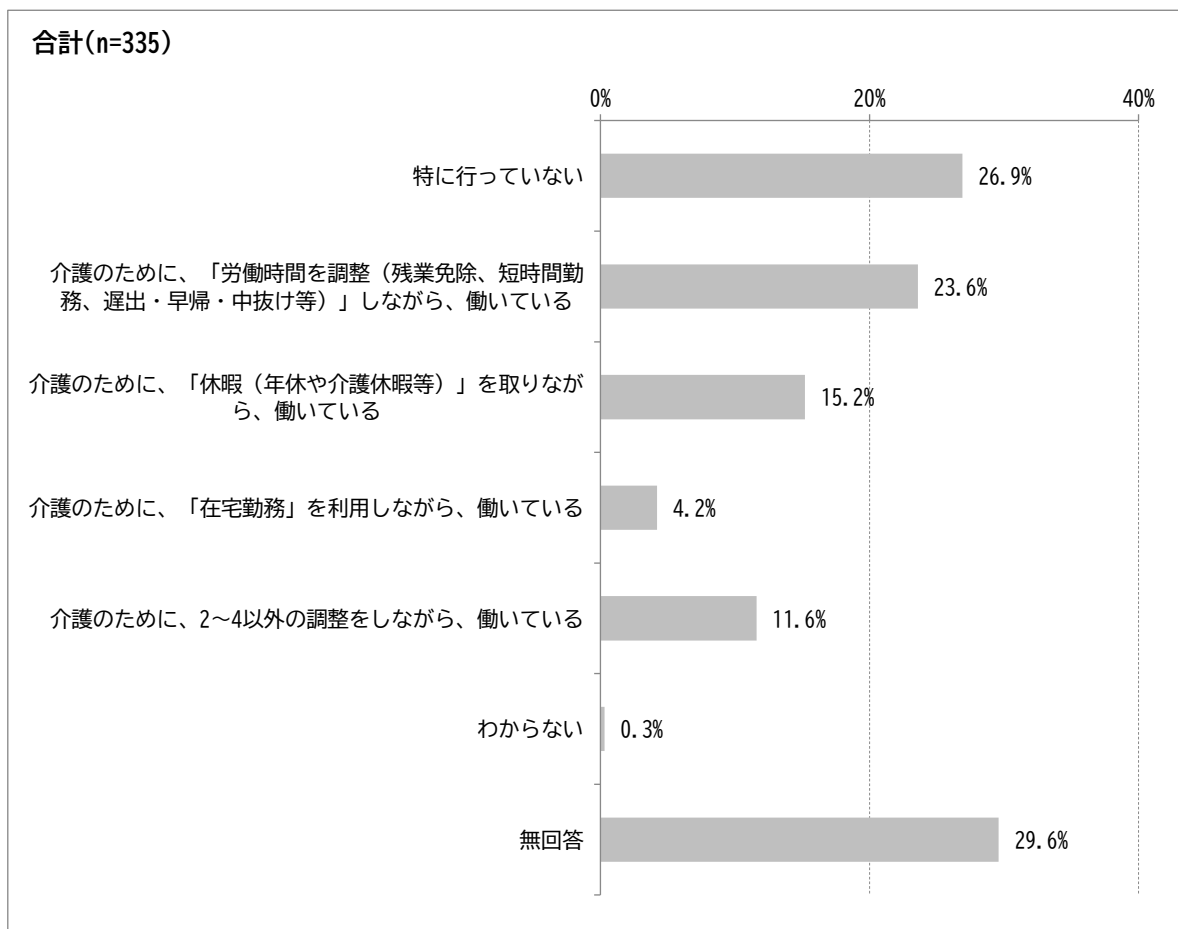
図表 2-1 主な介護者の勤務形態(単数回答)



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 26.9%となっている。次いで、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている(23.6%)」「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている(15.2%)」となっている。

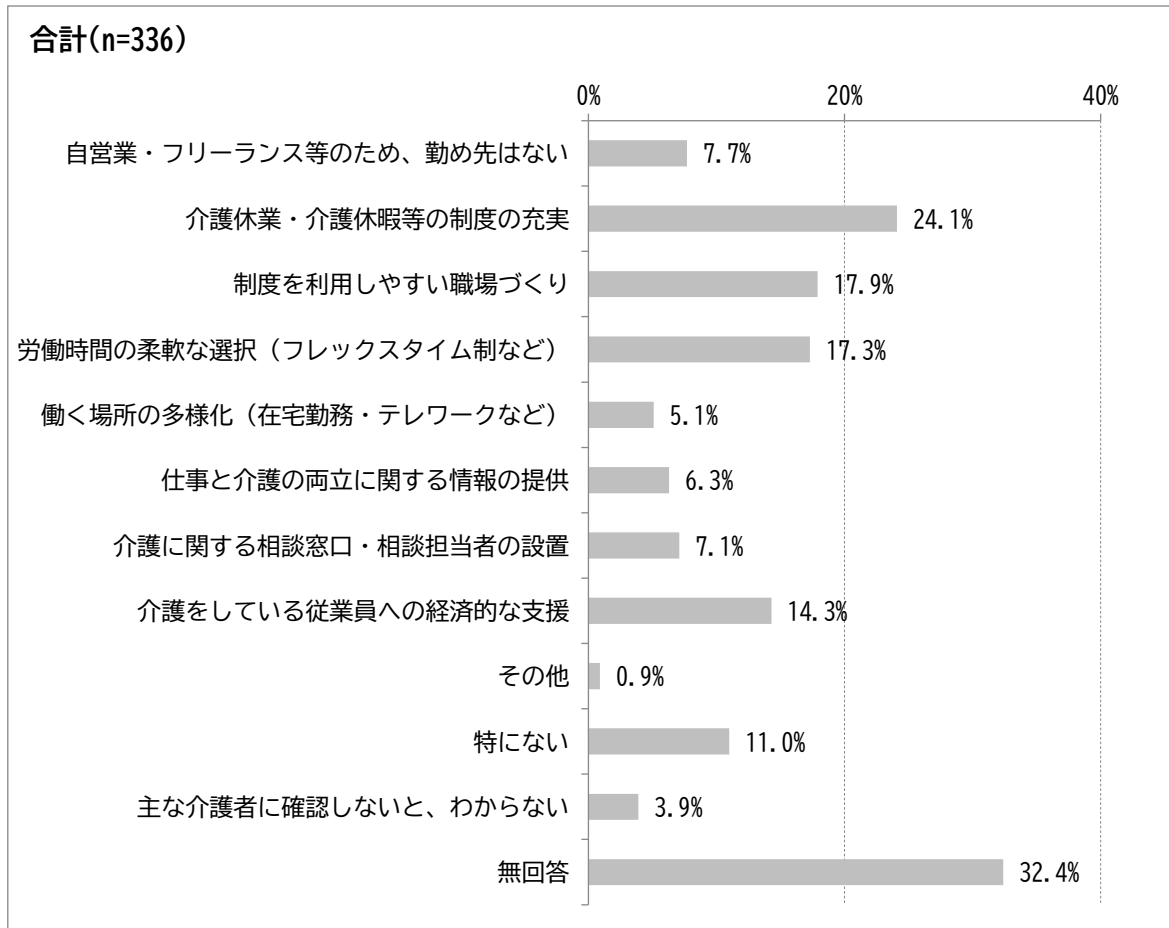
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況(複数回答)



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く24.1%となっている。次いで、「制度を利用しやすい職場づくり(17.9%)」「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)(17.3%)」となっている。

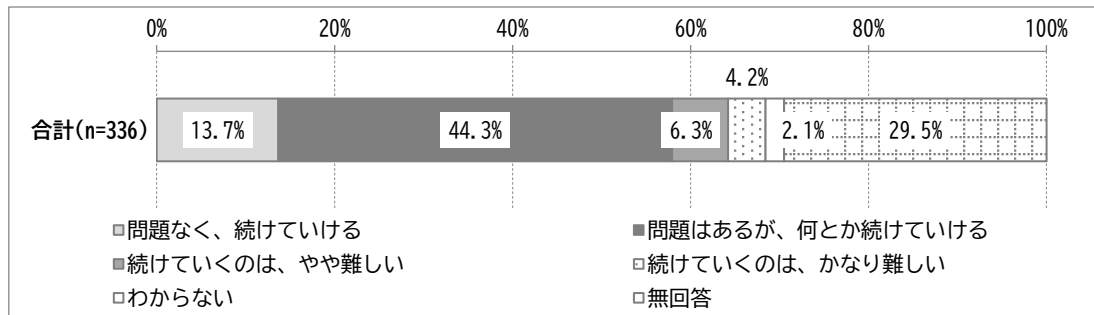
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援(複数回答)



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 44.3%となっている。次いで、「問題なく、続けていける(13.7%)」「続けていくのは、やや難しい(6.3%)」となっている。

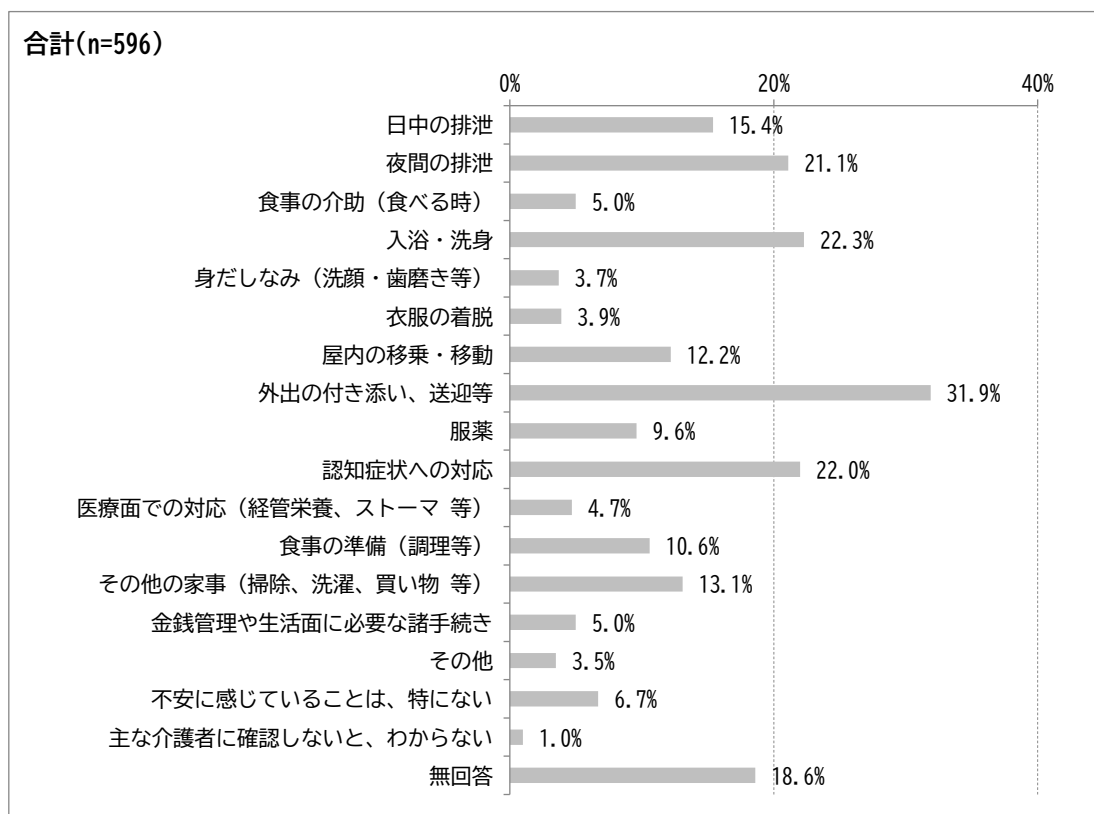
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識(単数回答)



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く 31.9%となっている。次いで、「入浴・洗身(22.3%)」「認知症状への対応(22.0%)」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護(複数回答)

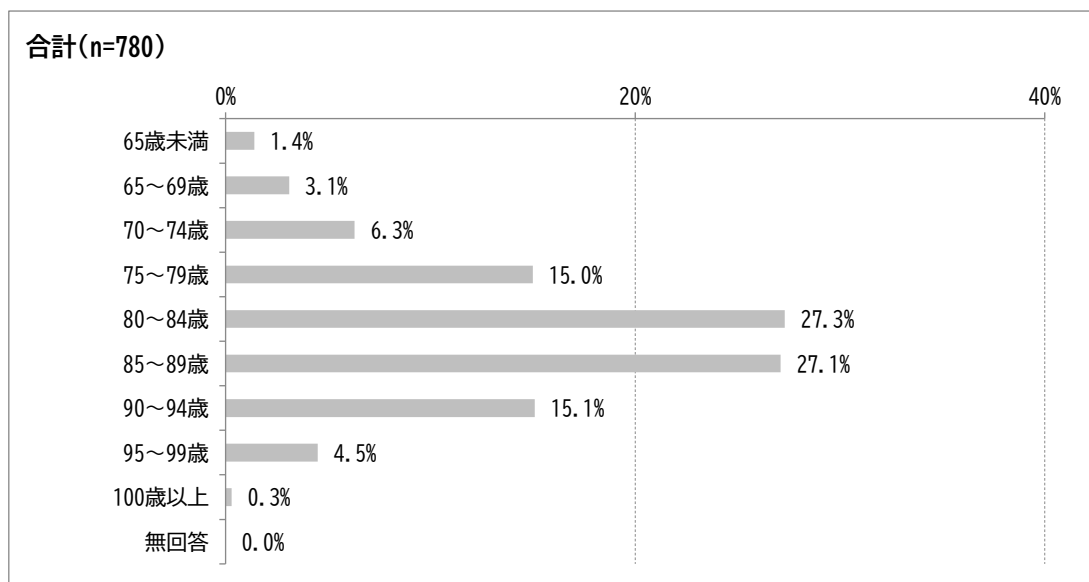


3. 要介護認定データ

(1) 年齢

「80～84歳」の割合が最も高く27.3%となっている。次いで、「85～89歳(27.1%)」「90～94歳(15.1%)」となっている。

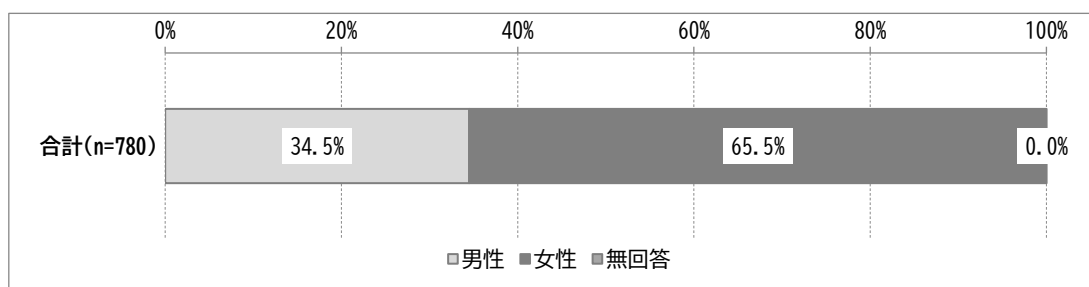
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「女性」の割合が最も高く65.5%となっている。次いで、「男性(34.5%)」となっている。

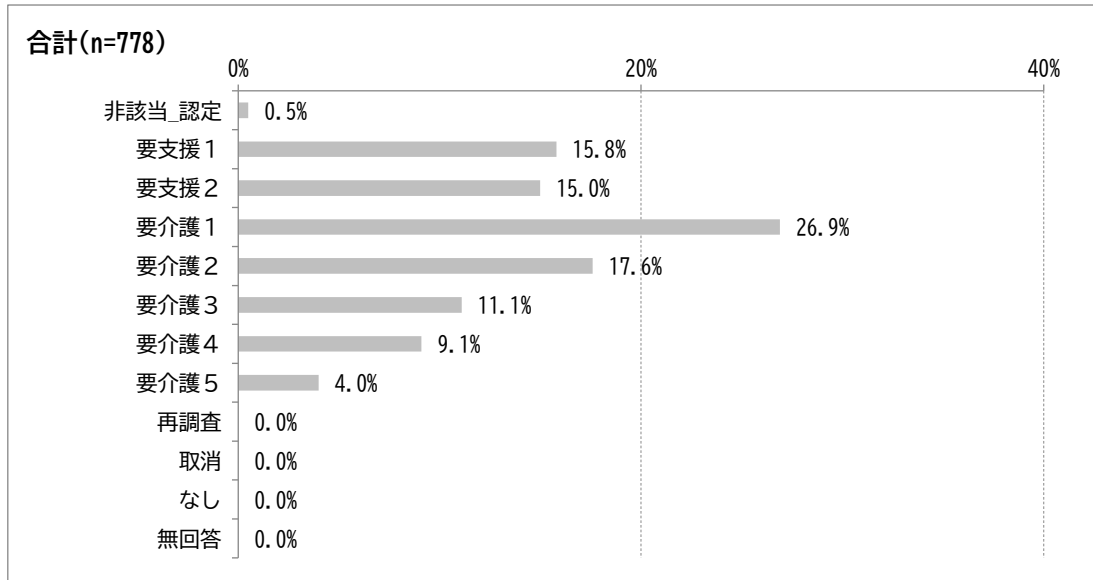
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果(要介護度)

「要介護1」の割合が最も高く 26.9%となっている。次いで、「要介護2(17.6%)」「要支援1(15.8%)」となっている。

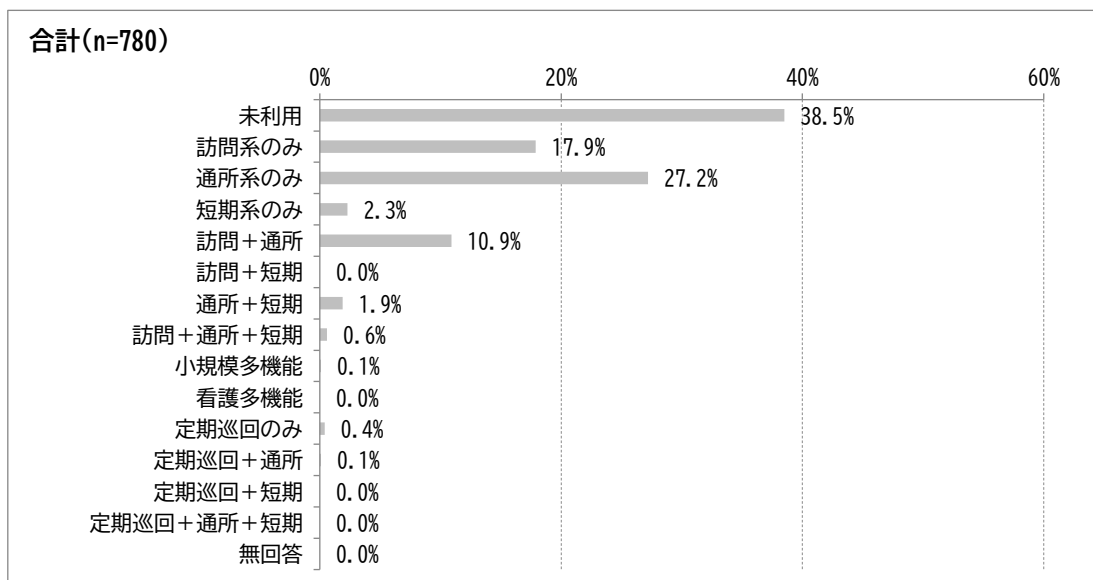
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「未利用」の割合が最も高く 38.5%となっている。次いで、「通所系のみ(27.2%)」「訪問系のみ(17.9%)」となっている。

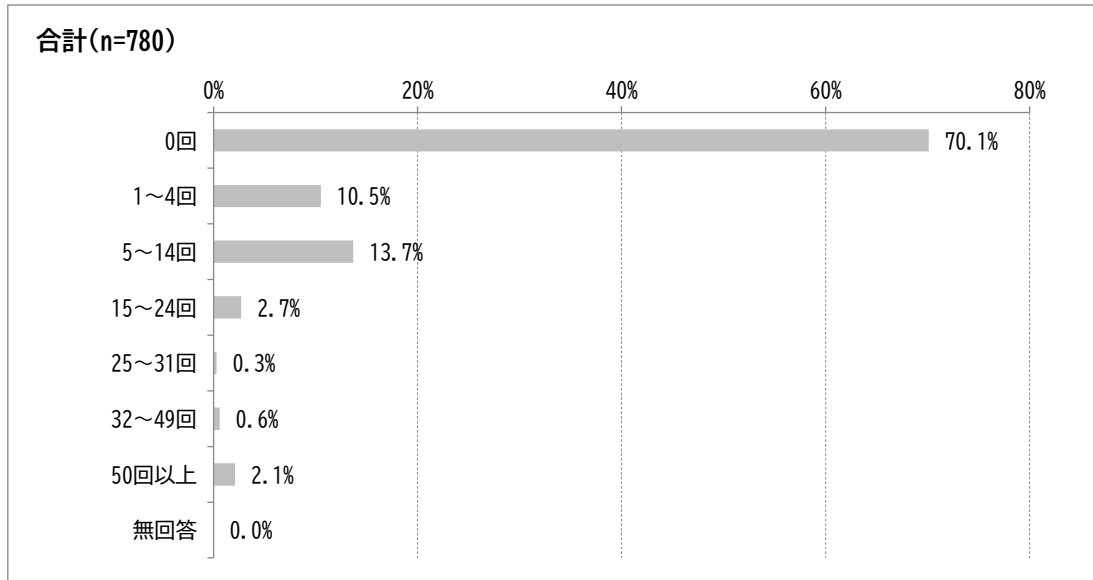
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く70.1%となっている。次いで、「5～14回(13.7%)」「1～4回(10.5%)」となっている。

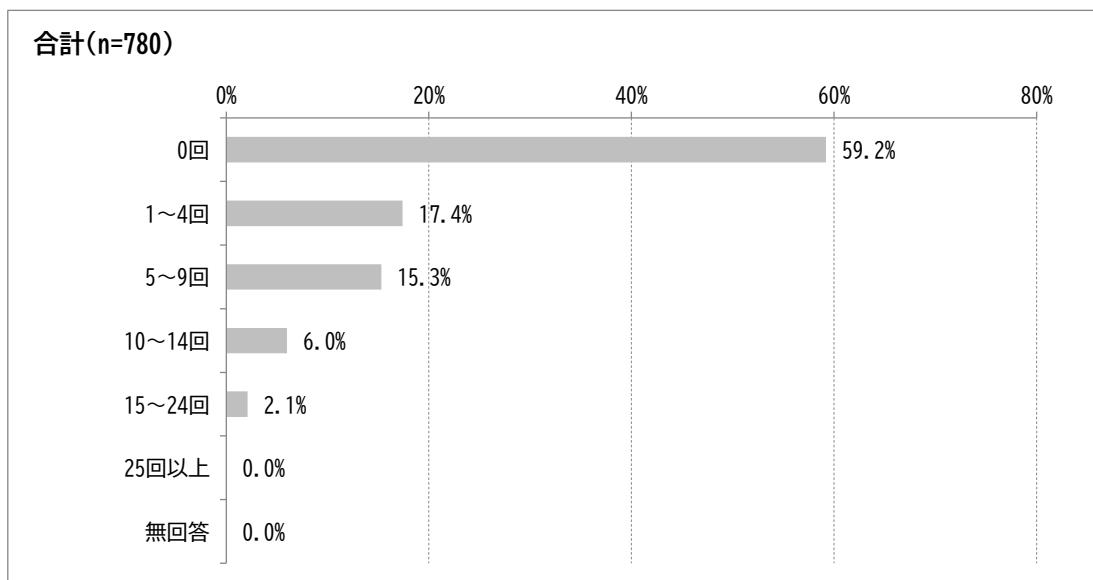
図表 3-5 サービスの利用回数(訪問系)



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く59.2%となっている。次いで、「1～4回(17.4%)」「5～9回(15.3%)」となっている。

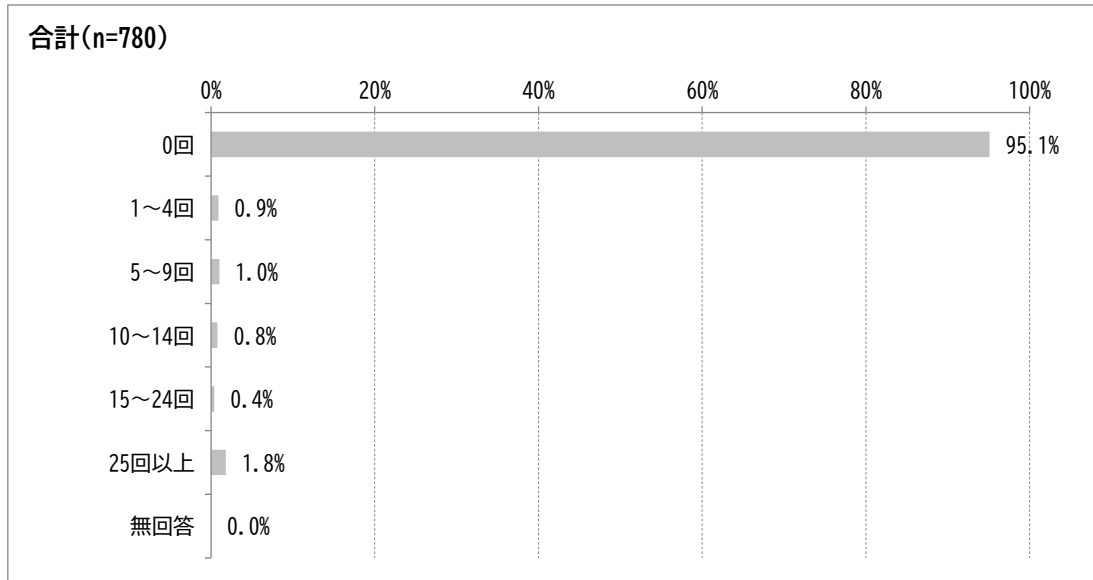
図表 3-6 サービスの利用回数(通所系)



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く95.1%となっている。次いで、「25回以上(1.8%)」「5～9回(1.0%)」となっている。

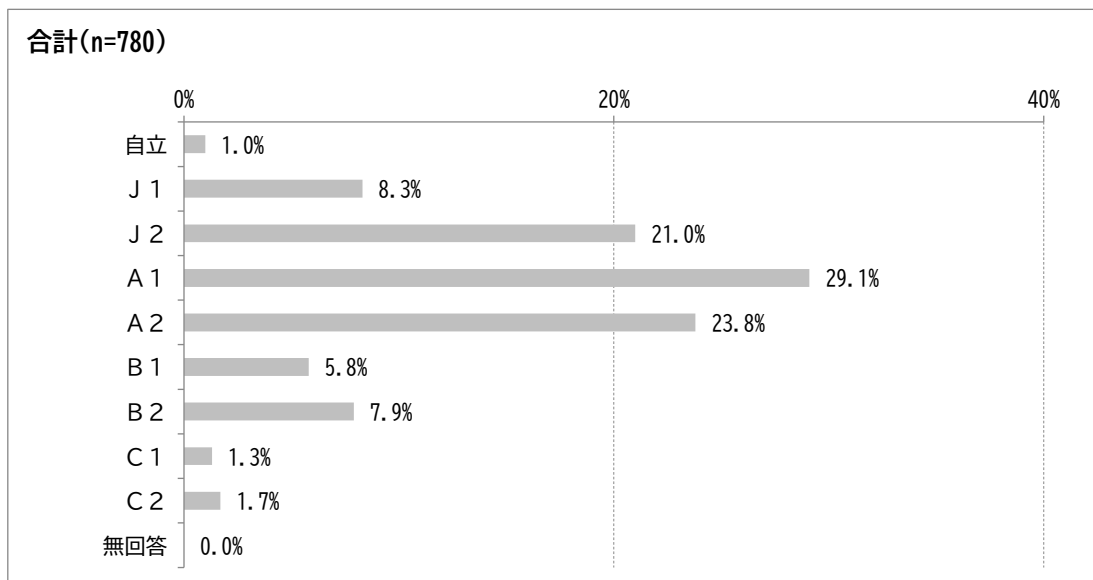
図表 3-7 サービスの利用回数(短期系)



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A1」の割合が最も高く29.1%となっている。次いで、「A2(23.8%)」「J2(21.0%)」となっている。

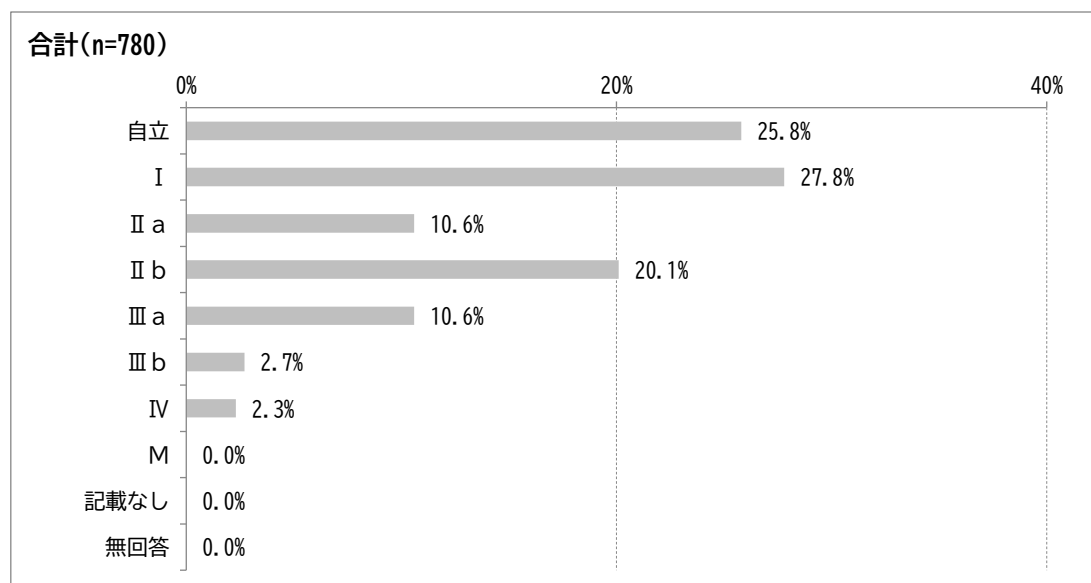
図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「I」の割合が最も高く27.8%となっている。次いで、「自立(25.8%)」「IIb(20.1%)」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



III. クロス集計

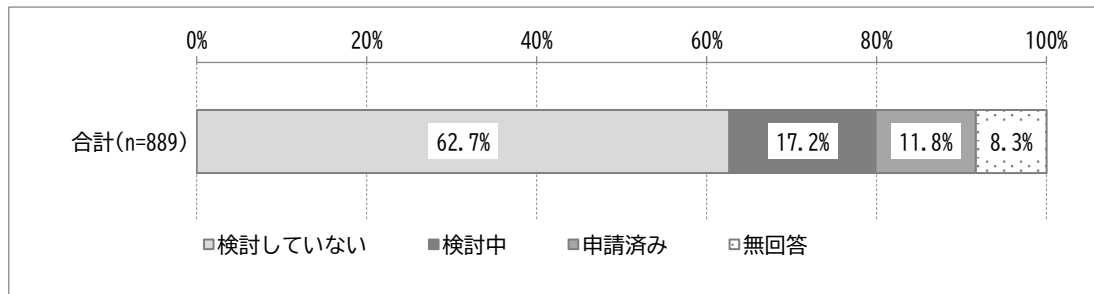
1. 介護保険事業計画の策定に向けた検討

(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く62.7%となっている。次いで、「検討中(17.2%)」「申請済み(11.8%)」となっている。

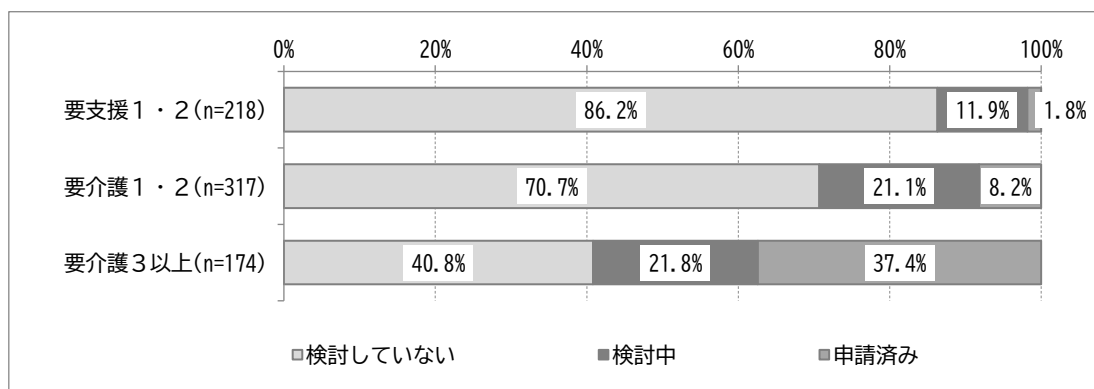
図表 1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が86.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.9%、「申請済み」が1.8%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が70.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.1%、「申請済み」が8.2%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が40.8%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が37.4%、「検討中」が21.8%となっている。

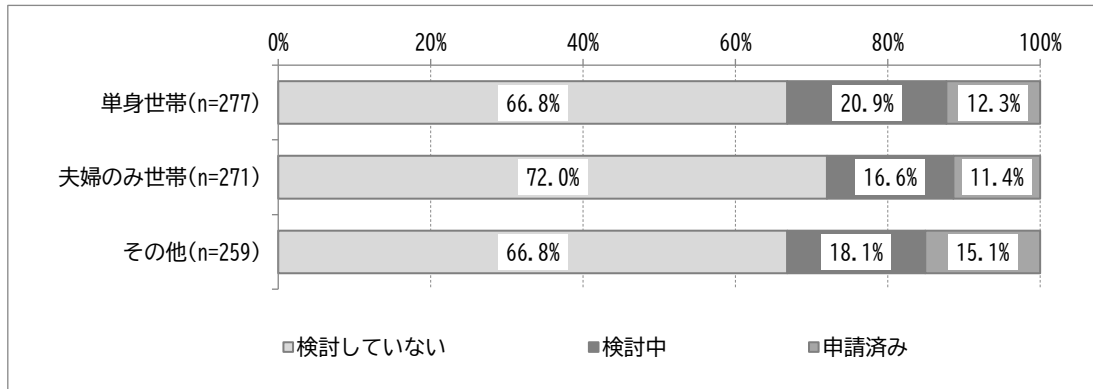
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が66.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.9%、「申請済み」が12.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が72.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.6%、「申請済み」が11.4%となっている。「その他」では「検討していない」が66.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.1%、「申請済み」が15.1%となっている。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況

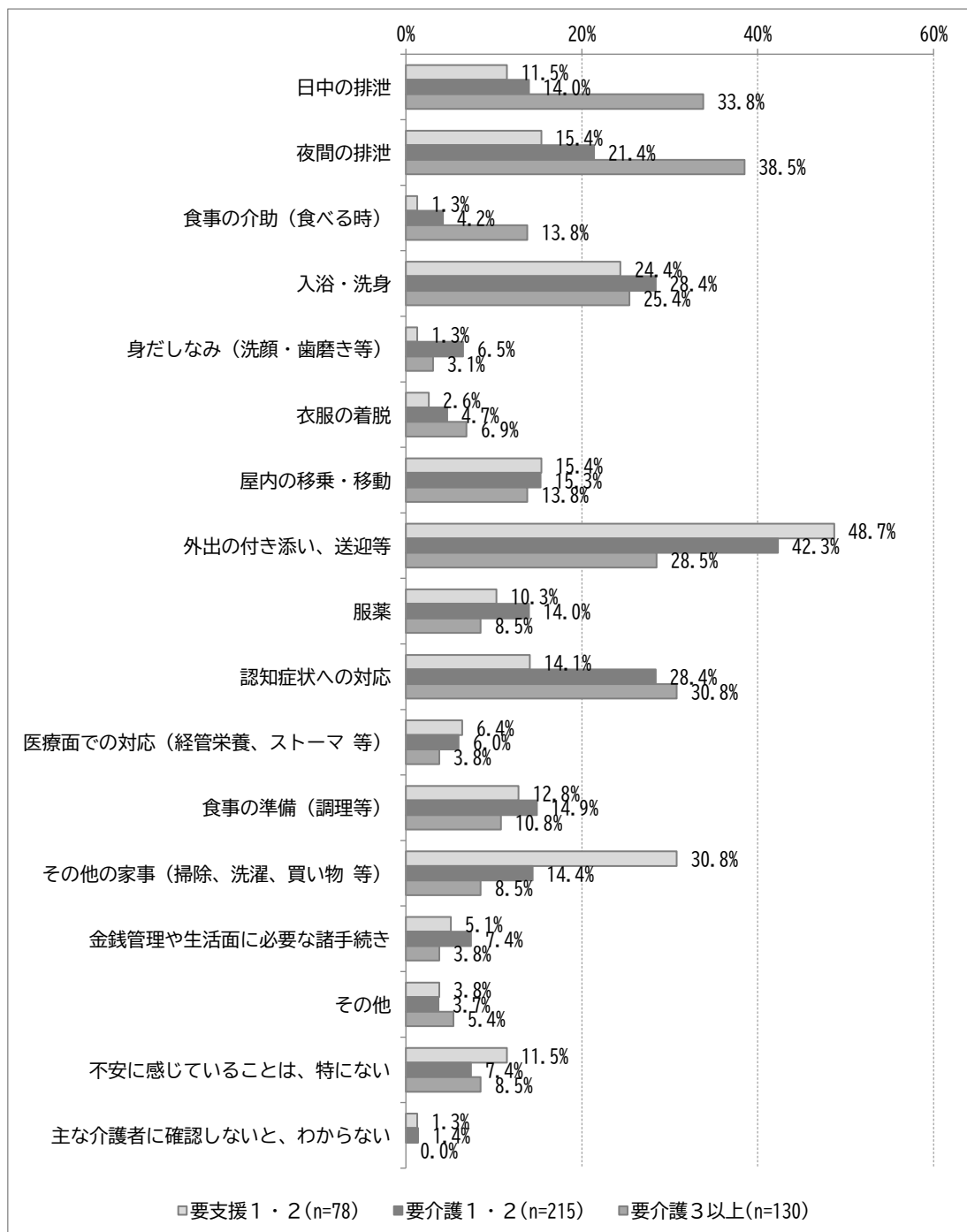


(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が48.7%と最も割合が高く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が30.8%、「入浴・洗身」が24.4%となっている。「要介護1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が42.3%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」「認知症状への対応」が28.4%、「夜間の排泄」が21.4%となっている。「要介護3以上」では「夜間の排泄」が38.5%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が33.8%、「認知症状への対応」が30.8%となっている。

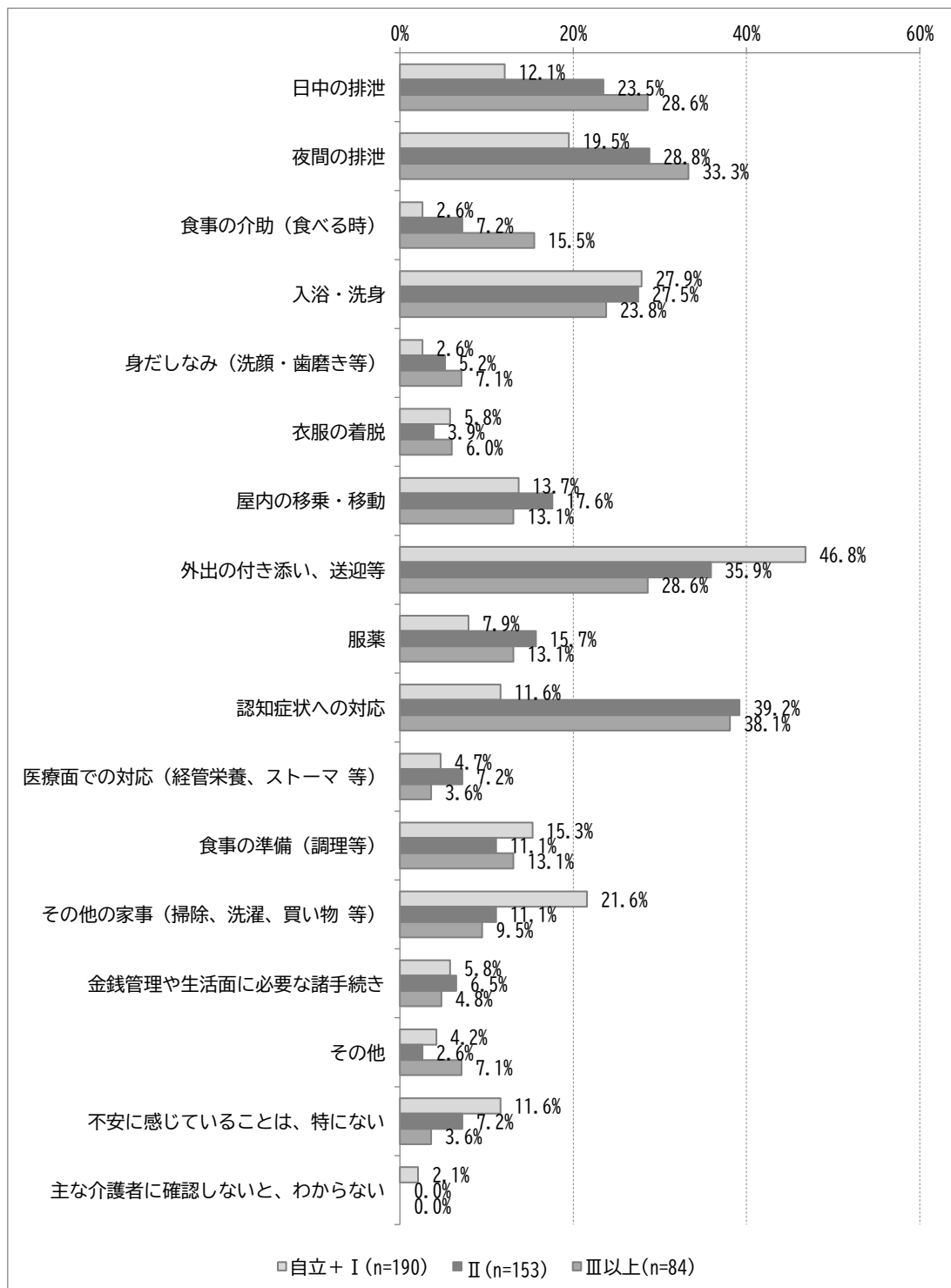
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が46.8%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が27.9%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が21.6%となっている。「Ⅱ」では「認知症状への対応」が39.2%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が35.9%、「夜間の排泄」が28.8%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が38.1%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が33.3%、「日中の排泄」「外出の付き添い、送迎等」が28.6%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護

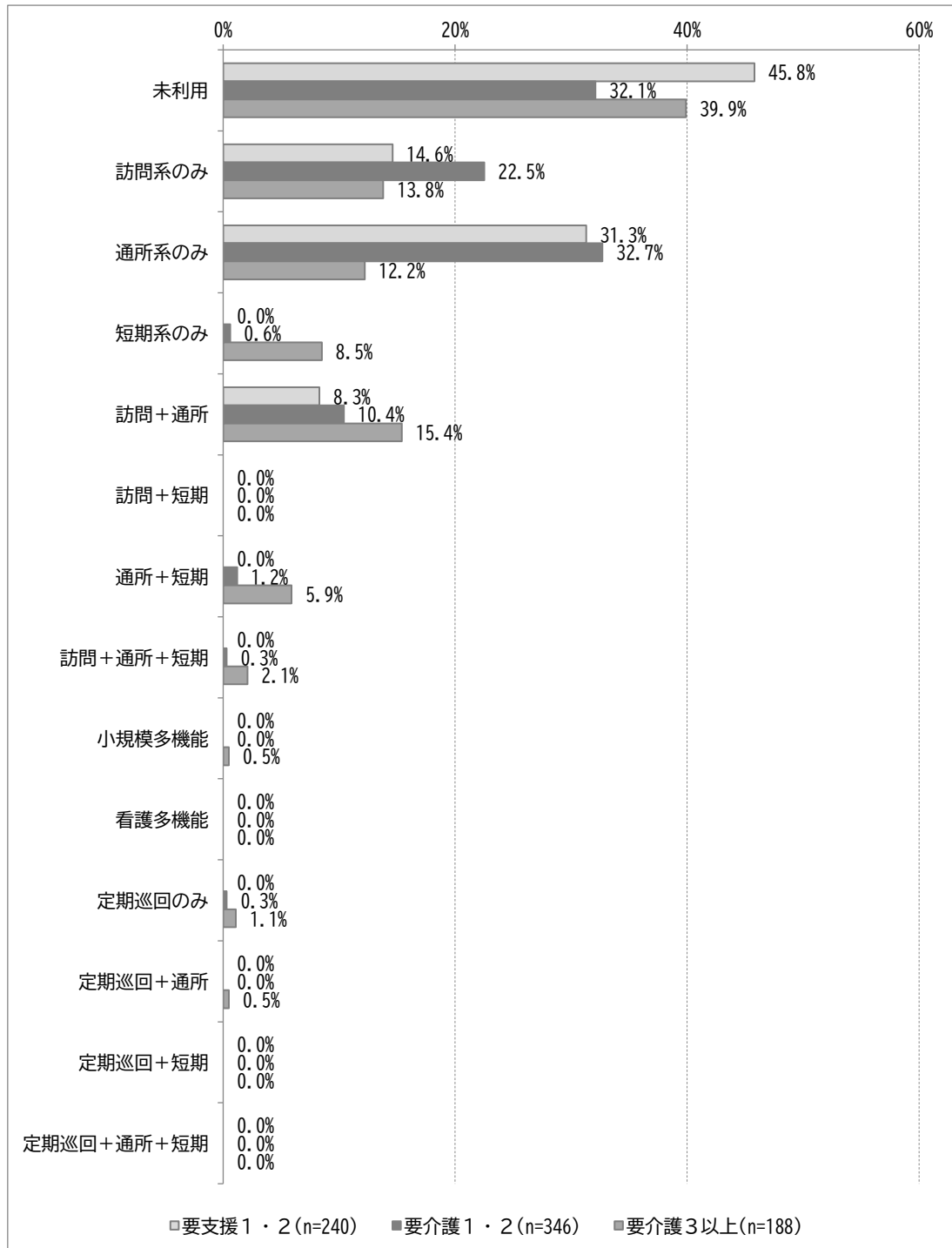


(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別に見ると、「要支援1・2」では「未利用」が45.8%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が31.3%、「訪問系のみ」が14.6%となっている。「要介護1・2」では「通所系のみ」が32.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が32.1%、「訪問系のみ」が22.5%となっている。「要介護3以上」では「未利用」が39.9%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が15.4%、「訪問系のみ」が13.8%となっている。

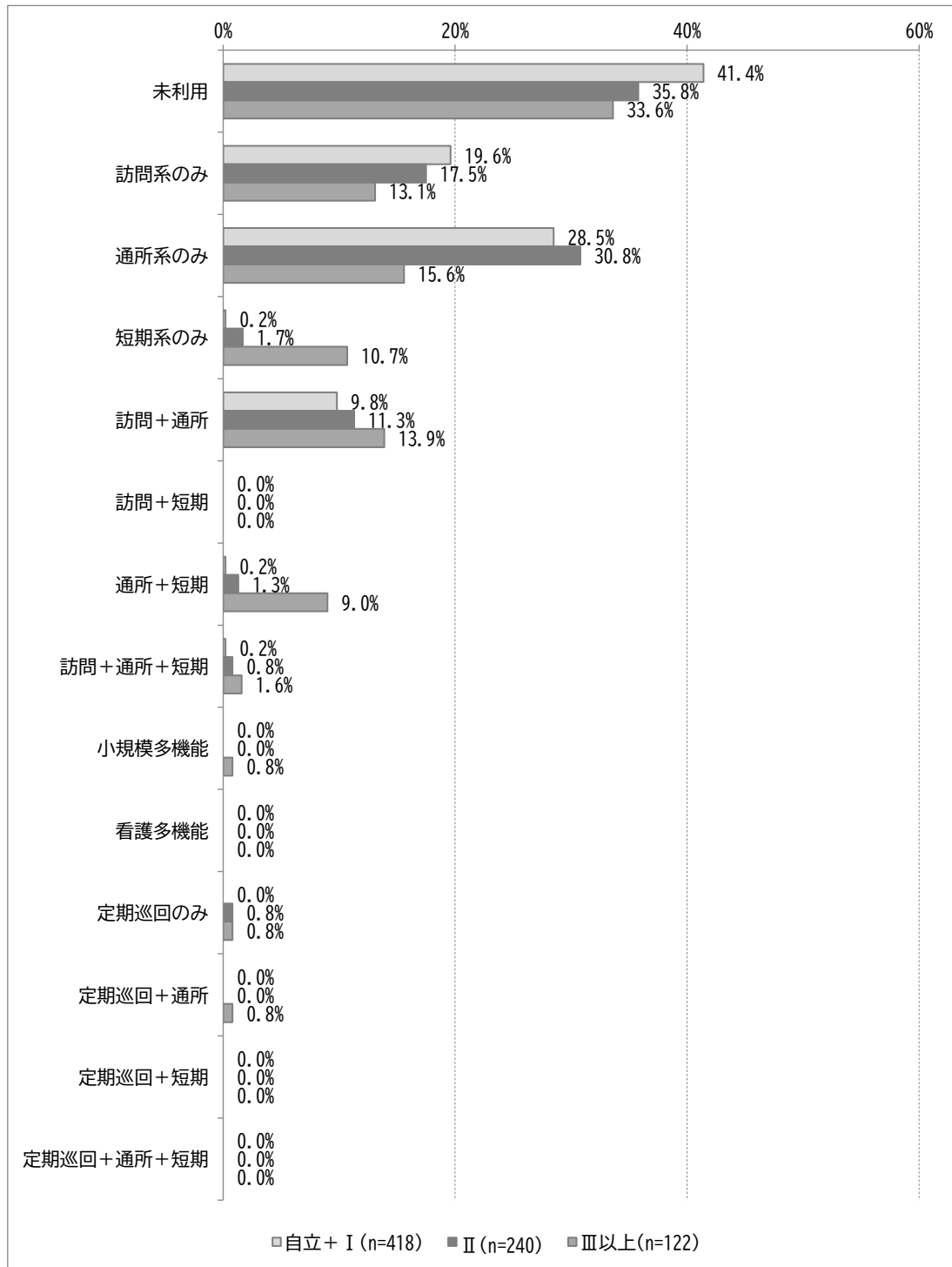
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「未利用」が41.4%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が28.5%、「訪問系のみ」が19.6%となっている。「Ⅱ」では「未利用」が35.8%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が30.8%、「訪問系のみ」が17.5%となっている。「Ⅲ以上」では「未利用」が33.6%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が15.6%、「訪問+通所」が13.9%となっている。

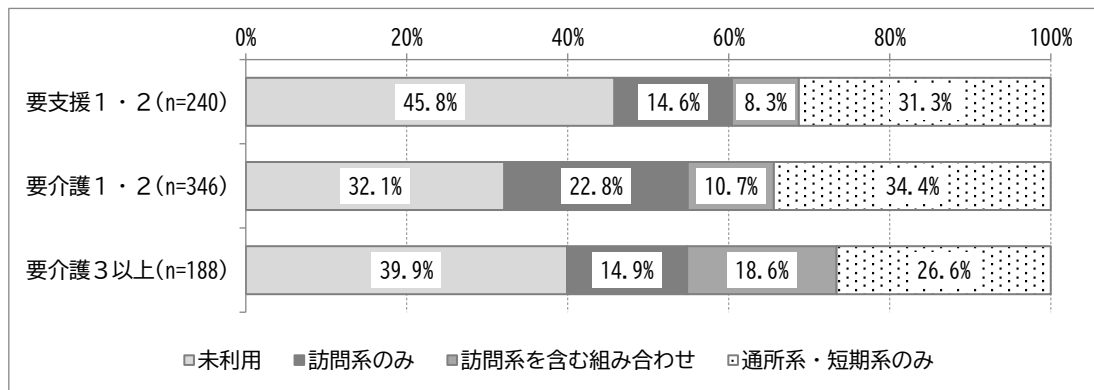
図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が45.8%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.3%、「訪問系のみ」が14.6%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が34.4%と最も割合が高く、次いで「未利用」が32.1%、「訪問系のみ」が22.8%となっている。「要介護3以上」では「未利用」が39.9%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が26.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.6%となっている。

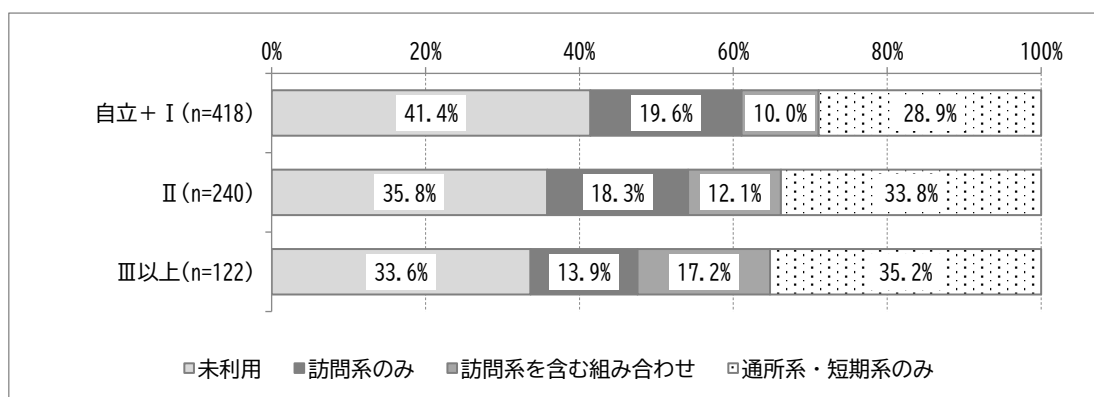
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「未利用」が41.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.9%、「訪問系のみ」が19.6%となっている。「II」では「未利用」が35.8%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.8%、「訪問系のみ」が18.3%となっている。「III以上」では「通所系・短期系のみ」が35.2%と最も割合が高く、次いで「未利用」が33.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が17.2%となっている。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ

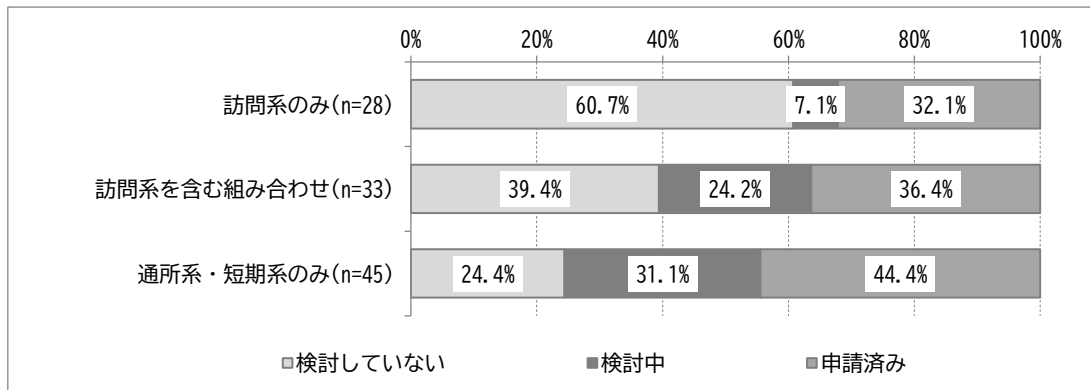


(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が60.7%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が32.1%、「検討中」が7.1%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が39.4%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が36.4%、「検討中」が24.2%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が44.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が31.1%、「検討していない」が24.4%となっている。

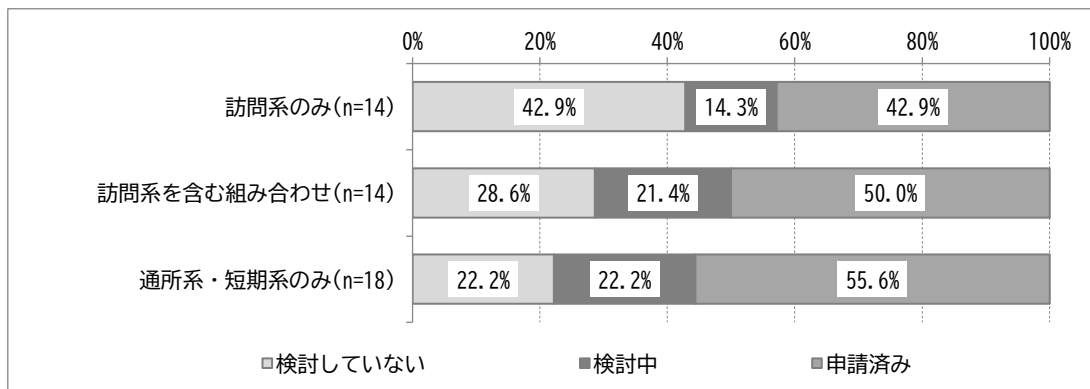
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」「申請済み」が42.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が14.3%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「申請済み」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が28.6%、「検討中」が21.4%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が55.6%と最も割合が高く、次いで「検討していない」、「検討中」が22.2%となっている。

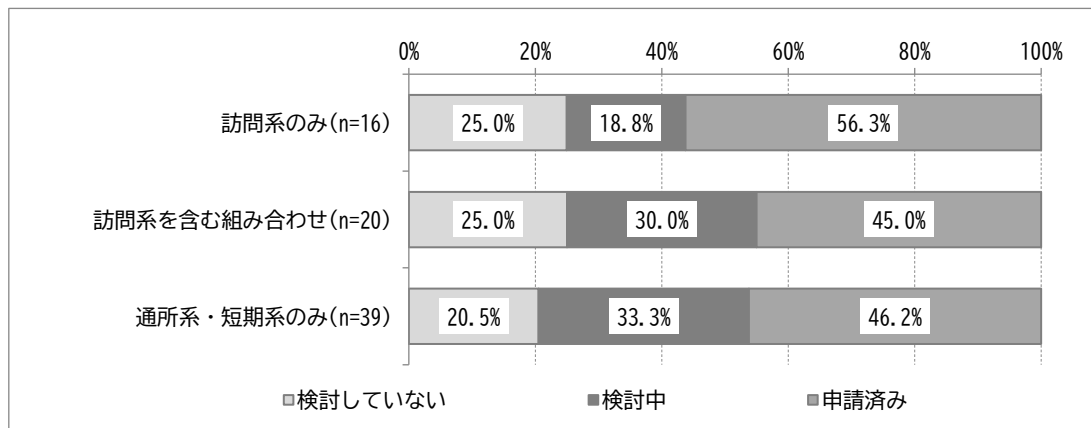
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「申請済み」が56.3%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が25.0%、「検討中」が18.8%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「申請済み」が45.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が30.0%、「検討していない」が25.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が46.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「検討していない」が20.5%となっている。

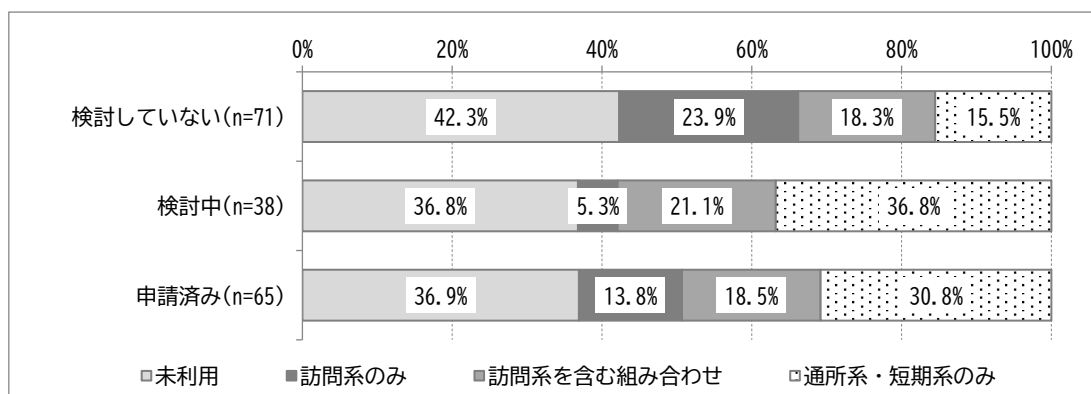
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「未利用」が42.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が23.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.3%となっている。「検討中」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が36.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が21.1%、「訪問系のみ」が5.3%となっている。「申請済み」では「未利用」が36.9%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.5%となっている。

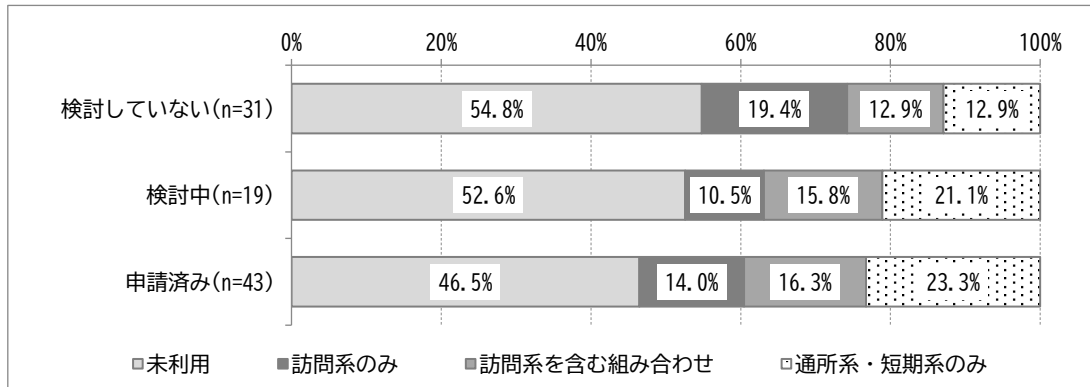
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「未利用」が54.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が19.4%、「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」が12.9%となっている。「検討中」では「未利用」が52.6%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が21.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が15.8%となっている。「申請済み」では「未利用」が46.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が23.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が16.3%となっている。

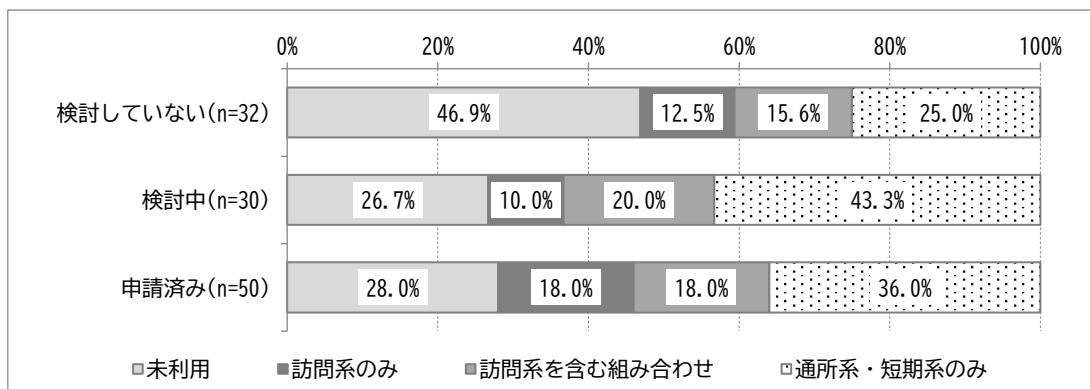
図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「未利用」が46.9%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が15.6%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が43.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が26.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が20.0%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が36.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が28.0%、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」が18.0%となっている。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)

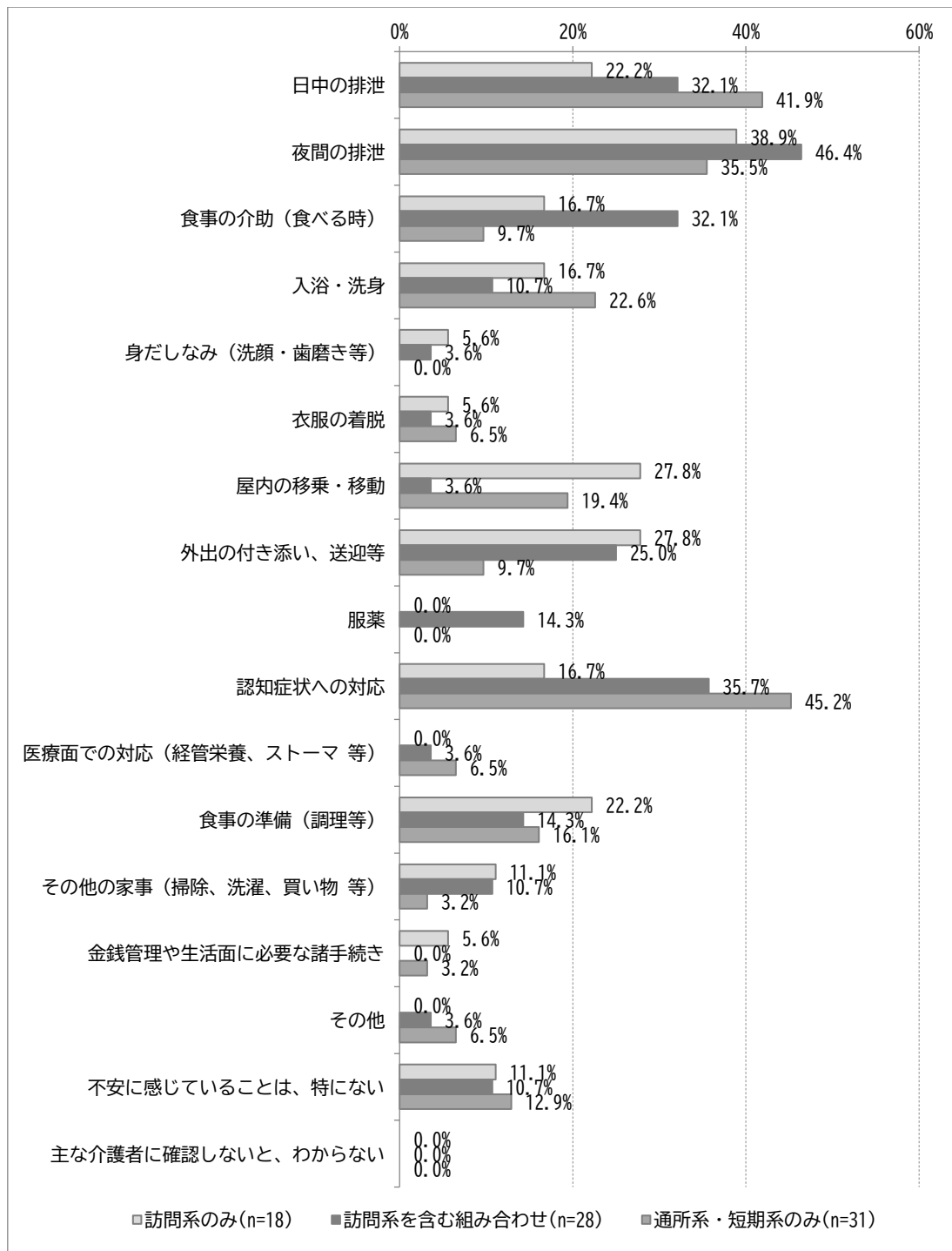


(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「夜間の排泄」が38.9%と最も割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」が27.8%、「日中の排泄」「食事の準備(調理等)」が22.2%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」が46.4%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が35.7%、「日中の排泄」「食事の介助(食べる時)」が32.1%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が45.2%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が41.9%、「夜間の排泄」が35.5%となっている。

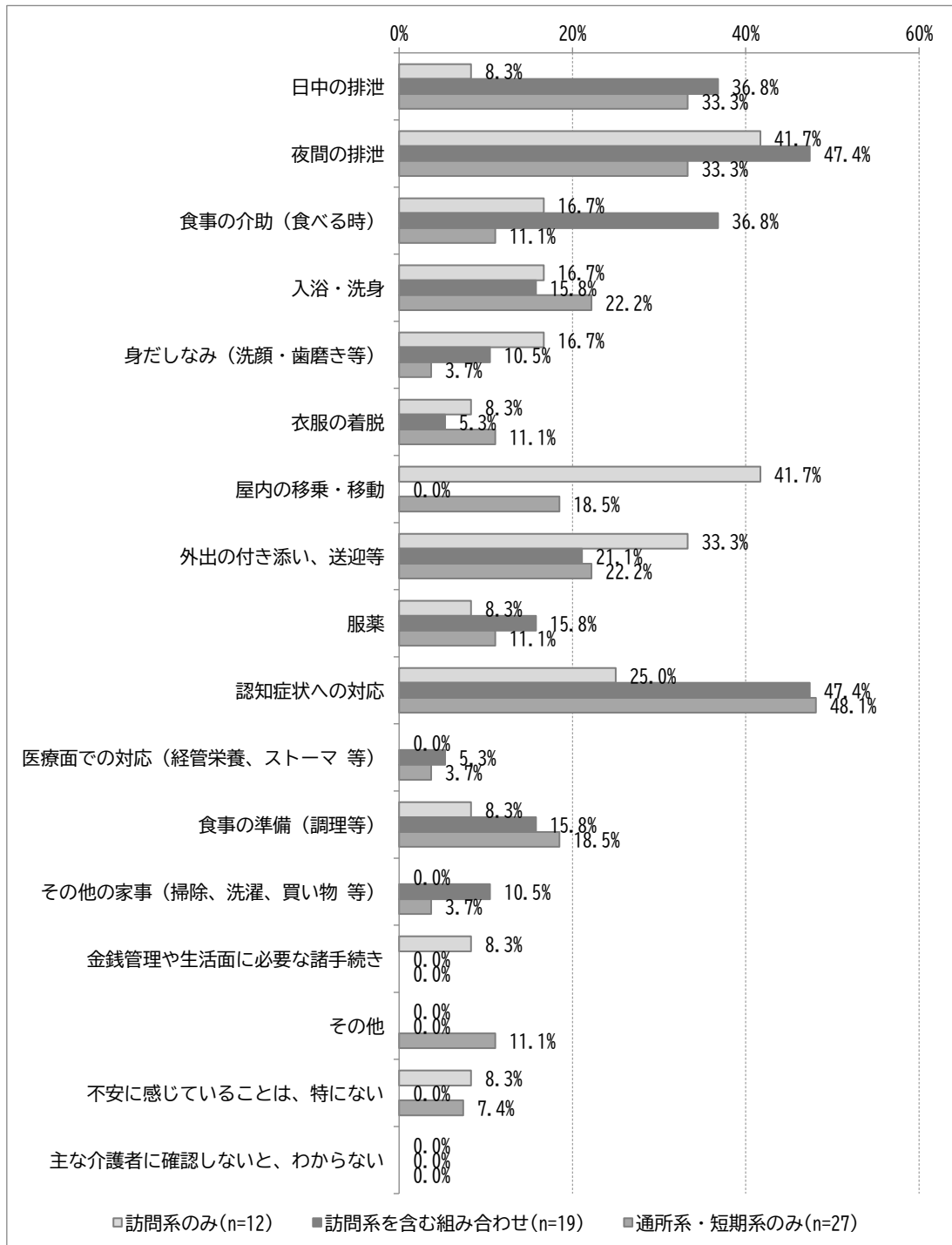
図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」が41.7%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が33.3%、「認知症状への対応」が25.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」「認知症状への対応」が47.4%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」「食事の介助(食べる時)」が36.8%、「外出の付き添い、送迎等」が21.1%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が48.1%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」「夜間の排泄」が33.3%、「入浴・洗身」「外出の付き添い、送迎等」が22.2%となっている。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(認知症Ⅲ以上)

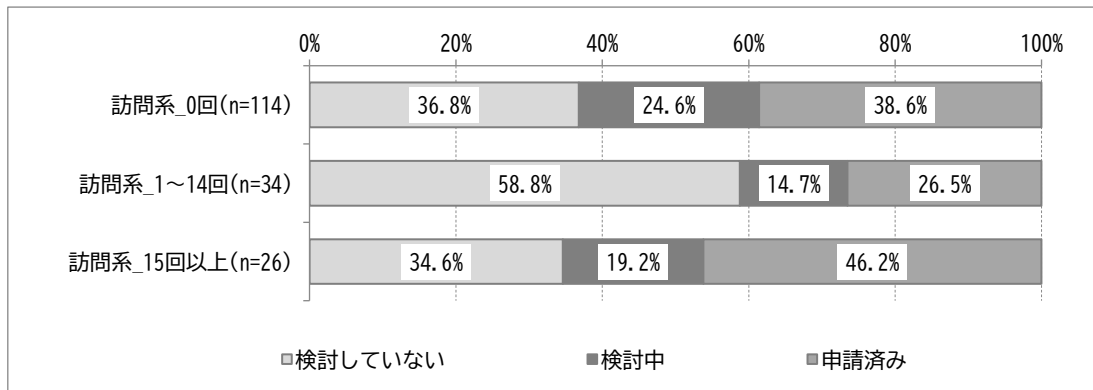


(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「申請済み」が38.6%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が36.8%、「検討中」が24.6%となっている。「訪問系_1~14回」では「検討していない」が58.8%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が26.5%、「検討中」が14.7%となっている。「訪問系_15回以上」では「申請済み」が46.2%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が34.6%、「検討中」が19.2%となっている。

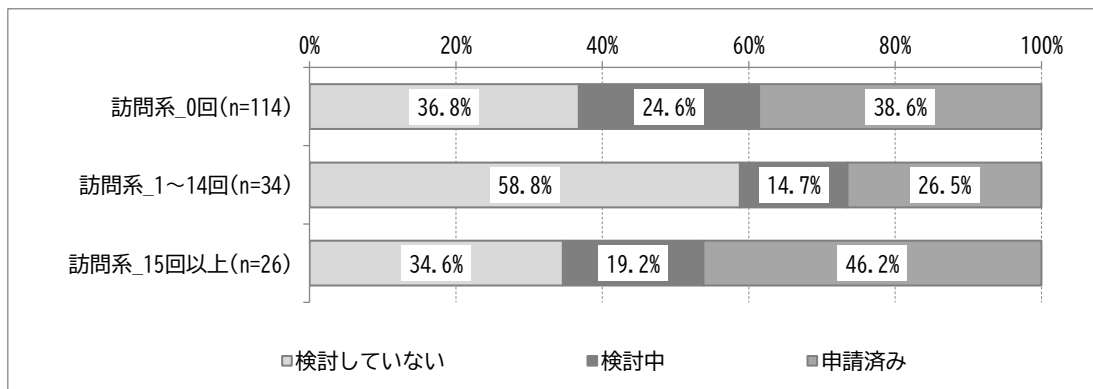
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「申請済み」が38.6%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が36.8%、「検討中」が24.6%となっている。「訪問系_1~14回」では「検討していない」が58.8%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が26.5%、「検討中」が14.7%となっている。「訪問系_15回以上」では「申請済み」が46.2%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が34.6%、「検討中」が19.2%となっている。

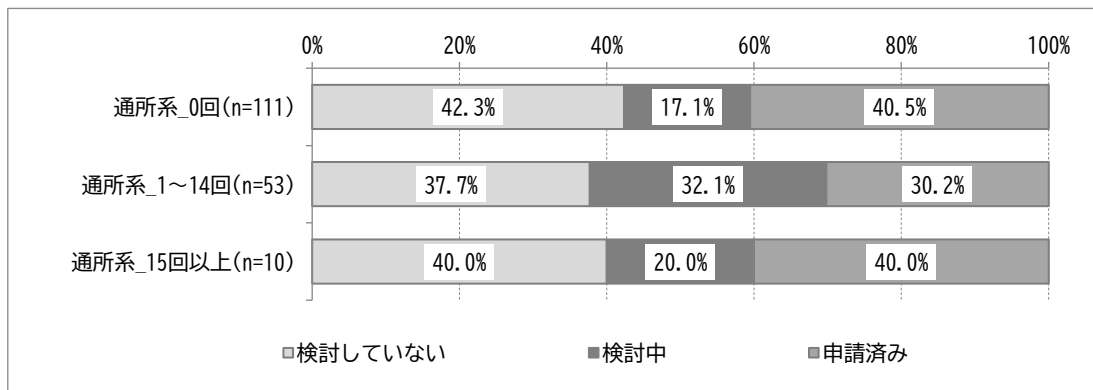
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況(訪問系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が42.3%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が40.5%、「検討中」が17.1%となっている。「通所系_1~14回」では「検討していない」が37.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が32.1%、「申請済み」が30.2%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」「申請済み」が40.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっている。

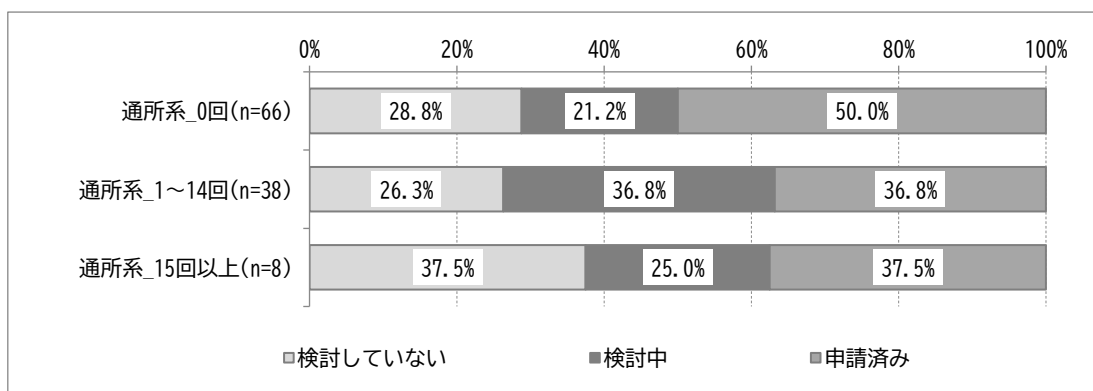
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「申請済み」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が28.8%、「検討中」が21.2%となっている。「通所系_1~14回」では「検討中」「申請済み」が36.8%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が26.3%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」「申請済み」が37.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%となっている。

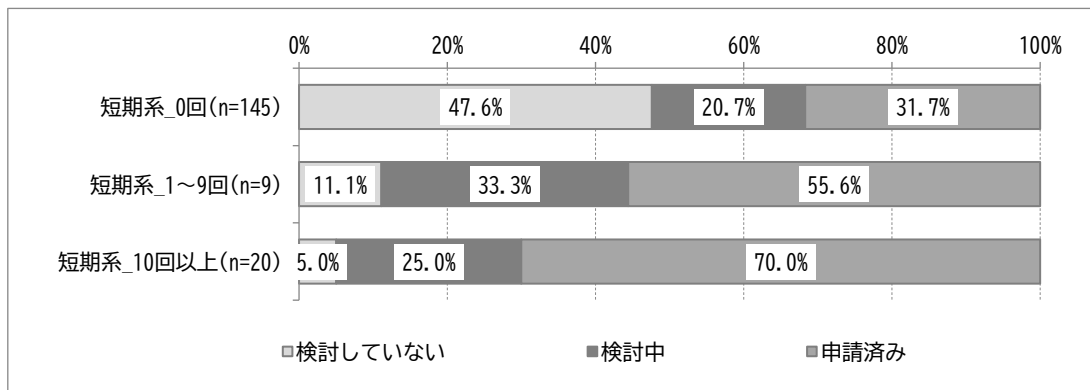
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況(通所系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が47.6%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が31.7%、「検討中」が20.7%となっている。「短期系_1～9回」では「申請済み」が55.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「検討していない」が11.1%となっている。「短期系_10回以上」では「申請済み」が70.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「検討していない」が5.0%となっている。

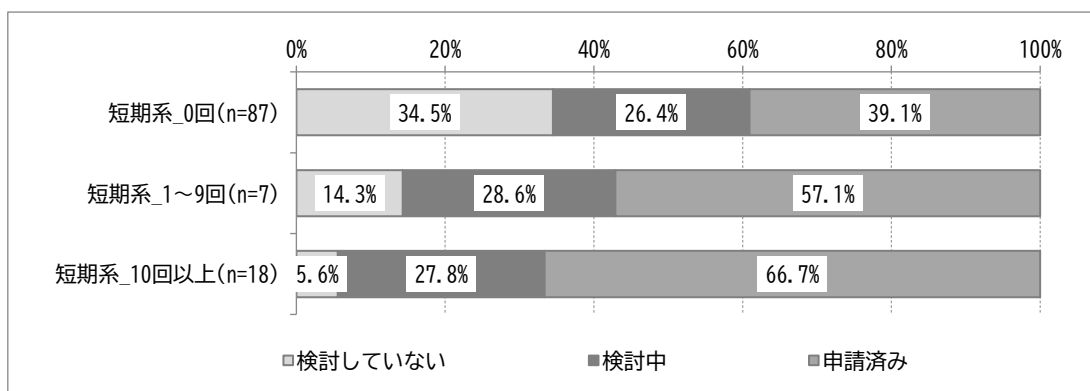
図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、要介護3以上)



【サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「申請済み」が39.1%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が34.5%、「検討中」が26.4%となっている。「短期系_1～9回」では「申請済み」が57.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.6%、「検討していない」が14.3%となっている。「短期系_10回以上」では「申請済み」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.8%、「検討していない」が5.6%となっている。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況(短期系、認知症Ⅲ以上)

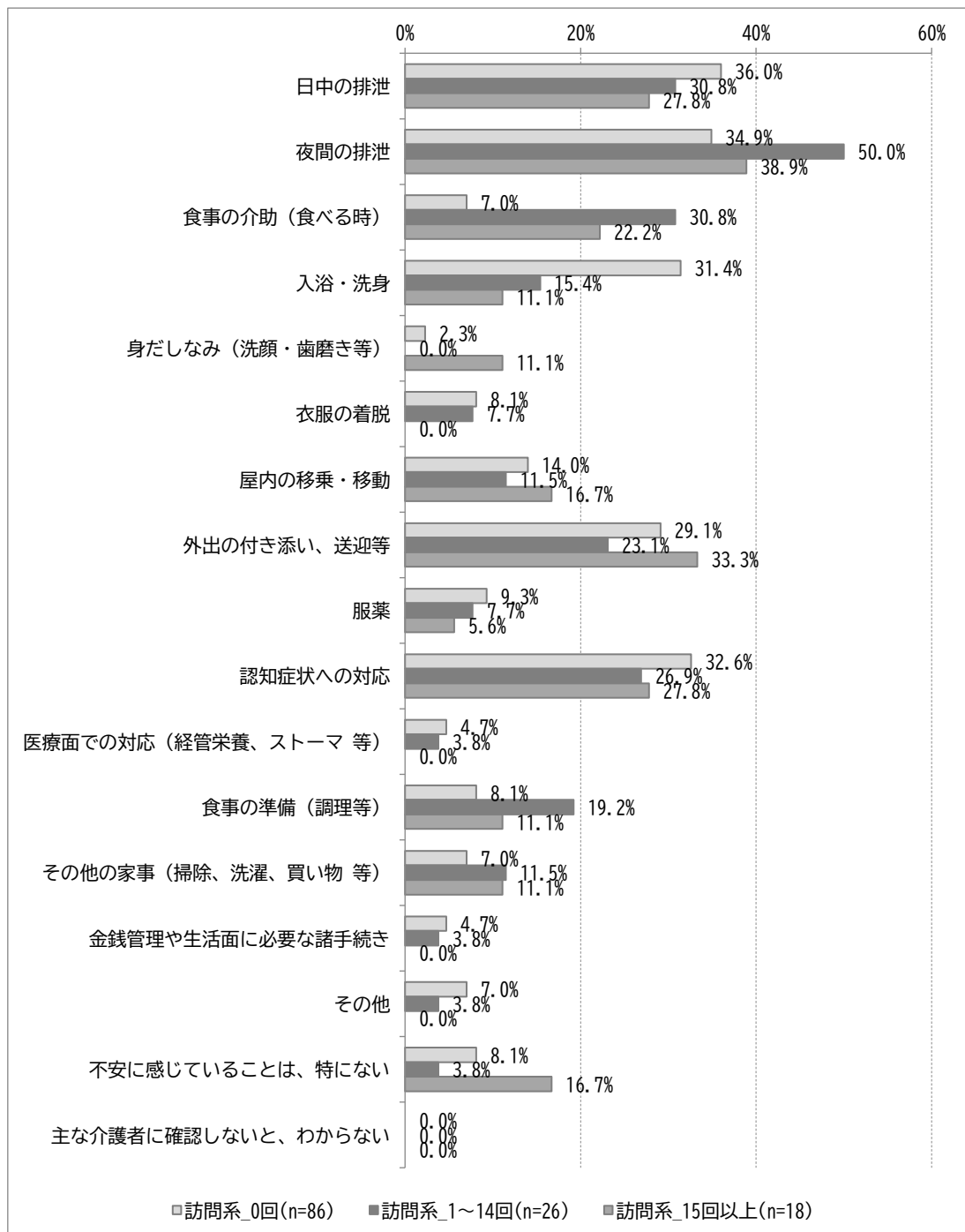


(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安を感じる介護」の関係

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「日中の排泄」が36.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が34.9%、「認知症状への対応」が32.6%となっている。「訪問系_1～14回」では「夜間の排泄」が50.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」「食事の介助(食べる時)」が30.8%、「認知症状への対応」が26.9%となっている。「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」が38.9%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が33.3%、「日中の排泄」「認知症状への対応」が27.8%となっている。

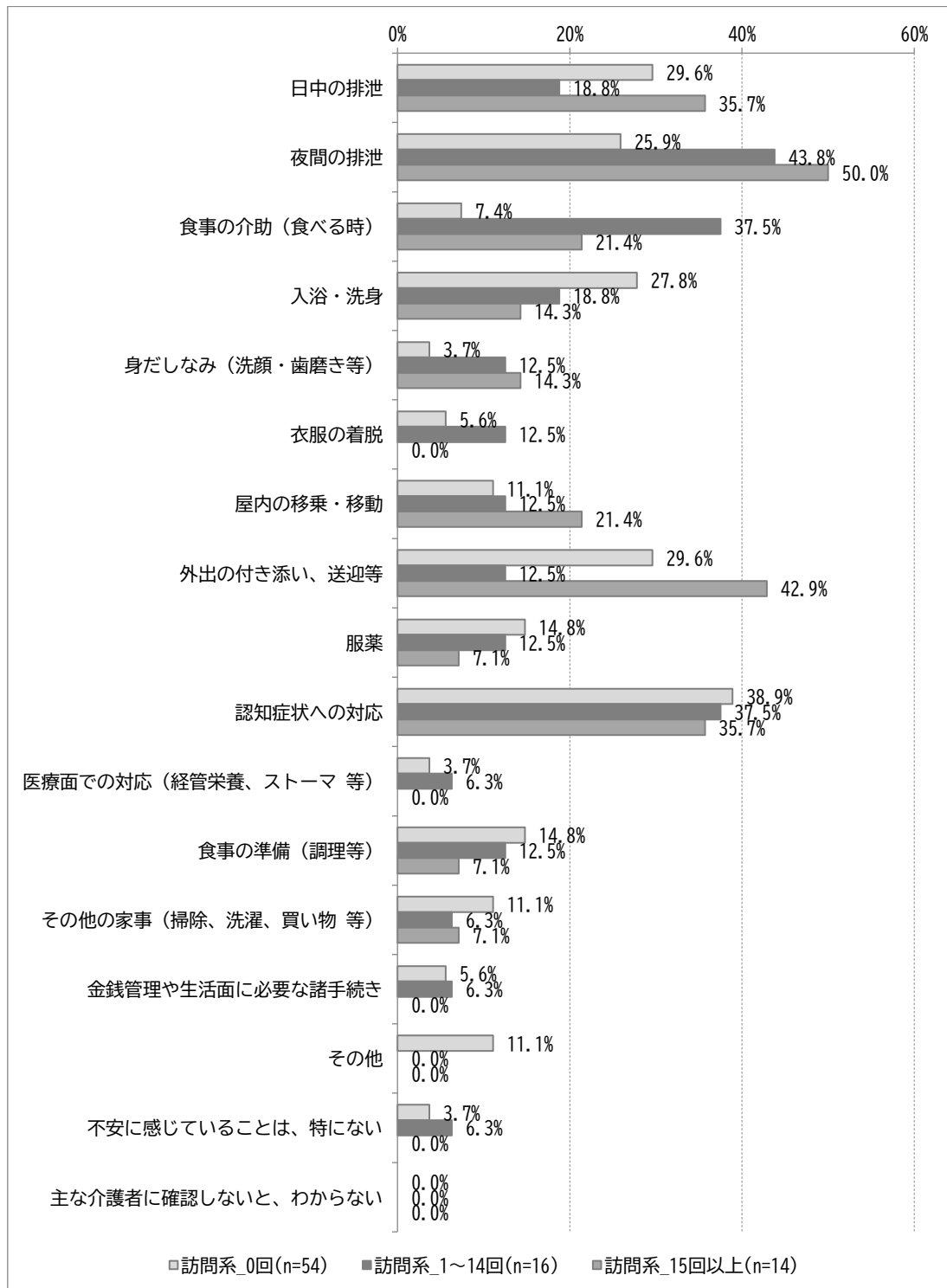
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が38.9%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」「外出の付き添い、送迎等」が29.6%、「入浴・洗身」が27.8%となっている。「訪問系_1～14回」では「夜間の排泄」が43.8%と最も割合が高く、次いで「食事の介助(食べる時)」「認知症状への対応」が37.5%、「日中の排泄」「入浴・洗身」が18.8%となっている。「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」が50.0%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が42.9%、「日中の排泄」「認知症状への対応」が35.7%となっている。

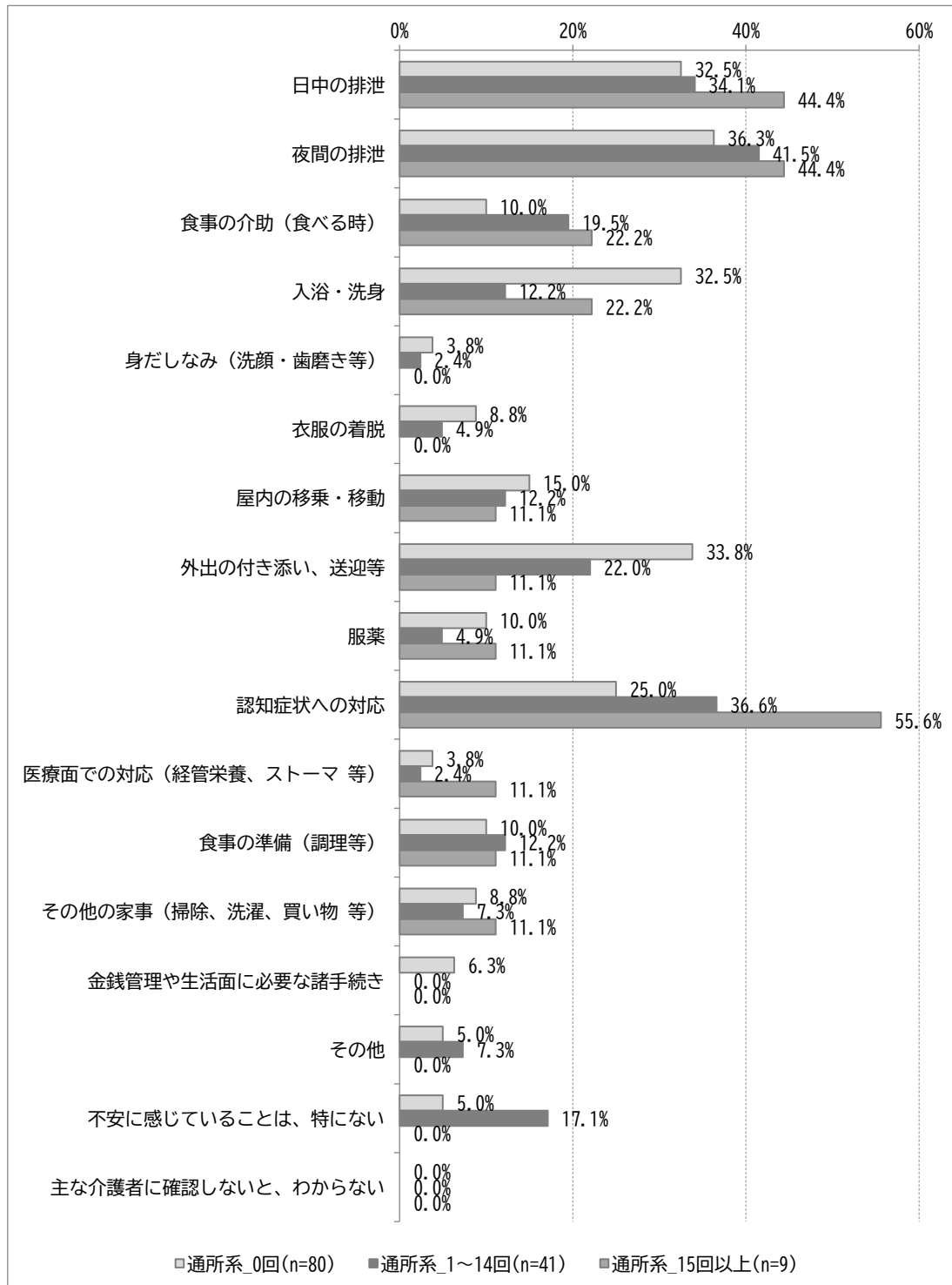
図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(訪問系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「夜間の排泄」が36.3%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が33.8%、「日中の排泄」「入浴・洗身」が32.5%となっている。「通所系_1～14回」では「夜間の排泄」が41.5%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が36.6%、「日中の排泄」が34.1%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が55.6%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」「夜間の排泄」が44.4%、「食事の介助(食べる時)」「入浴・洗身」が22.2%となっている。

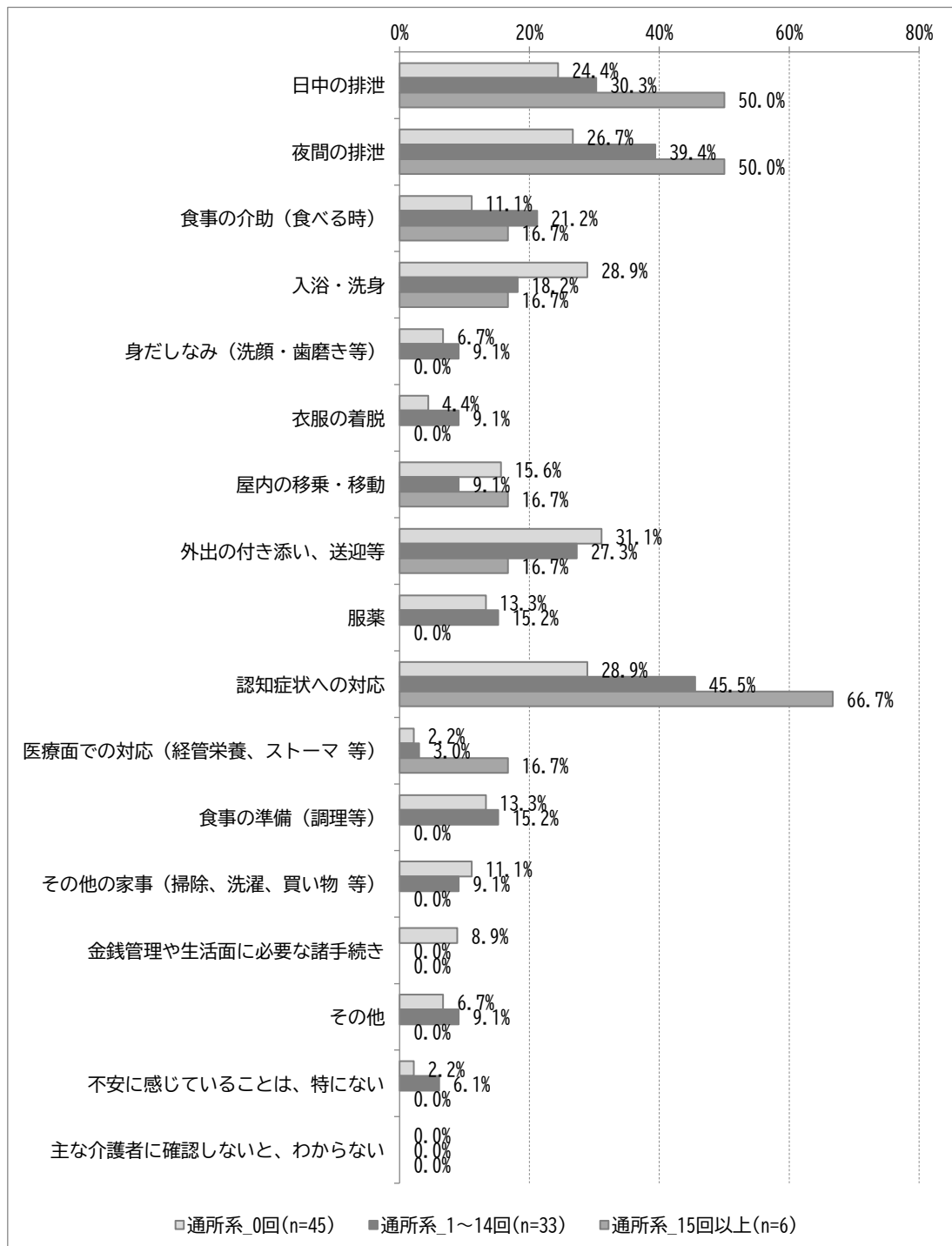
図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「外出の付き添い、送迎等」が31.1%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」「認知症状への対応」が28.9%、「夜間の排泄」が26.7%となっている。「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」が45.5%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が39.4%、「日中の排泄」が30.3%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が66.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」「夜間の排泄」が50.0%、「食事の介助(食べる時)」「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」が16.7%となっている。

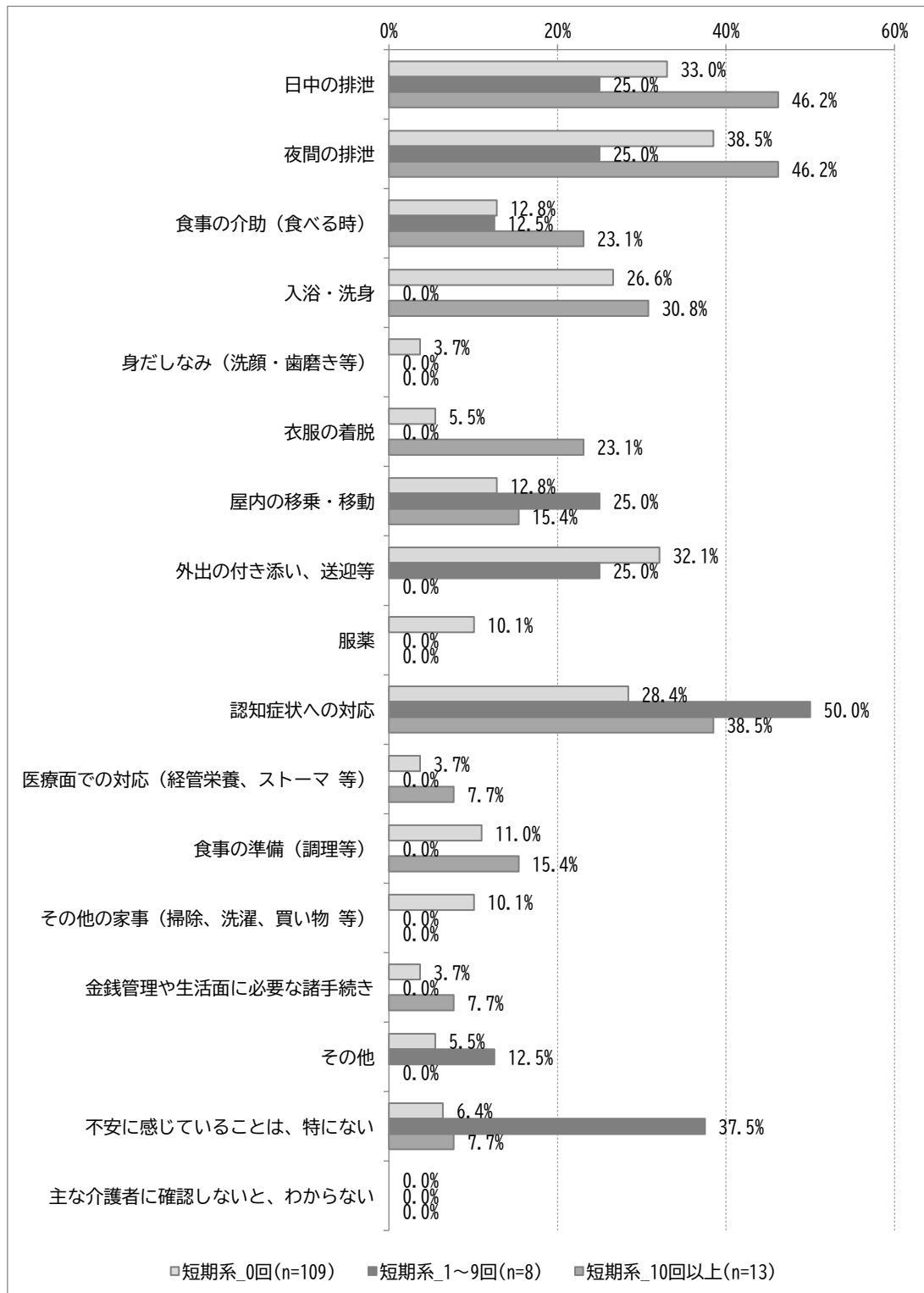
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「夜間の排泄」が38.5%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が33.0%、「外出の付き添い、送迎等」が32.1%となっている。「短期系_1~9回」では「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「不安に感じていることは、特にない」が37.5%、「日中の排泄」「夜間の排泄」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」が25.0%となっている。「短期系_10回以上」では「日中の排泄」「夜間の排泄」が46.2%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が38.5%、「入浴・洗身」が30.8%となっている。

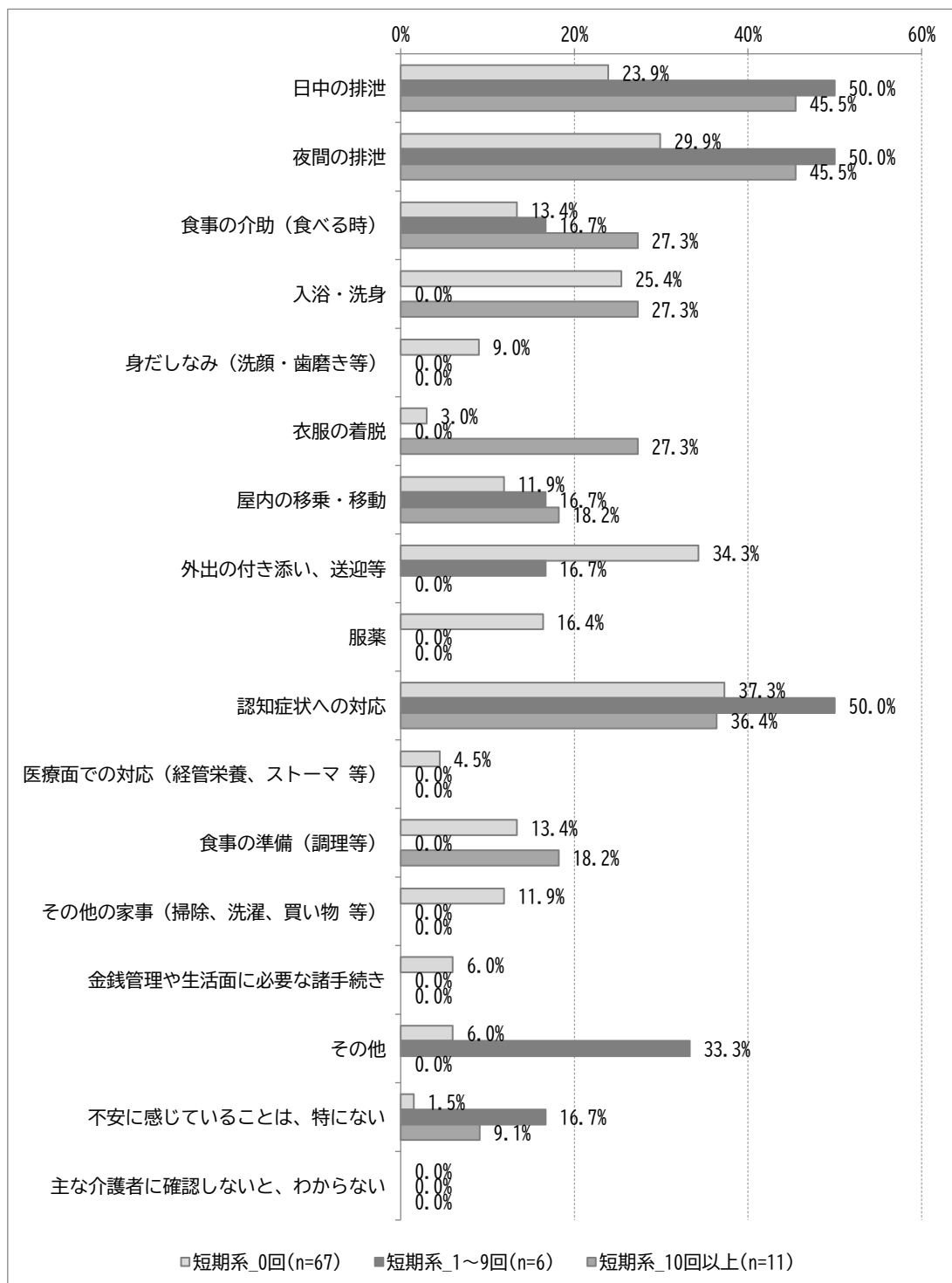
図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、要介護3以上)



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が37.3%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が34.3%、「夜間の排泄」が29.9%となっている。「短期系_1～9回」では「日中の排泄」「夜間の排泄」「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が33.3%、「食事の介助(食べる時)」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」「不安に感じていることは、特にない」が16.7%となっている。「短期系_10回以上」では「日中の排泄」「夜間の排泄」が45.5%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が36.4%、「食事の介助(食べる時)」「入浴・洗身」「衣服の着脱」が27.3%となっている。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(短期系、認知症Ⅲ以上)



(8) 在宅生活の維持に向けた支援・サービス提供体制に関する考察

① 施設入所を検討するきっかけ

- より手厚いサポートが必要となる段階と在宅生活継続に向けた課題
調査結果では、施設入所を「申請済み」とする割合は、要介護1・2では 8.2%ですが、要介護3以上では 37.4%へと大きく増えています。要介護3は、心身のケアにおける家族の負担が高まる段階です。市としては、この時期に適切な支援を届けることが、住み慣れた家で一日でも長く暮らすための鍵になると考えています。
- 多世代で暮らす世帯における支え合いの課題
施設入所を「検討していない」割合は夫婦のみ世帯(72.0%)が最も高い一方で、「申請済み」の割合が最も高いのは同居家族がいる世帯(15.1%)です。これは、同居していることで「家族が介護するのが当たり前」という期待が集まりやすく、特定の介護者に負担が偏っている現状を示しています。こうした世帯では、状況の変化によって家族だけで支え続けることが難しくなる可能性があるため、早期の支援が必要です。

② 介護をされる方の不安の分析

- 身体状況の変化による不安内容の変化
要支援の方の家族の主な不安は「外出の付き添い(48.7%)」ですが、身体状況の変化によって不安の内容は変化します。要介護3以上では「夜間の排泄(38.5%)」、認知症の症状が重い方では「認知症状への対応(38.1%)」が最大の不安要因となっています。特に「夜間の排泄」の介助は、家族の睡眠を妨げ、心身ともに大きな負担を招く要因となります。
- 医療的なケアが必要な場合の影響
「医療面での対応(チューブからの栄養補給など)」への不安は、全体としては多くありません。しかし、認知症があり、訪問サービスを多く利用している方の家族の 16.7%が不安を抱えています。医療的なケアが必要な場合、在宅生活を続ける上での大きな負担になりやすいため、慎重に見守る必要があります。

③ サービスの利用方法と在宅生活の継続

- 訪問サービスの安心感
要介護3以上の方でも、訪問サービスを中心に利用している場合は、施設入所を「検討していない」割合が 60.7%と高くなっています。これは、住み慣れた家で専門職の支援を受けることが、本人と家族の「家での生活を続けられる」という安心感につながっている例と言えます。
- デイサービスやショートステイ利用時の状況
一方で、デイサービスやショートステイのみを利用している方は、要介護3以上になると施設入所を「申請済み」の割合が 44.4%になっています。レスパイト(休息)目的のサービスを多く必要とする時期は、すでに在宅生活の維持が難しくなり、施設への移行を考え始めている段階と考えられます。

④ サービスの利用回数とこれからの生活

- 訪問サービスの回数と生活の状況

訪問サービスの回数が月に 1～14 回の方は、在宅生活を続けたい意向が強い一方、15 回以上になると施設利用を申請する割合が増えています。サービス回数をただ増やすだけでなく、本人の状態に合わせた最適な支援を検討することが重要です。

- ショートステイの頻繁な利用が示すこと

最も顕著な変化はショートステイ利用回数に見られ、利用が月に 10 回以上となると、施設への申請率が 70.0%になっています。ショートステイを頻繁に利用せざるを得ない状況は、現在の在宅生活を維持するための課題が顕著に表れていると言えます。

⑤ 自宅での生活を長く続けるための施策の方向性

- 一人ひとりに合った支援

状態が重度化しても訪問サービスを軸に利用している方は、自宅で暮らし続けたいという思いが強い傾向にあり、在宅生活での安心感が確保されているためと考えられます。市としては、日常生活の中に自然に組み込める訪問サービスを充実させ、より長く安心して自宅で暮らせるよう取り組んでいきます。

- 支援が必要な方への積極的な働きかけ

要介護3以上で施設を検討していない方のうち、4割以上が介護サービスを利用していません。これは家族だけで懸命に支えている状態であり、急な体調不良などで生活が成り立たなくなる恐れがあります。市では、要介護認定の移行期に合わせ、市やケアマネジャーによる「先回りした積極的な訪問支援」を強化します。

- 不安の解消と見守りの強化

「夜間の排泄」や「認知症状」など、家族が最も不安に感じる点に対し、夜間対応型訪問介護等の充実が課題と考えています。また、ショートステイなどの利用回数が増えてきた場合には、それを「生活の見直しのサイン」として捉え、市としてより丁寧な見守りや相談を行う仕組みを検討します。

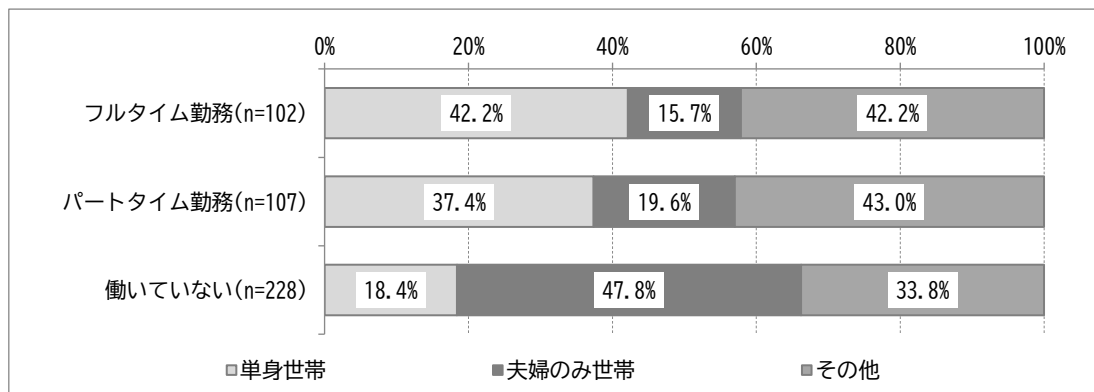
2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基本集計

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「単身世帯」、「その他」が42.2%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が15.7%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が43.0%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が37.4%、「夫婦のみ世帯」が19.6%となっている。「働いていない」では「夫婦のみ世帯」が47.8%と最も割合が高く、次いで「その他」が33.8%、「単身世帯」が18.4%となっている。

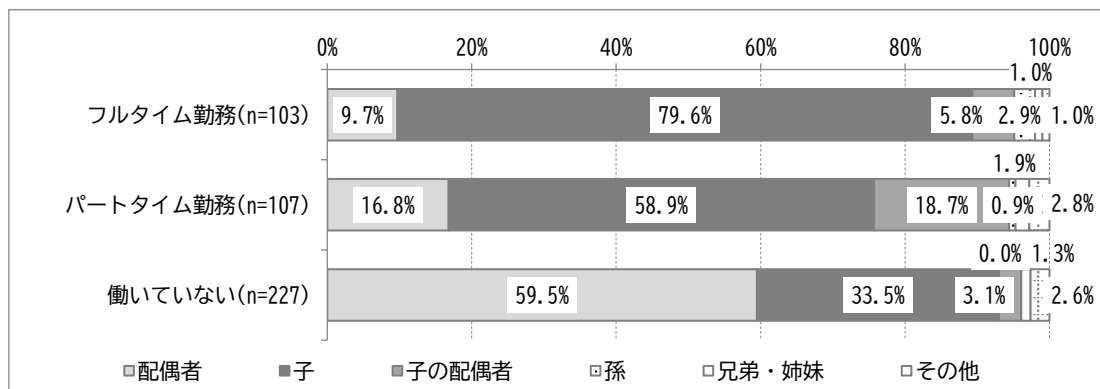
図表 2-1 就労状況別・世帯類型



【就労状況別・★主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が79.6%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が9.7%、「子の配偶者」が5.8%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が58.9%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が18.7%、「配偶者」が16.8%となっている。「働いていない」では「配偶者」が59.5%と最も割合が高く、次いで「子」が33.5%、「子の配偶者」が3.1%となっている。

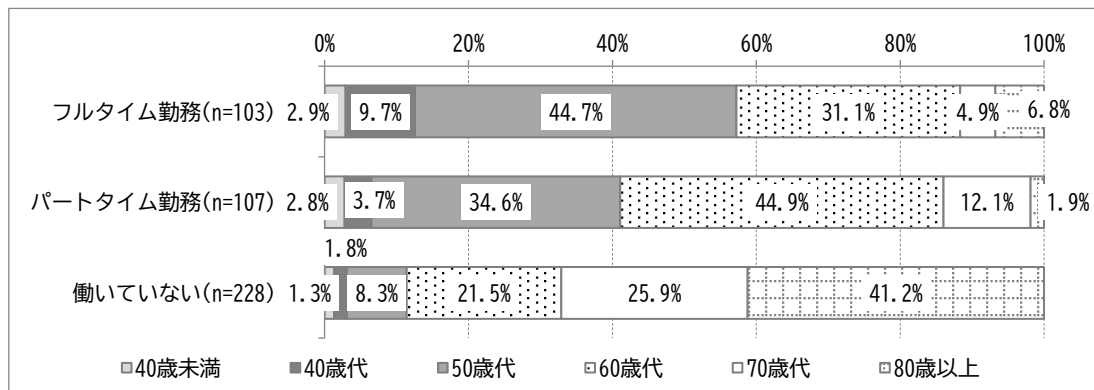
図表 2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が44.7%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が31.1%、「40歳代」が9.7%となっている。「パートタイム勤務」では「60歳代」が44.9%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が34.6%、「70歳代」が12.1%となっている。「働いていない」では「80歳以上」が41.2%と最も割合が高く、次いで「70歳代」が25.9%、「60歳代」が21.5%となっている。

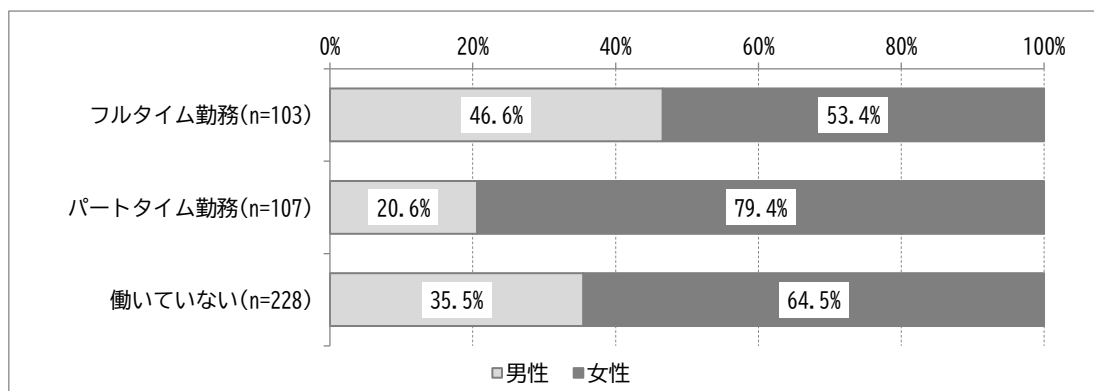
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が53.4%と最も割合が高く、次いで「男性」が46.6%となっている。「パートタイム勤務」では「女性」が79.4%と最も割合が高く、次いで「男性」が20.6%となっている。「働いていない」では「女性」が64.5%と最も割合が高く、次いで「男性」が35.5%となっている。

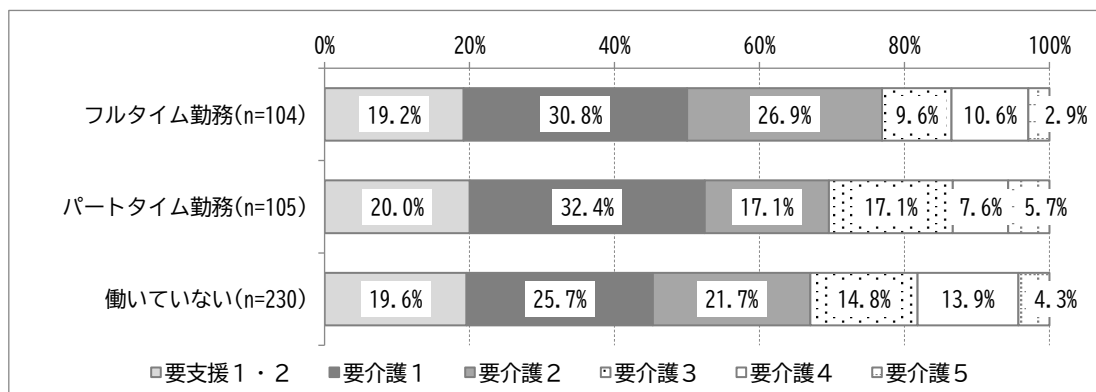
図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護1」が30.8%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が26.9%、「要支援1・2」が19.2%となっている。「パートタイム勤務」では「要介護1」が32.4%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が20.0%、「要介護2」「要介護3」が17.1%となっている。「働いていない」では「要介護1」が25.7%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が21.7%、「要支援1・2」が19.6%となっている。

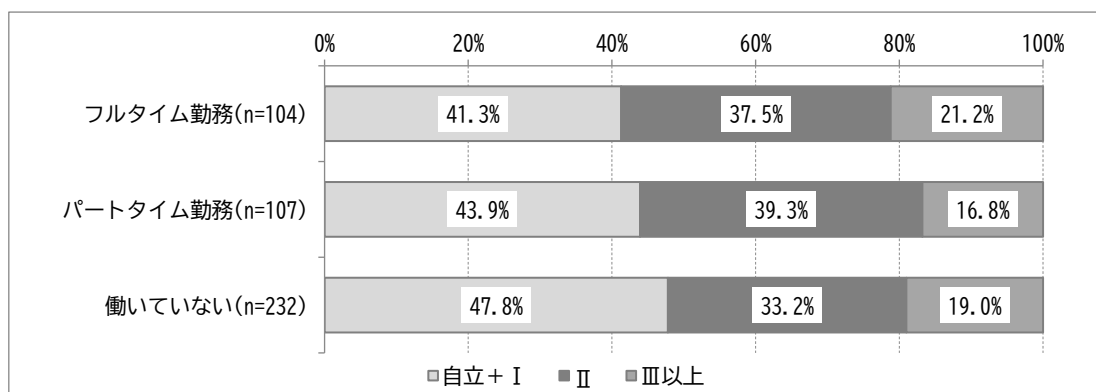
図表 2-5 就労状況
別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が41.3%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が37.5%、「Ⅲ以上」が21.2%となっている。「パートタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が43.9%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が39.3%、「Ⅲ以上」が16.8%となっている。「働いていない」では「自立+Ⅰ」が47.8%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が33.2%、「Ⅲ以上」が19.0%となっている。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度

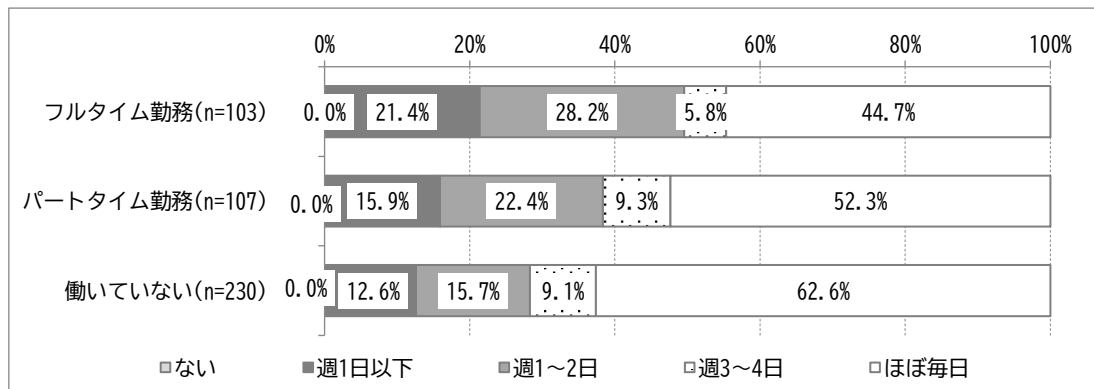


(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が44.7%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が28.2%、「週1日以下」が21.4%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が52.3%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が22.4%、「週1日以下」が15.9%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が62.6%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が15.7%、「週1日以下」が12.6%となっている。

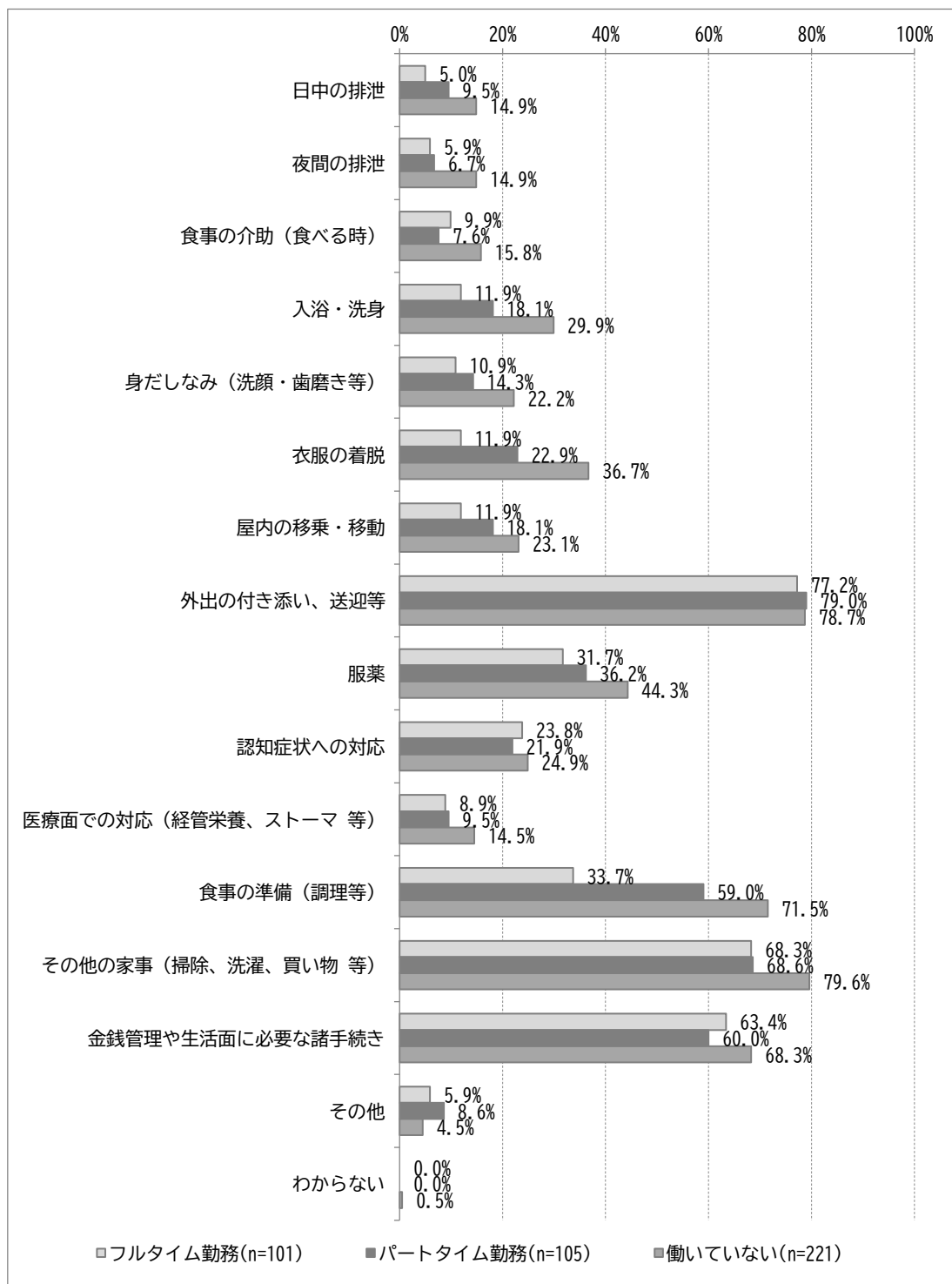
図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度



【就労状況別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「外出の付き添い、送迎等」が77.2%と最も割合が高く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が68.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が63.4%となっている。「パートタイム勤務」では「外出の付き添い、送迎等」が79.0%と最も割合が高く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が68.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が60.0%となっている。「働いていない」では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が79.6%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が78.7%、「食事の準備(調理等)」が71.5%となっている。

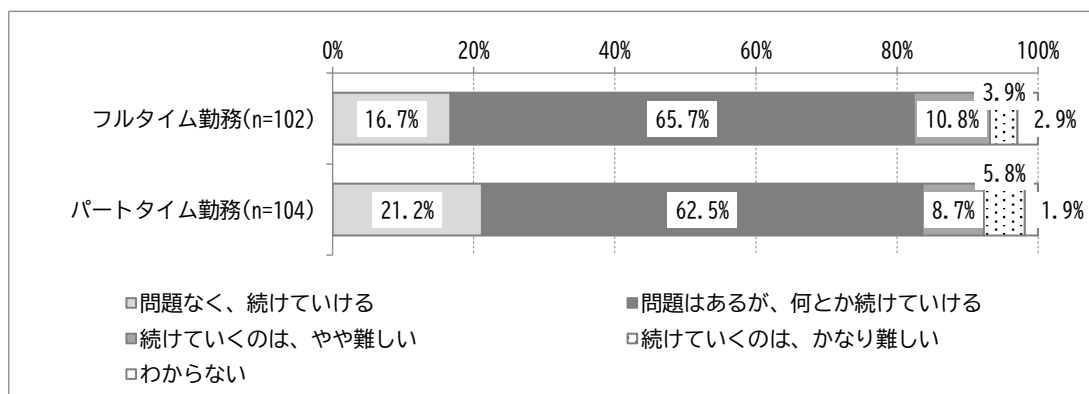
図表 2-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が65.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が16.7%、「続けていくのは、やや難しい」が10.8%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が21.2%、「続けていくのは、やや難しい」が8.7%となっている。

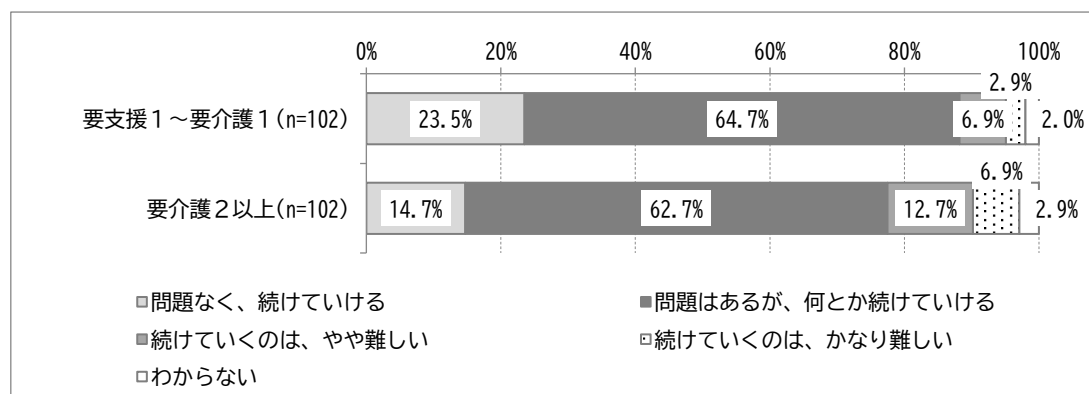
図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が23.5%、「続けていくのは、やや難しい」が6.9%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が14.7%、「続けていくのは、やや難しい」が12.7%となっている。

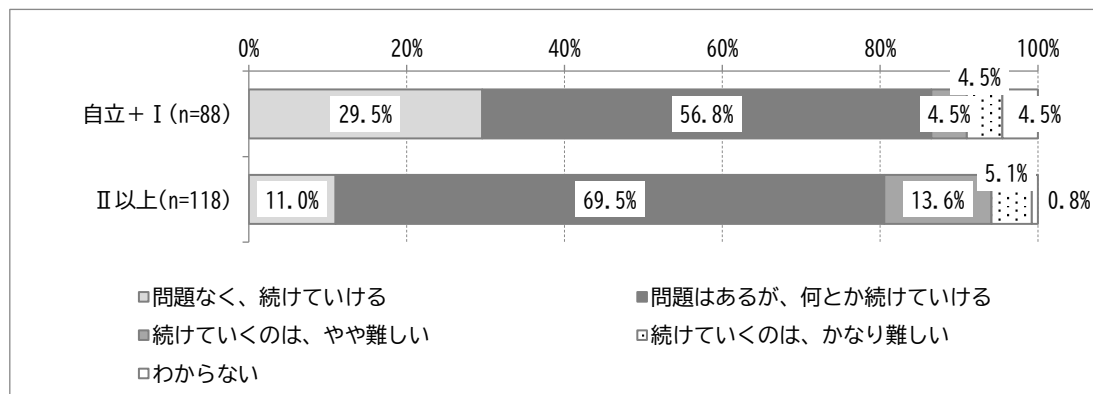
図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「問題はあるが、何とか続けていける」が56.8%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が29.5%、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」「わからない」が4.5%となっている。「II以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が69.5%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が13.6%、「問題なく、続けていける」が11.0%となっている。

図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)

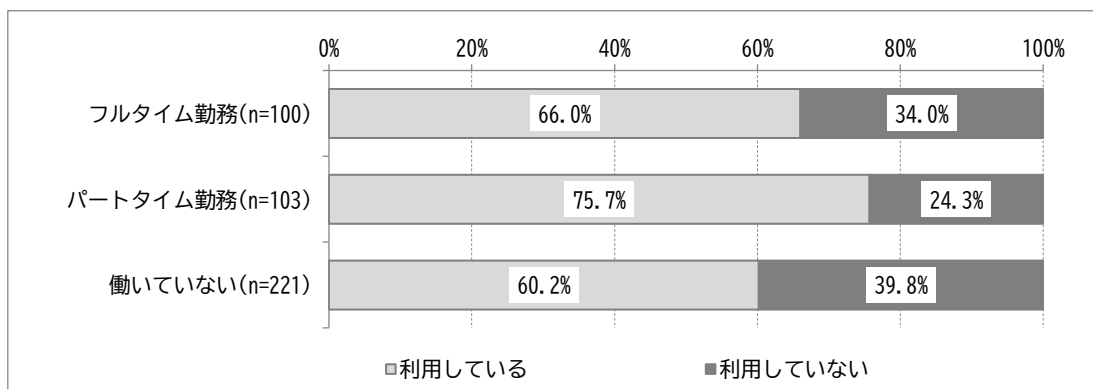


(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

【就労状況別・★介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が66.0%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が34.0%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が75.7%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が24.3%となっている。「働いていない」では「利用している」が60.2%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が39.8%となっている。

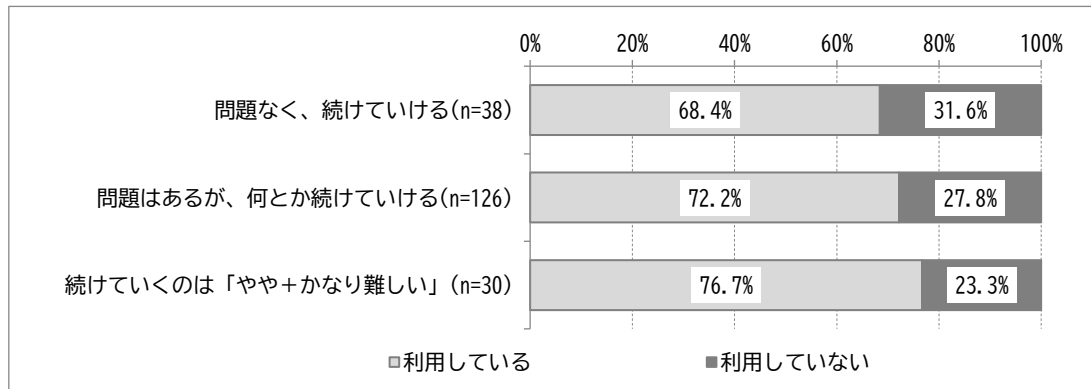
図表 2-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無



【就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が68.4%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が31.6%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が72.2%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が27.8%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用している」が76.7%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が23.3%となっている。

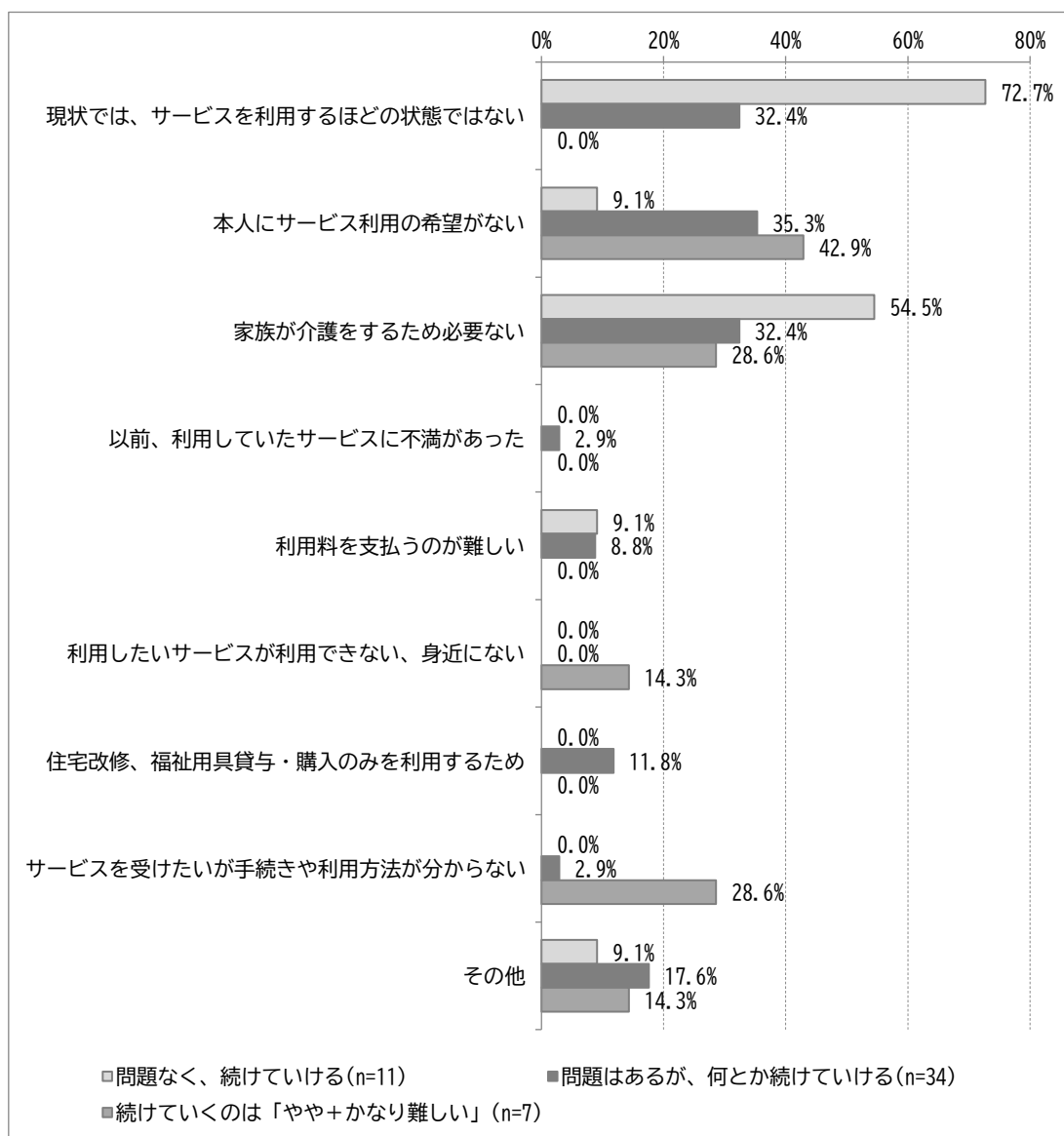
図表 2-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【就労継続見込み別・★サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が72.7%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が54.5%、「本人にサービス利用の希望がない」「利用料を支払うのが難しい」「その他」が9.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「本人にサービス利用の希望がない」が35.3%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」「家族が介護をするため必要ない」が32.4%、「その他」が17.6%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「本人にサービス利用の希望がない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が28.6%、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」「その他」が14.3%となっている。

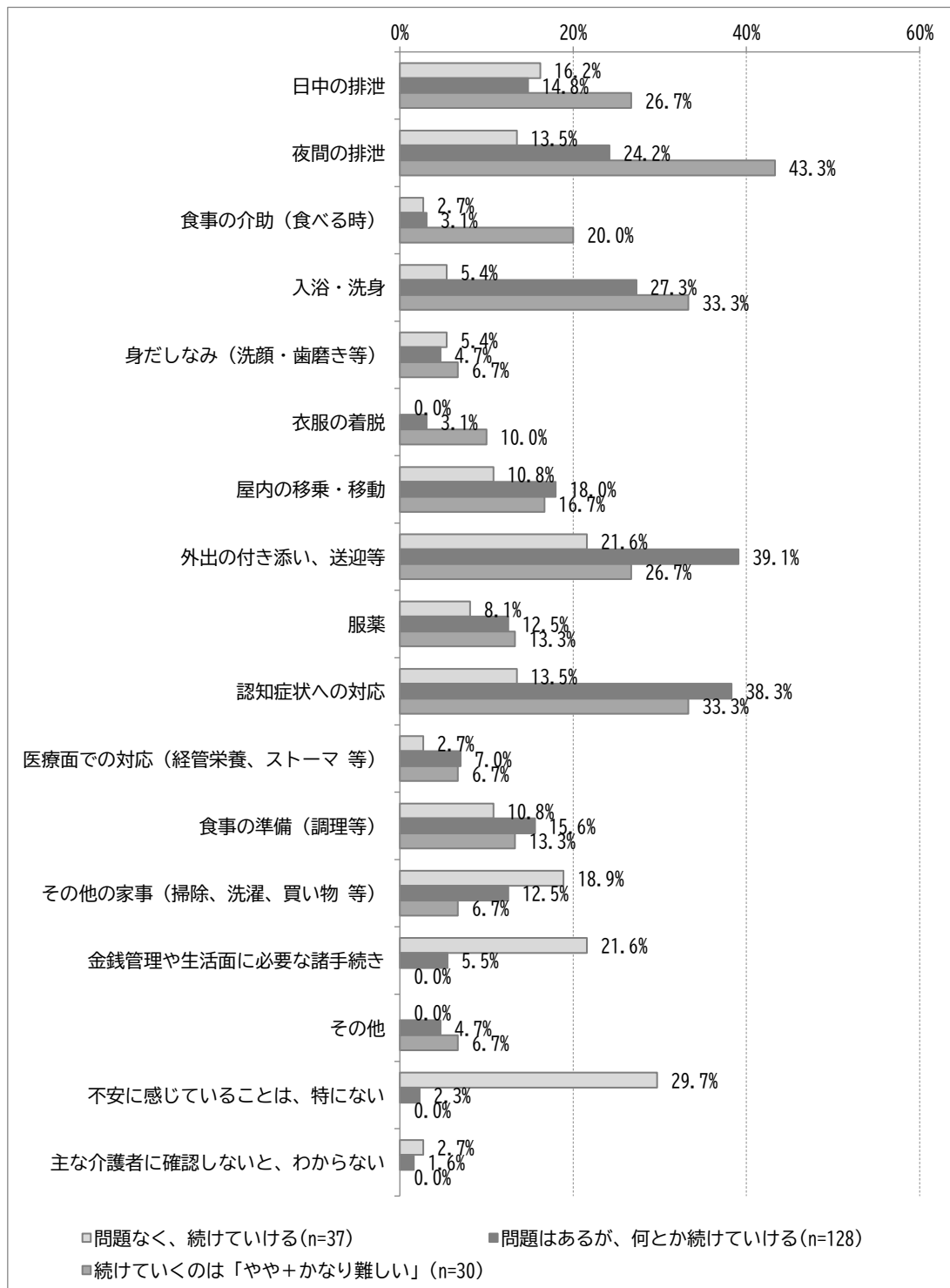
図表 2-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「不安に感じていることは、特にない」が29.7%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が21.6%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が18.9%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」が39.1%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が38.3%、「入浴・洗身」が27.3%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「夜間の排泄」が43.3%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」「認知症状への対応」が33.3%、「日中の排泄」「外出の付き添い、送迎等」が26.7%となっている。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務+パートタイム勤務)

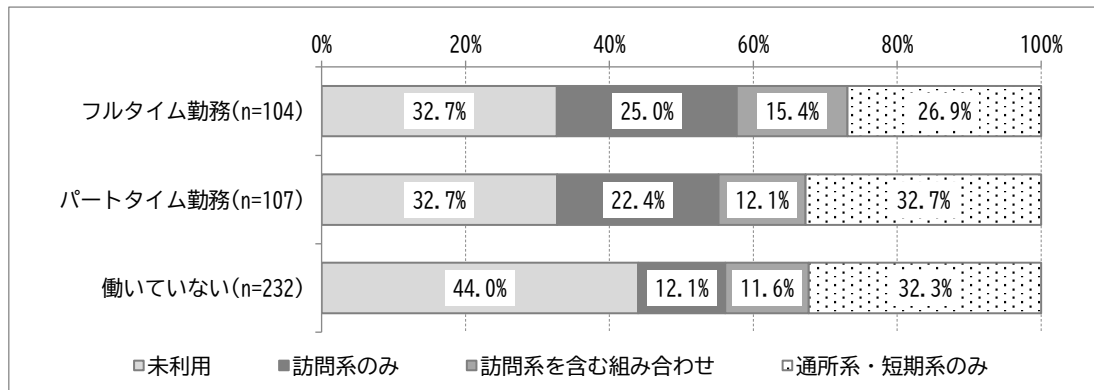


(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「未利用」が32.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が26.9%、「訪問系のみ」が25.0%となっている。「パートタイム勤務」では「未利用」「通所系・短期系のみ」が32.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が22.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が12.1%となっている。「働いていない」では「未利用」が44.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.3%、「訪問系のみ」が12.1%となっている。

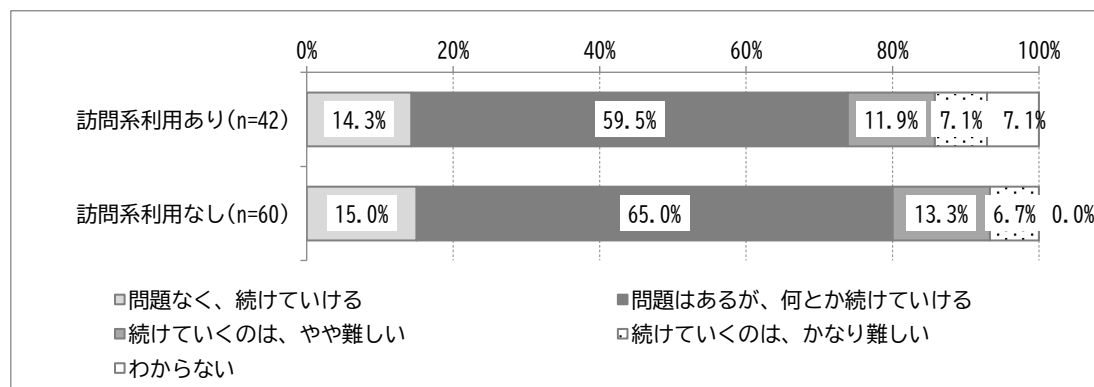
図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が59.5%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が14.3%、「続けていくのは、やや難しい」が11.9%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が65.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が15.0%、「続けていくのは、やや難しい」が13.3%となっている。

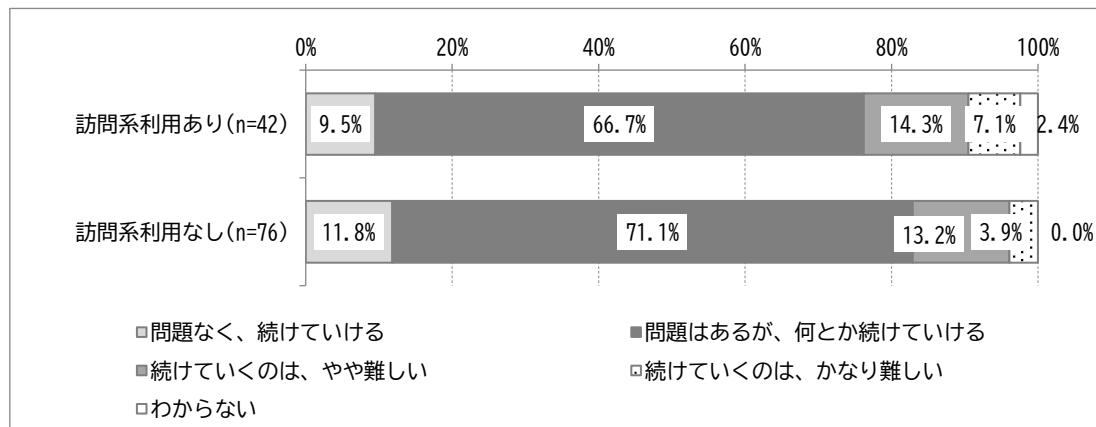
図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が66.7%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が14.3%、「問題なく、続けていける」が9.5%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が71.1%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が13.2%、「問題なく、続けていける」が11.8%となっている。

図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

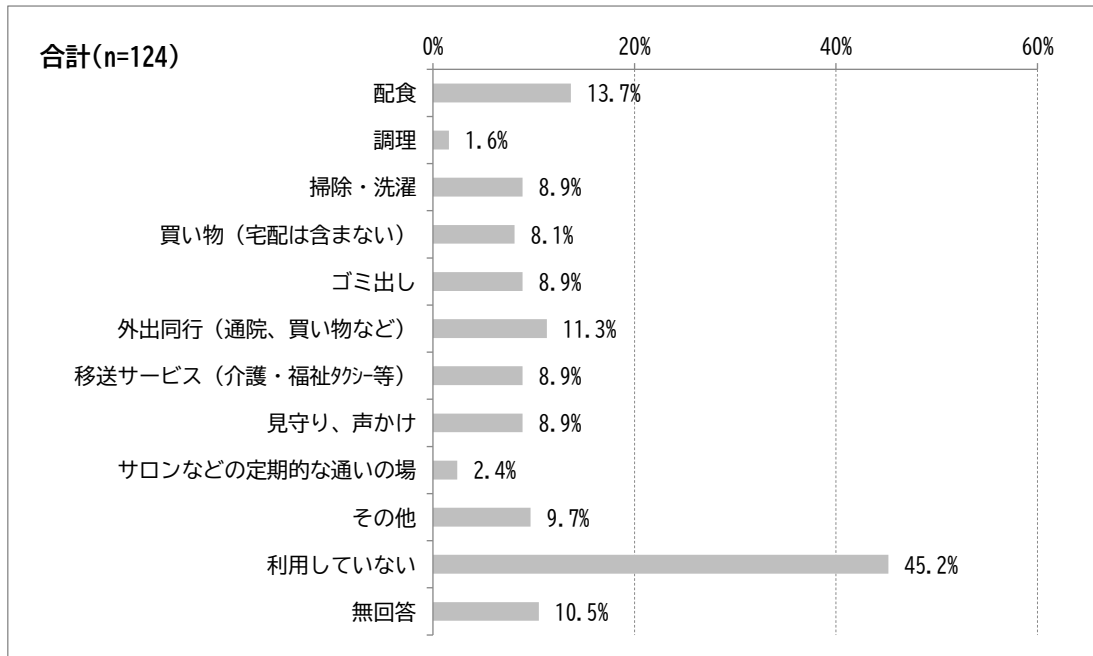


(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【★利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「利用していない」の割合が最も高く45.2%となっている。次いで、「配食(13.7%)」、「外出同行(通院、買い物など)(11.3%)」となっている。

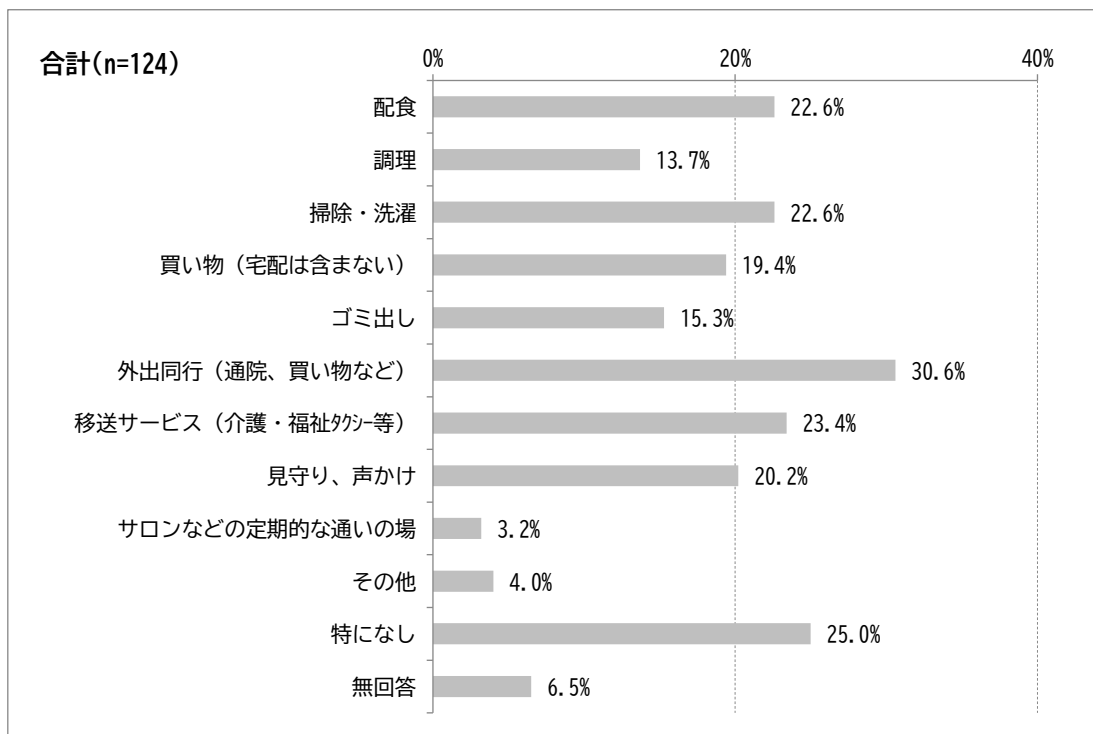
図表 2-19_1 ★利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「外出同行(通院、買い物など)」の割合が最も高く30.6%となっている。次いで、「特になし(25.0%)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)(23.4%)」となっている。

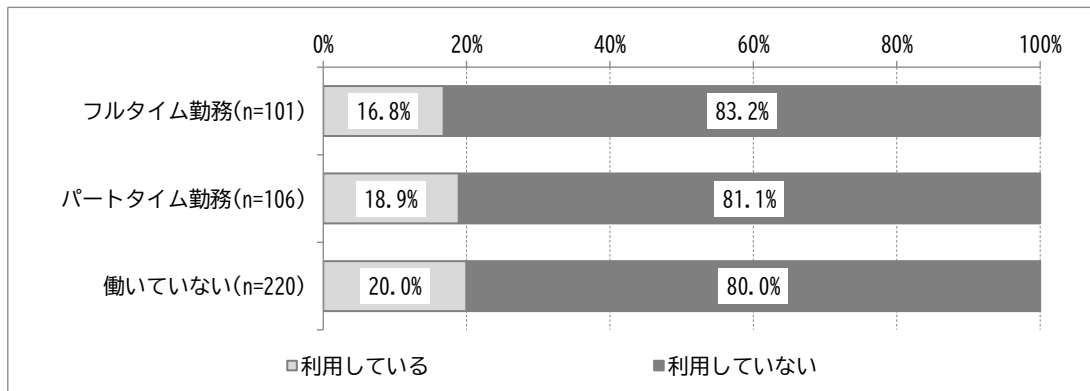
図表 2-19_2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)



【就労状況別・★訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が83.2%と最も割合が高く、次いで「利用している」が16.8%となっている。「パートタイム勤務」では「利用していない」が81.1%と最も割合が高く、次いで「利用している」が18.9%となっている。「働いていない」では「利用していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が20.0%となっている。

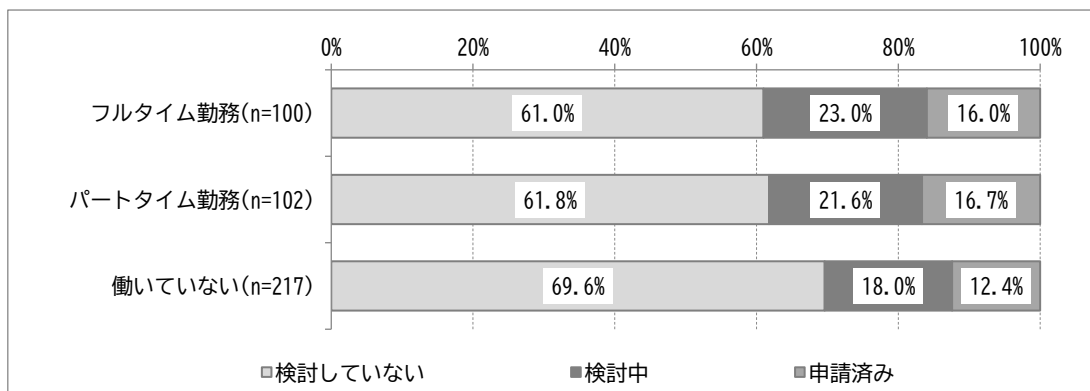
図表 2-20 就労状況別・★訪問診療の利用の有無



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が61.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.0%、「申請済み」が16.0%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が61.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.6%、「申請済み」が16.7%となっている。「働いていない」では「検討していない」が69.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.0%、「申請済み」が12.4%となっている。

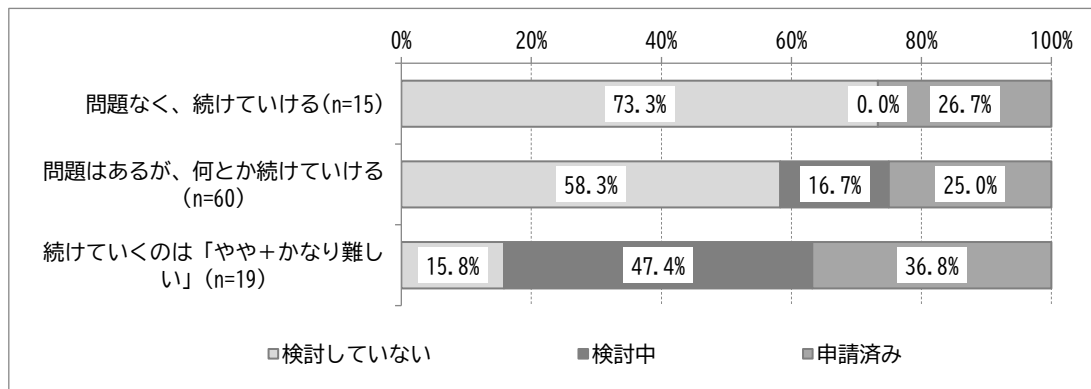
図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が73.3%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が26.7%、「検討中」が0.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が58.3%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が25.0%、「検討中」が16.7%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「検討中」が47.4%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が36.8%、「検討していない」が15.8%となっている。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

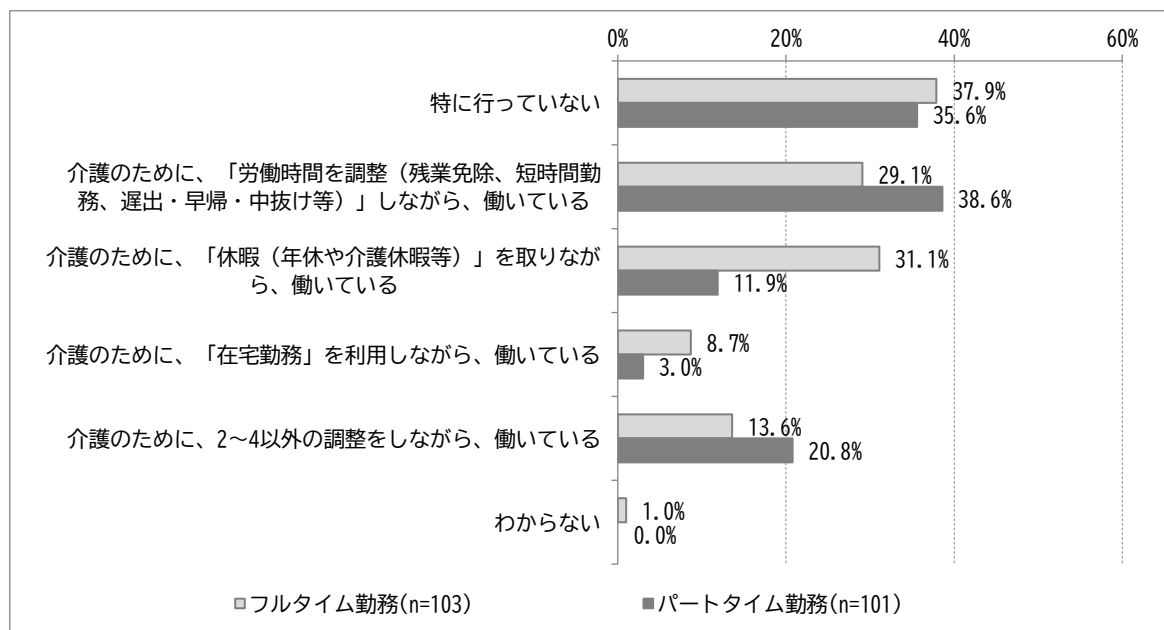


(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が37.9%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が31.1%、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が29.1%となっている。「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が38.6%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が35.6%、「介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている」が20.8%となっている。

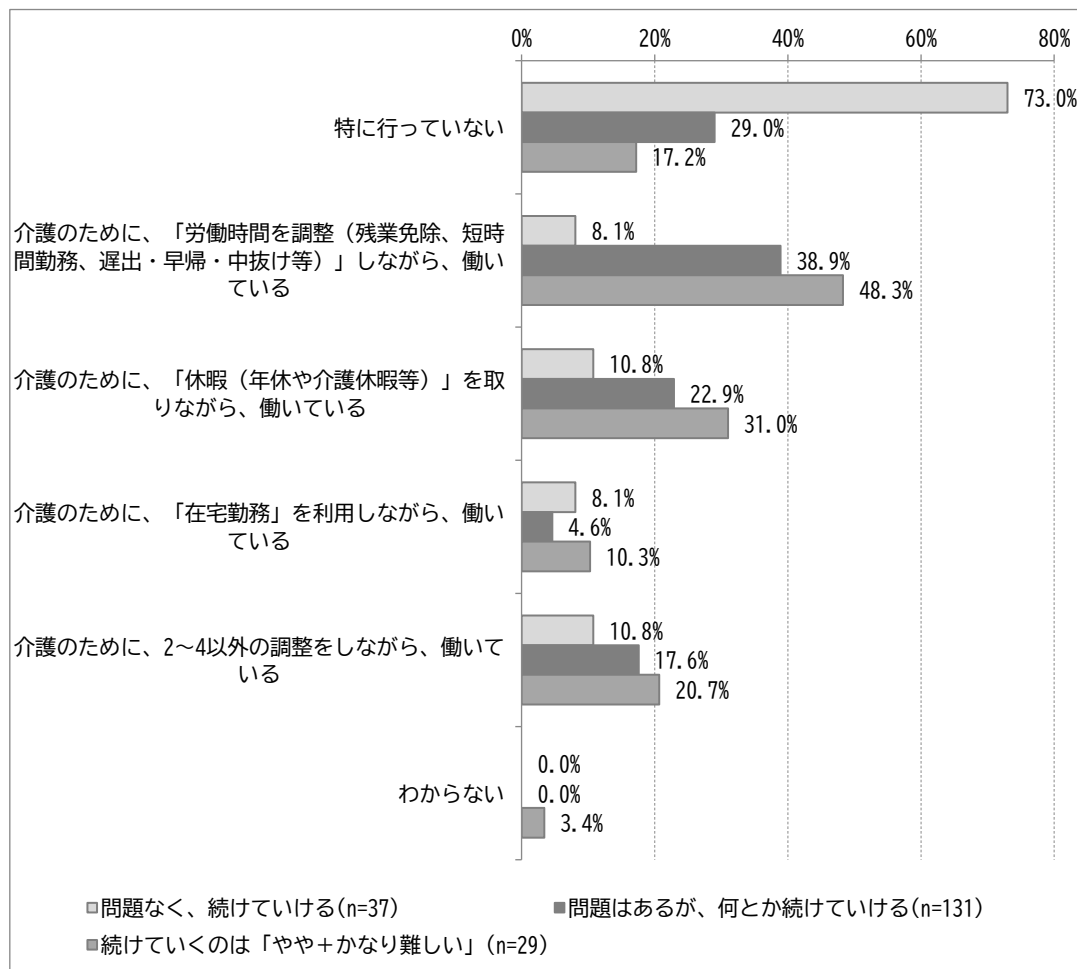
図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が73.0%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」「介護のために、2~4 以外の調整をしながら、働いている」が10.8%、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」が8.1%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が38.9%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が29.0%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が22.9%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」が48.3%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」が31.0%、「介護のために、2~4 以外の調整をしながら、働いている」が20.7%となっている。

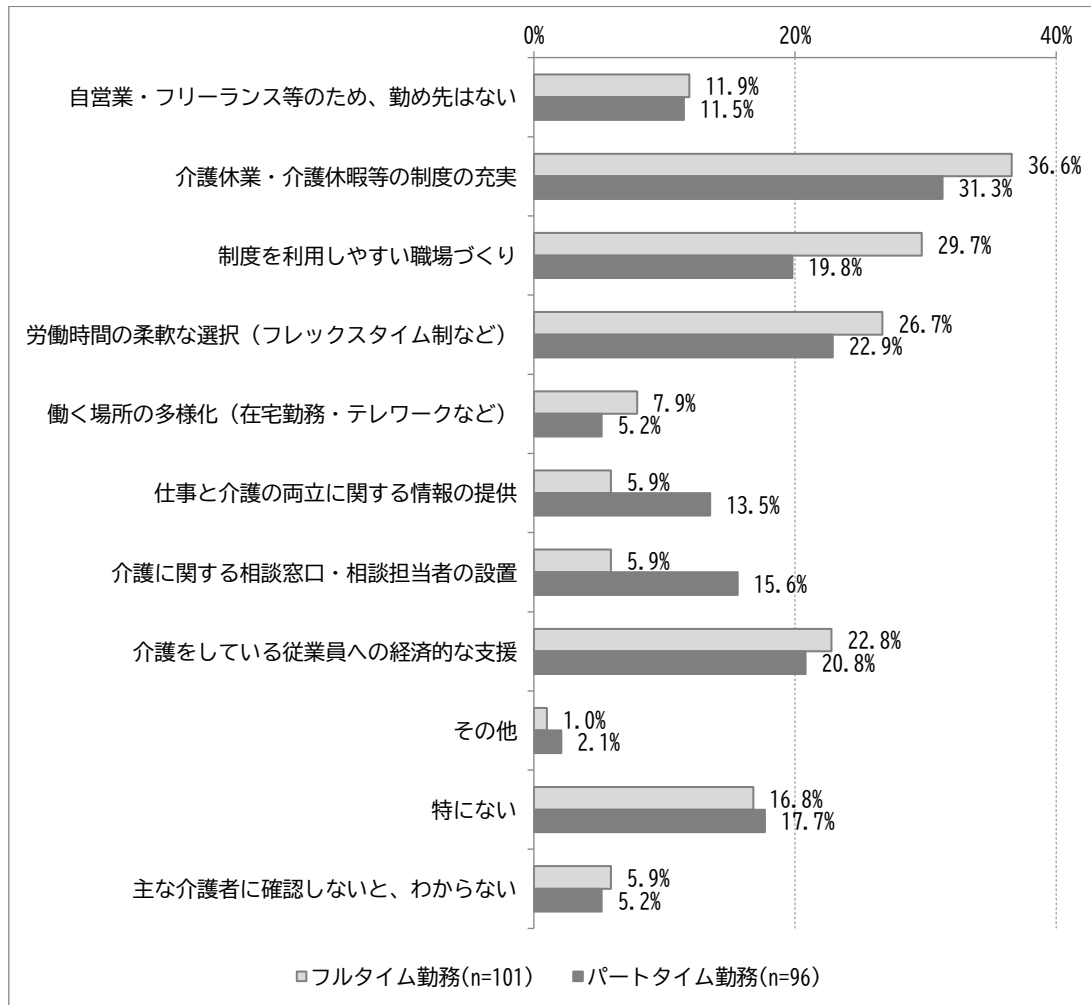
図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



【就労状況別・★効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が36.6%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が29.7%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が26.7%となっている。「パートタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が31.3%と最も割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が22.9%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が20.8%となっている。

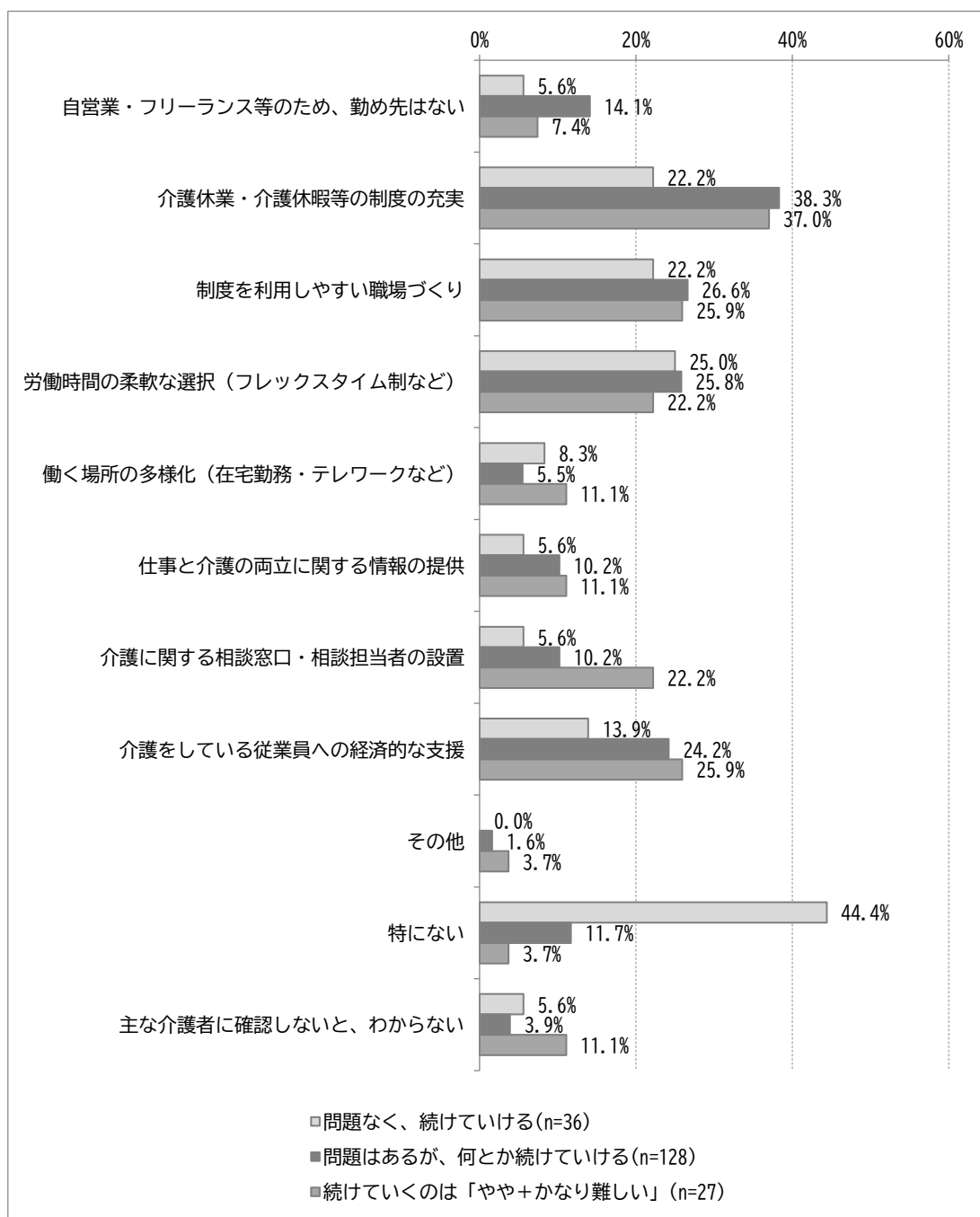
図表 2-25 就労状況別・★効果的な勤め先からの支援



【就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が44.4%と最も割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が25.0%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「制度を利用しやすい職場づくり」が22.2%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が38.3%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が26.6%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が25.8%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が37.0%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」「介護をしている従業員への経済的な支援」が25.9%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」が22.2%となっている。

図表 2-26 就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)



(7) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービス提供体制の構築に関する考察

① 仕事と介護を両立する方々の現状と課題

- 働き盛り世代への負担の集中(図表 2-1~2-4)

仕事をしながら介護を担う方の約8割は「子」で、特に「50代」の方が中心です。また、単身世帯などで周囲に頼れる人がいない中で介護を担っている方も少なくありません。企業の中心的な担い手である働き盛り世代の離職は、本人にとっても、社会全体にとっても大きな損失です。

- 「特定の時間に縛られる介護(時間拘束型ケア)」の負担(図表 2-7~2-8)

フルタイムで働く方の44.7%が「ほぼ毎日」介護をしています。特に多いのが「外出の付き添いや送迎(77.2%)」です。これは、特定の時間に縛られる介護(時間拘束型ケア)であり、家事代行などで解決しにくいものです。こうした直接的ケアが、就労継続を阻む大きな障壁となっていると考えられます。

② 就労継続のハードルと限界

- 認知症の症状による影響(図表 2-10~2-11)

要介護2以上の方を介護しながら仕事を「問題なく、続けていける」と回答した方は14.7%ですが、認知症の症状が進むとその割合は11.0%にまで下がります。認知症の症状への対応は、家族の精神的・時間的な負担を重くし、就労を継続する上での大きな課題となっていると考えられます。

- サービスを利用しにくい理由(図表 2-13~2-14)

就労継続が難しいと感じている方の76.7%はサービスを利用していますが、それでもなお負担を感じています。一方で、サービスを利用していない方の理由として「本人に利用希望がない(42.9%)」や「手続きがわからない(28.6%)」が上位を占めています。本人の心理的な抵抗感や手続きの煩雑さが、必要な支援を届ける上での課題となっています。

- 体力の限界と睡眠不足(図表 2-15)

就労継続が難しいと感じている方の多くが、「夜間の排泄(43.3%)」や「入浴・洗身(33.3%)」の介助に不安を抱えています。特に夜間の介助による睡眠不足は、翌日の仕事に大きな影響を与え、仕事を辞めざるを得なくなるきっかけとなる恐れがあります。

③ 保険外サービスとニーズの乖離の解消と職場環境整備

- 支援内容とニーズの乖離の解消(図表 2-19-1, 2)

フルタイム就労をしている方の保険外サービス利用は、「配食(13.7%)」が中心となっていますが、潜在ニーズ(必要と感じる支援)は「外出同行(30.6%)」や「移送サービス(23.4%)」に集中しています。最大の悩みである「外出・送迎」に対し、実際のサービス提供が追いついていない「支援のミスマッチ」が生じていると考えられます。

- 介護に直面する前の環境づくり(図表 2-23~2-26)

フルタイム就労者が求める支援は「休暇制度の充実(36.6%)」と「制度を利用しやすい職場づくり(29.7%)」が多くなっています。注目すべきは、就労継続に不安がない方の73.0%が働き方の調整を「特に行っていない」と回答していることです。これは、個別案件ごとに「事後的」な労働時間調整を行う

のではなく、あらかじめ柔軟な働き方が文化として定着し、普段から「安心して相談できる職場環境」が整っていることこそが、離職を防ぐ最も効果的な仕組みであることを示しています。

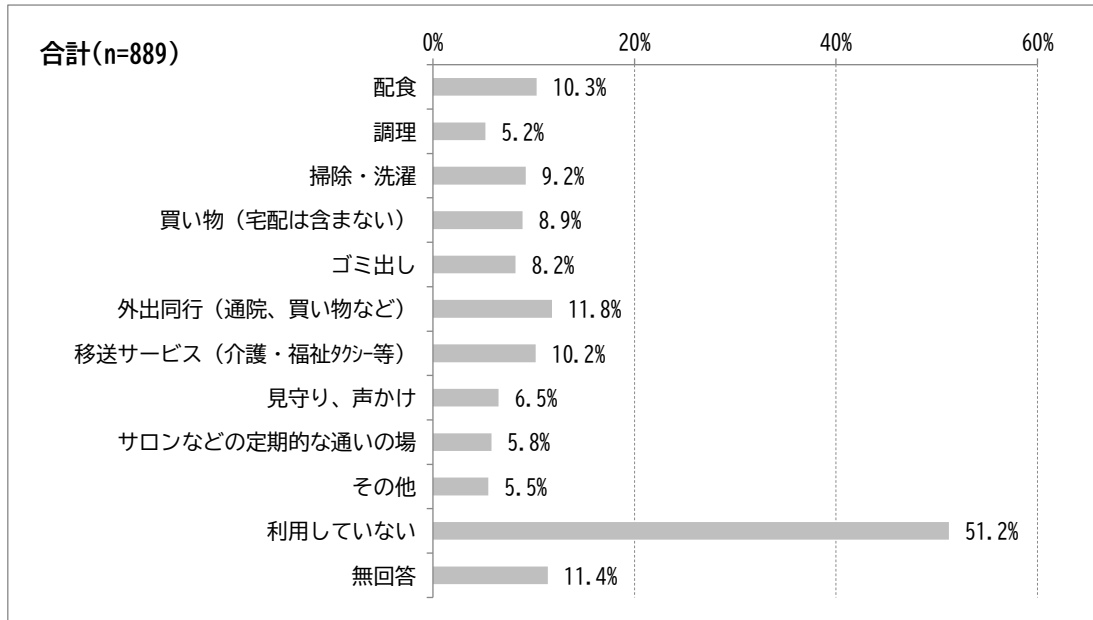
3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

(1) 基礎集計

【★保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く51.2%となっている。次いで、「外出同行(通院、買い物など)(11.8%)」、「配食(10.3%)」となっている。

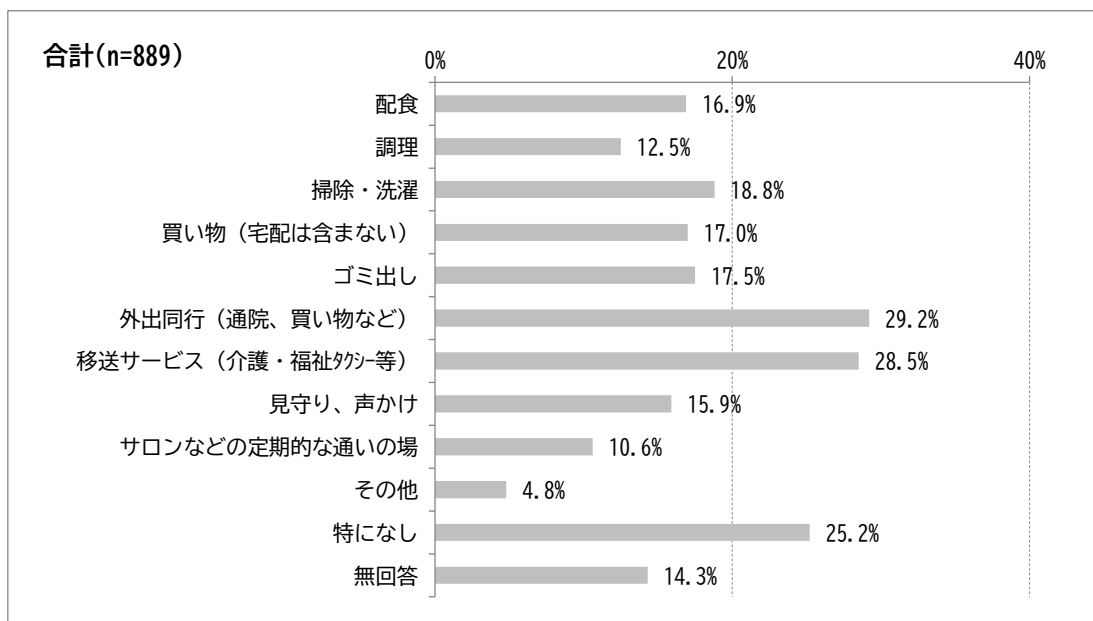
図表 3-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「外出同行(通院、買い物など)」の割合が最も高く29.2%となっている。次いで、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)(28.5%)」、「特になし(25.2%)」となっている。

図表 3-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

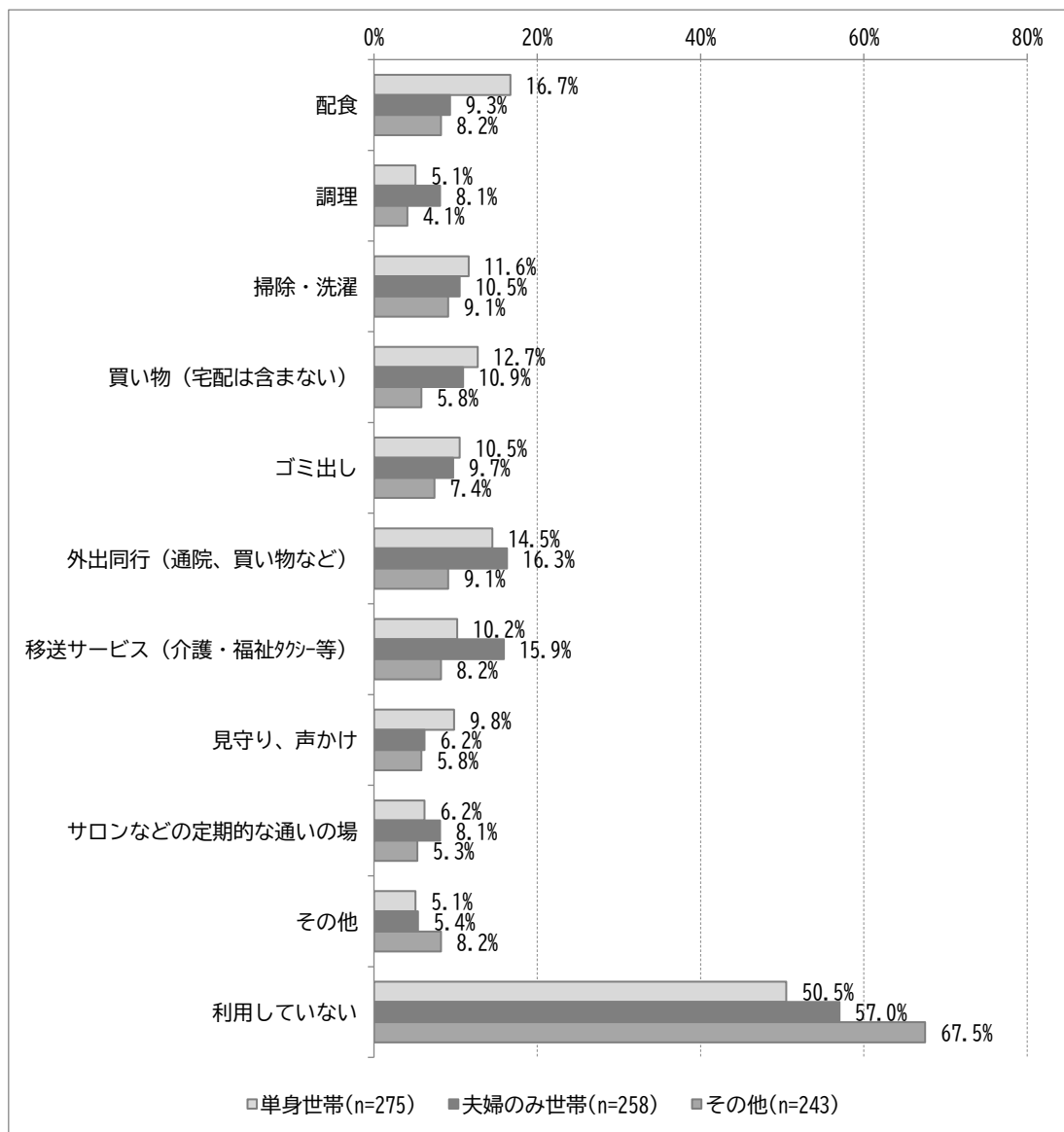


(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が50.5%と最も割合が高く、次いで「配食」が16.7%、「外出同行(通院、買い物など)」が14.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が57.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が16.3%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が15.9%となっている。「その他」では「利用していない」が67.5%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」「外出同行(通院、買い物など)」が9.1%、「配食」「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」「その他」が8.2%となっている。

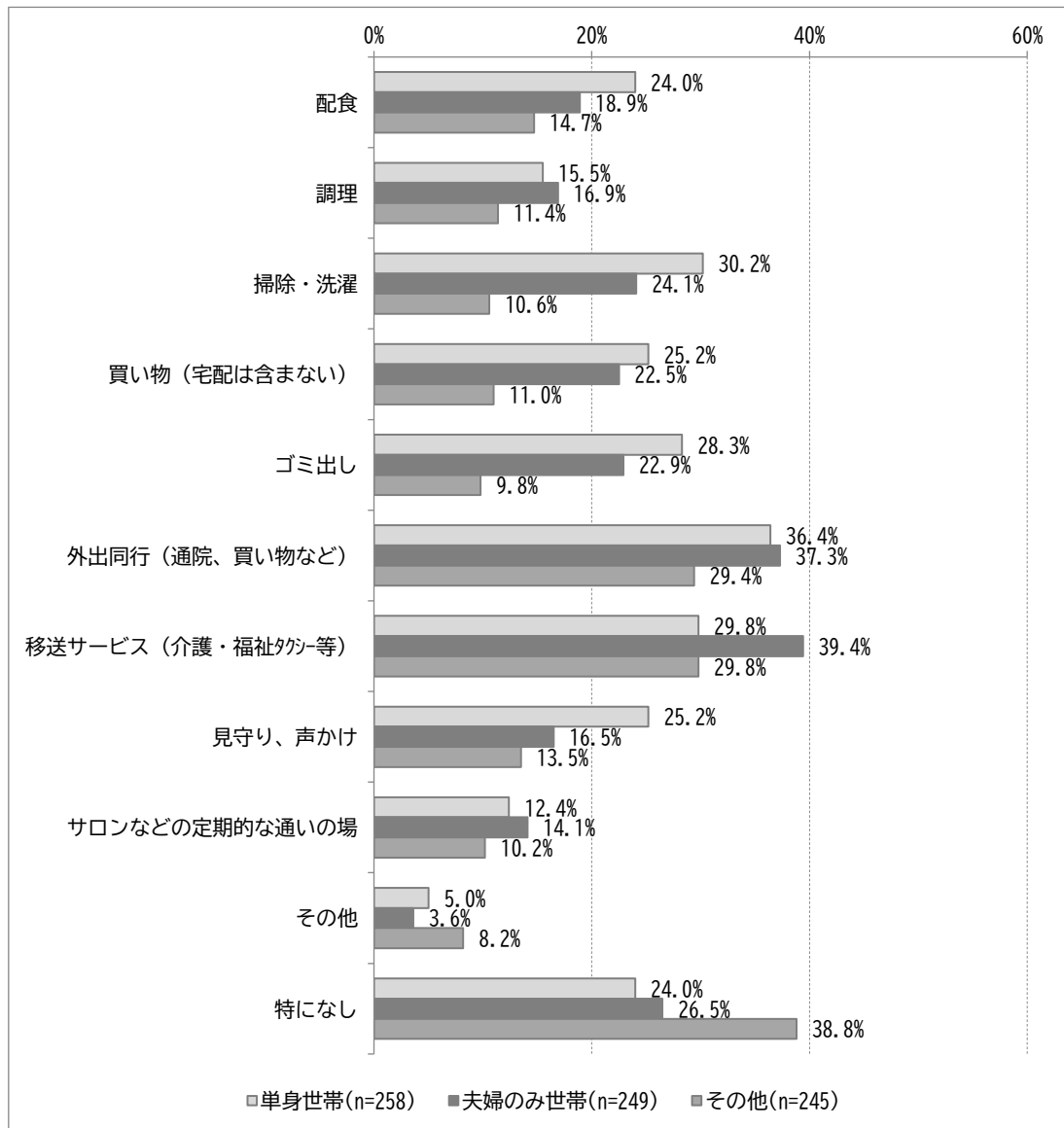
図表 3-3 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「外出同行(通院、買い物など)」が36.4%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が30.2%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が29.8%となっている。「夫婦のみ世帯」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が39.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が37.3%、「特になし」が26.5%となっている。「その他」では「特になし」が38.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が29.8%、「外出同行(通院、買い物など)」が29.4%となっている。

図表 3-4 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

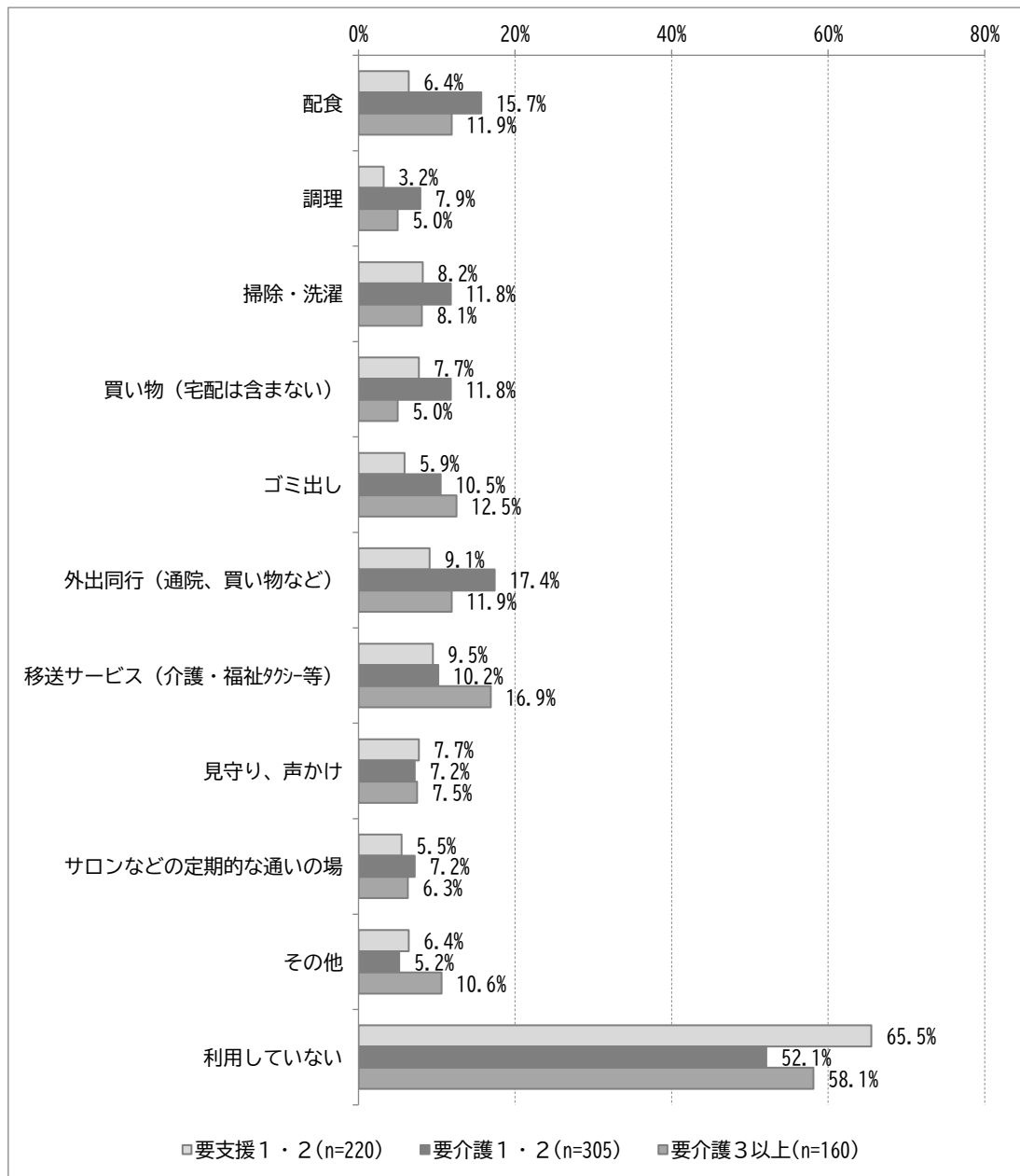


(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が65.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が9.5%、「外出同行(通院、買い物など)」が9.1%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が52.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が17.4%、「配食」が15.7%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が58.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が16.9%、「ゴミ出し」が12.5%となっている。

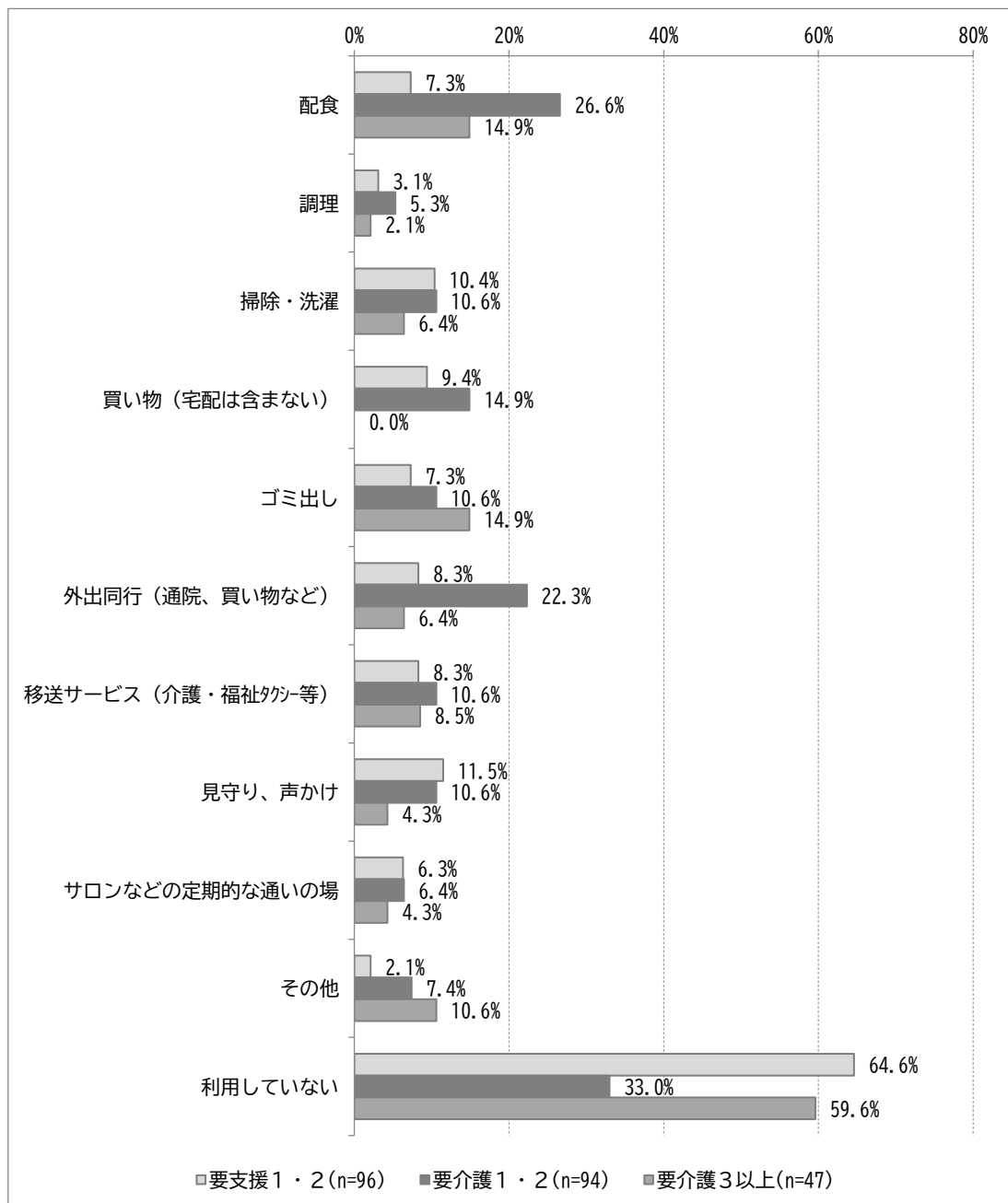
図表 3-5 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が64.6%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が11.5%、「掃除・洗濯」が10.4%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が33.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が26.6%、「外出同行(通院、買い物など)」が22.3%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が59.6%と最も割合が高く、次いで「配食」「ゴミ出し」が14.9%、「その他」が10.6%となっている。

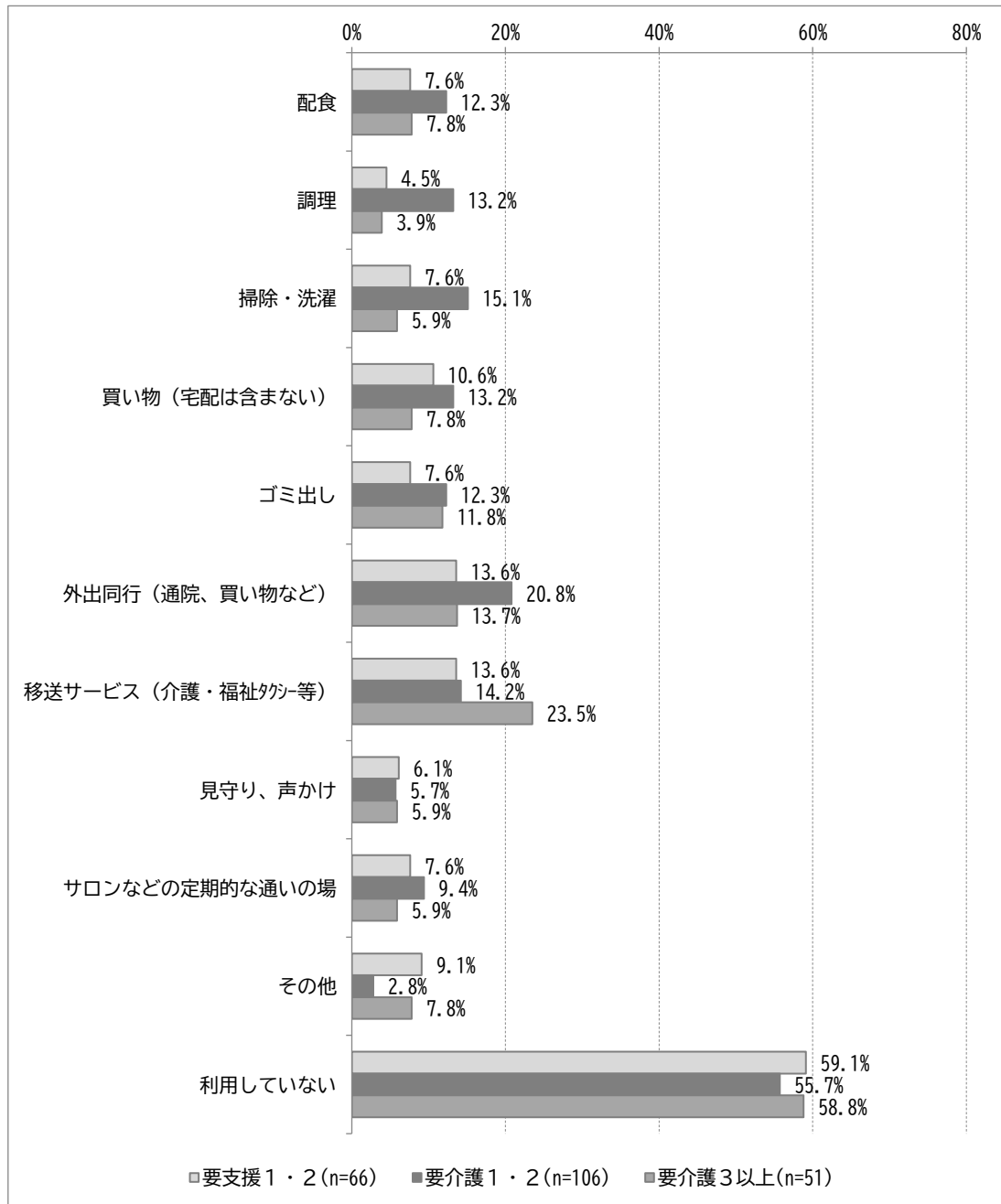
図表 3-6 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が59.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が13.6%、「買い物(宅配は含まない)」が10.6%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が55.7%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が20.8%、「掃除・洗濯」が15.1%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が58.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が23.5%、「外出同行(通院、買い物など)」が13.7%となっている。

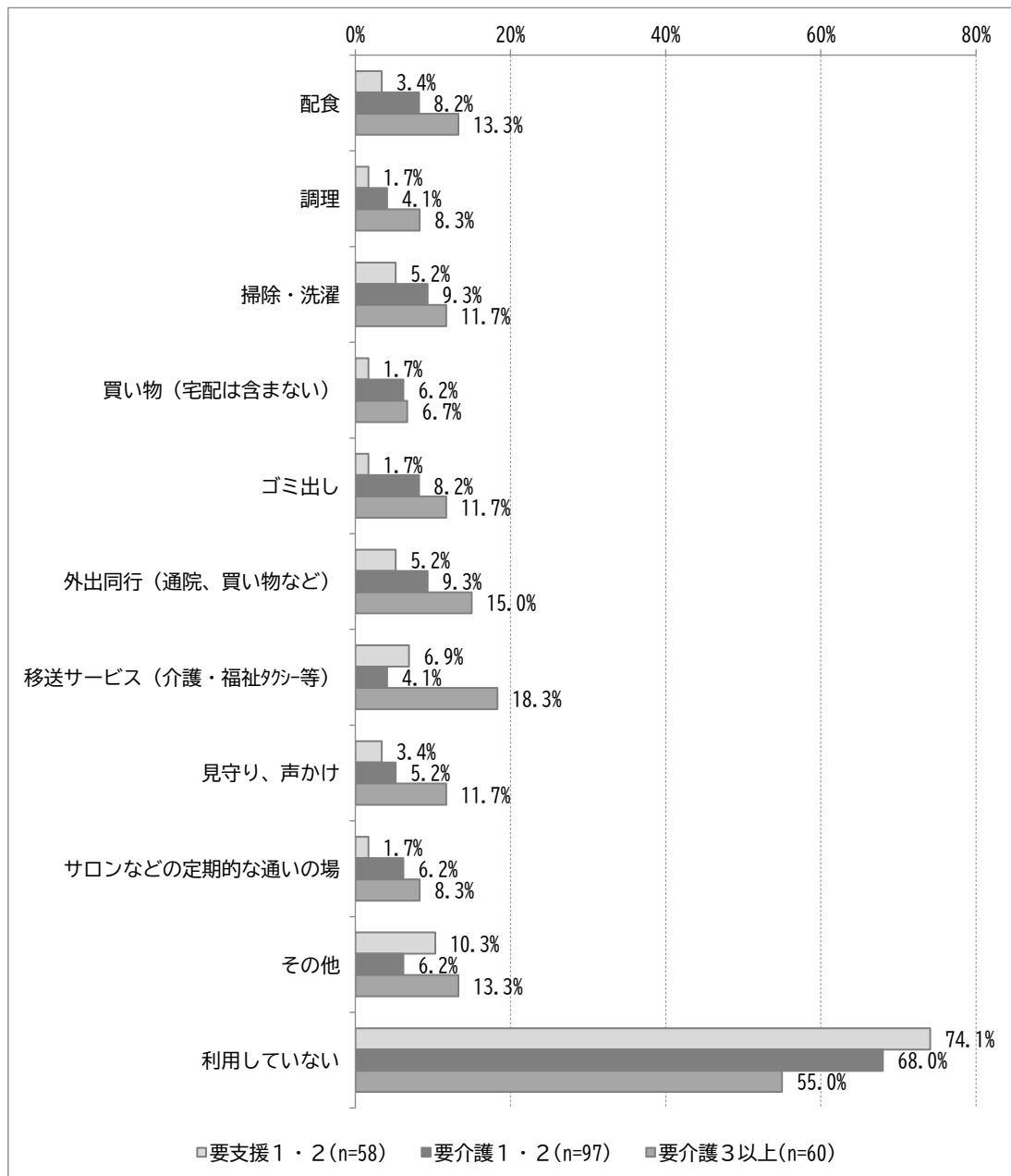
図表 3-7 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が74.1%と最も割合が高く、次いで「その他」が10.3%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が6.9%となっている。「要介護1・2」では「利用していない」が68.0%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」「外出同行(通院、買い物など)」が9.3%、「配食」「ゴミ出し」が8.2%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が55.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が18.3%、「外出同行(通院、買い物など)」が15.0%となっている。

図表 3-8 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)

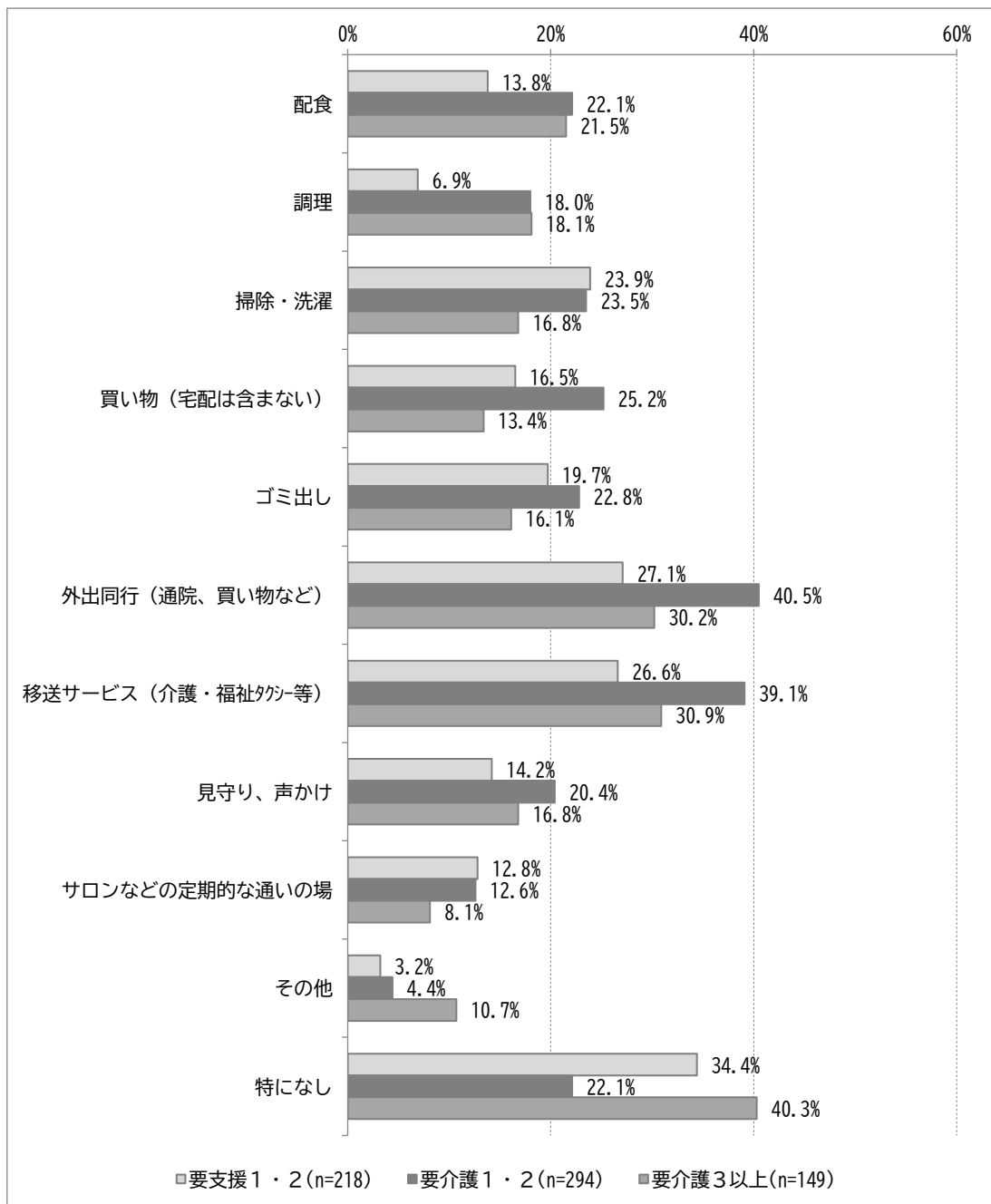


(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が34.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が27.1%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が26.6%となっている。「要介護1・2」では「外出同行(通院、買い物など)」が40.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が39.1%、「買い物(宅配は含まない)」が25.2%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が40.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が30.9%、「外出同行(通院、買い物など)」が30.2%となっている。

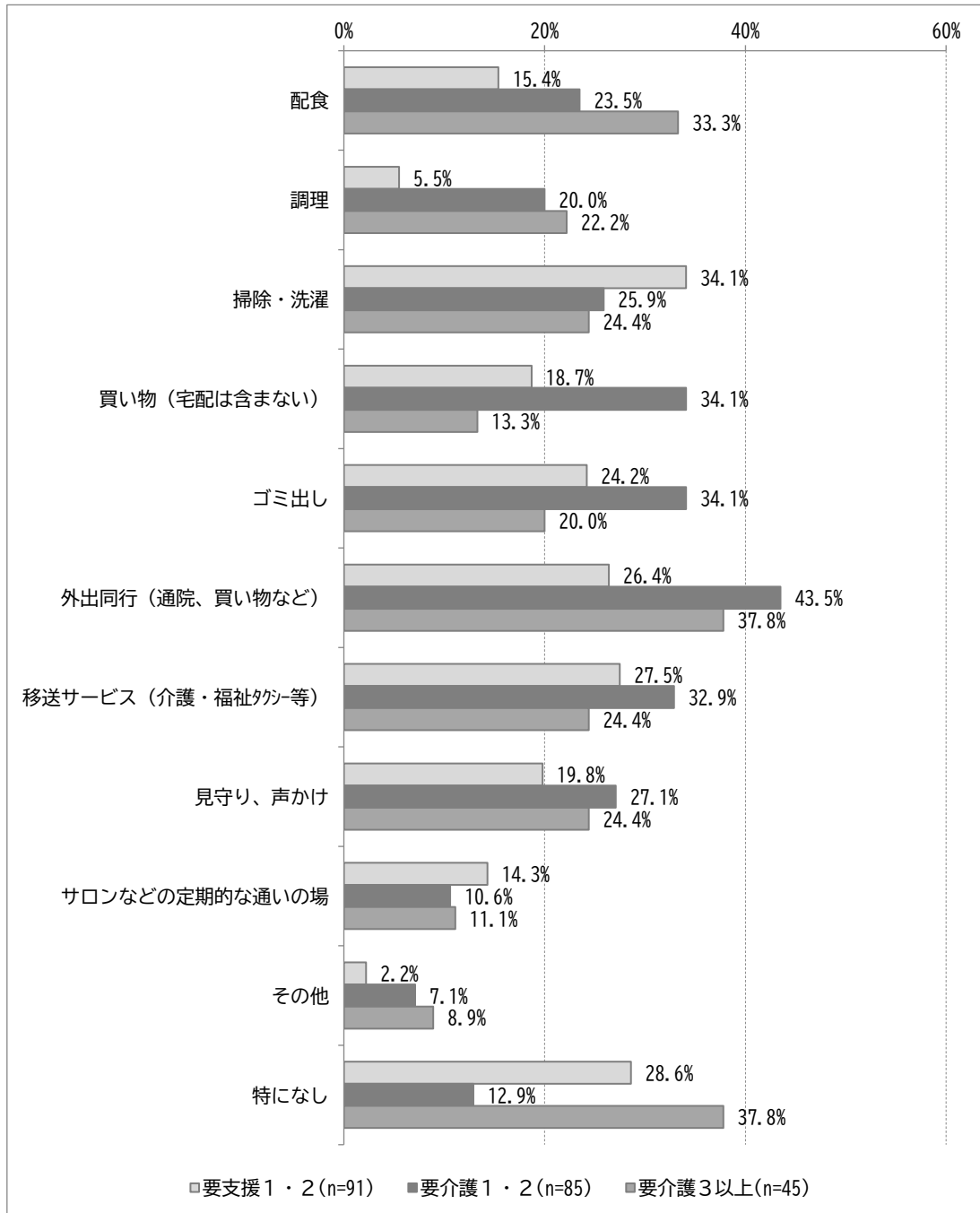
図表 3-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「掃除・洗濯」が34.1%と最も割合が高く、次いで「特になし」が28.6%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が27.5%となっている。「要介護1・2」では「外出同行(通院、買い物など)」が43.5%と最も割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」「ゴミ出し」が34.1%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が32.9%となっている。「要介護3以上」では「外出同行(通院、買い物など)」「特になし」が37.8%と最も割合が高く、次いで「配食」が33.3%、「掃除・洗濯」「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」「見守り、声かけ」が24.4%となっている。

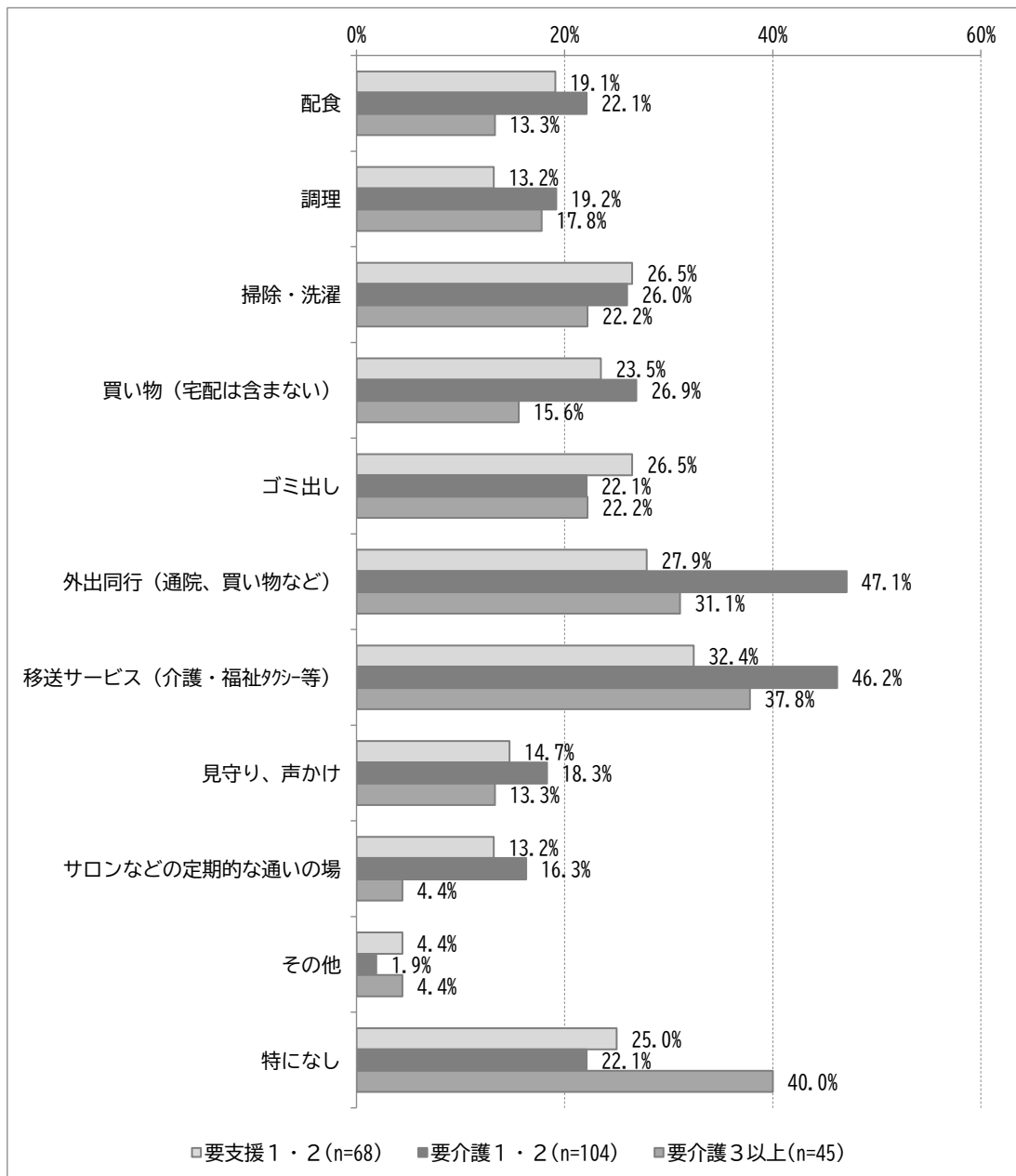
図表 3-10 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が32.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が27.9%、「掃除・洗濯」「ゴミ出し」が26.5%となっている。「要介護1・2」では「外出同行(通院、買い物など)」が47.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が46.2%、「買い物(宅配は含まない)」が26.9%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が40.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が37.8%、「外出同行(通院、買い物など)」が31.1%となっている。

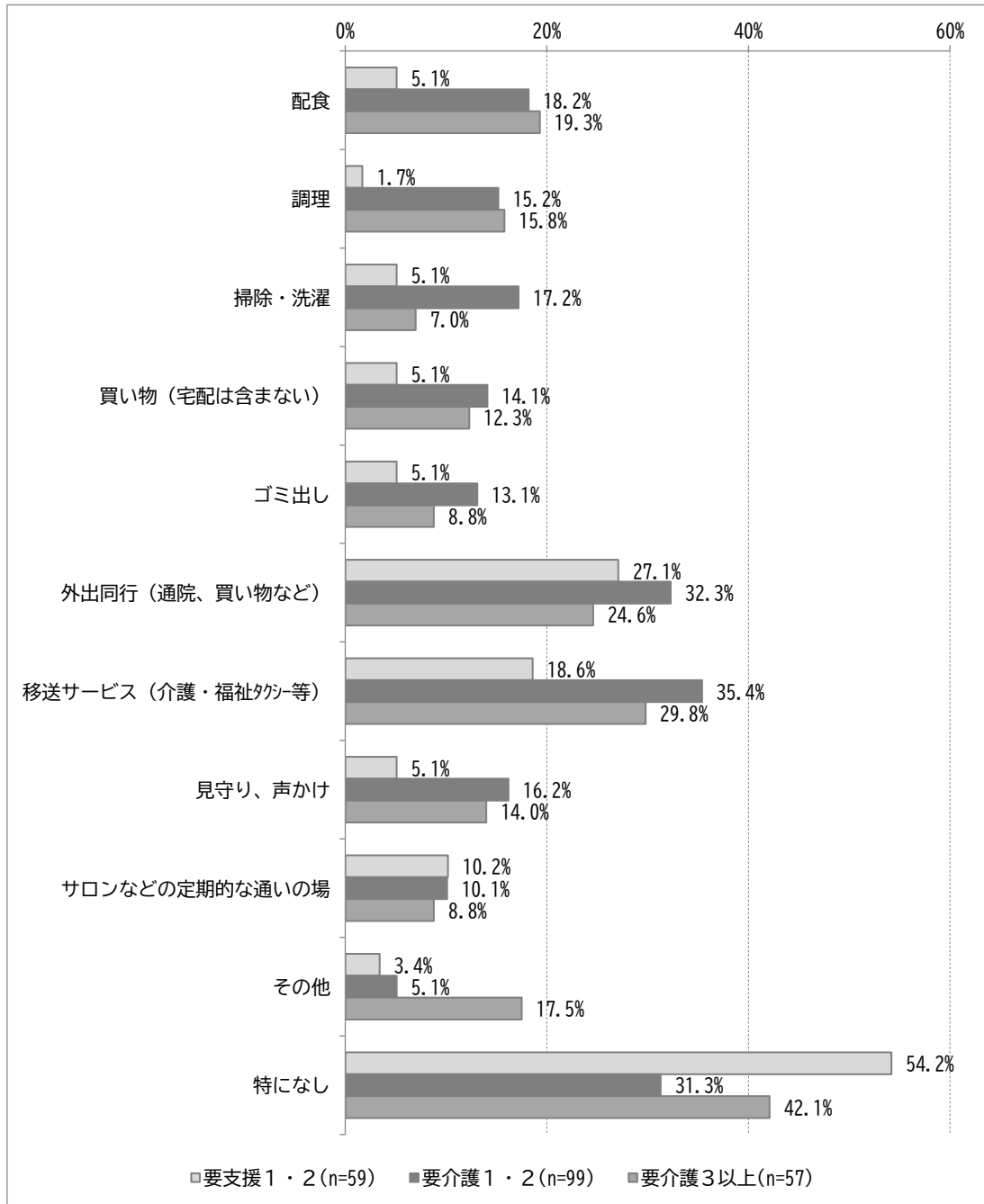
図表 3-11 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が54.2%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が27.1%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が18.6%となっている。「要介護1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が35.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が32.3%、「特になし」が31.3%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が42.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が29.8%、「外出同行(通院、買い物など)」が24.6%となっている。

図表 3-12 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



(5) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源整備に関する考察

① 保険外サービスと利用者の潜在的ニーズの乖離

調査結果を見ると、現在のサービス提供体制と市民のニーズとの間には、解消すべき乖離が見られます。現在、保険外サービスを「利用していない」方が51.2%と半数を超えていますが、実際には具体的な支援を求める声が多く寄せられています。

特に「移動」に関するニーズと現状の乖離は大きく、在宅生活を支える体制がまだ十分ではないことを示しています。

- 外出同行(通院、買い物など)

現在の利用状況は11.8%ですが、必要性を感じている割合は29.2%と、約2.5倍の乖離があります。

- 移送サービス(介護・福祉タクシー等)

必要性を感じる割合が28.5%と高く、外出手段の確保が、在宅生活を続けるための「重要なポイント」となっています。

ただし、アンケート結果には「なくても大丈夫だが、あれば良い」という程度の回答も含まれるため、数値が実際のニーズより過大に現れている可能性があることに留意する必要があります。しかし、「特になし(25.2%)」という回答の中には、適切なサービスが存在しないことによる「あきらめ」や情報不足が隠れている可能性も否定できません。

② 世帯類型別に見た重点的な支援

住み慣れた家で長く暮らしていくためには、世帯の状況に合わせた支援が必要です。(図表3-3、図表3-4)

- 単身世帯:生活の土台を支える家事支援

単身世帯では「掃除・洗濯(30.2%)」のニーズが高くなっています。また、要介護1・2の単身世帯では「ゴミ出し(34.1%)」を必要とする声が増加しています。日常の細やかな家事支援の不足が、生活の質の低下や在宅生活を困難にさせる原因となりかねません。

- 夫婦のみの世帯:高齢夫婦を支える移動支援

「送迎(39.4%)」や「外出同行(37.3%)」の希望が非常に高くなっています。配偶者も高齢になり、外出介助や運転が難しくなる「移動の壁」が、夫婦世帯での在宅生活を続ける上での大きな課題となっています。

- 同居家族がいる世帯:今は支え合えていても将来に不安

「特になし(38.8%)」という回答が最多ですが、これは現在の同居家族が頑張っている結果です。しかし、介護を担う方も高齢になる中、急病などでこれまでの支えが難しくなった際、在宅生活の維持が困難になる「潜在的な課題」があることに注意が必要です。

③ 重度化が進む中でのサービスの变化と在宅生活の維持

介護度が高まる過程において、保険外サービスは単なる利便性向上ではなく、在宅生活を支え続けるための「不可欠な手段」へと変化していきます。要支援から要介護への移行期において、全世帯で「外出同行」や「移送サービス」のニーズが増加します。身体機能の低下に伴い外出が困難になるこのタイミングが、社会とのつながりを保てるかどうかの転換点であることを示しています。

- 重度者における「特になし(40.3%)」という回答の背景

要介護3以上で「特になし」が増える背景には、すでに重度化により施設入所を具体的に検討している場合や、あるいは介護保険の支給限度額が上限に達し、経済的・精神的に保険外サービスまで検討する余裕がない「支援の行き詰まり」があると考えられます。(図表 3-9)

- 単身の重度者を孤立させないために

単身の要介護1・2の方で「配食(26.6%)」の利用率が高いこと(図表 3-6)は、栄養管理だけでなく、配達時の安否確認が孤立を防ぐ役割を果たしていると考えられます。

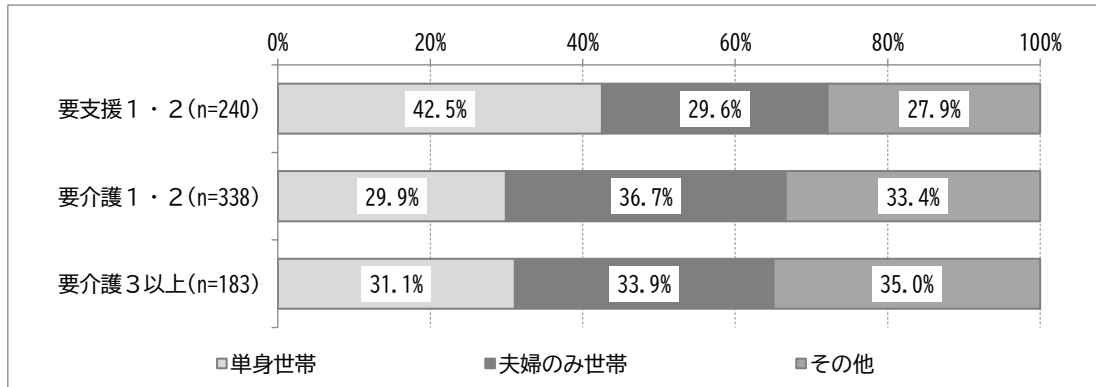
4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基礎集計

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「単身世帯」が42.5%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が29.6%、「その他」が27.9%となっている。「要介護1・2」では「夫婦のみ世帯」が36.7%と最も割合が高く、次いで「その他」が33.4%、「単身世帯」が29.9%となっている。「要介護3以上」では「その他」が35.0%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が33.9%、「単身世帯」が31.1%となっている。

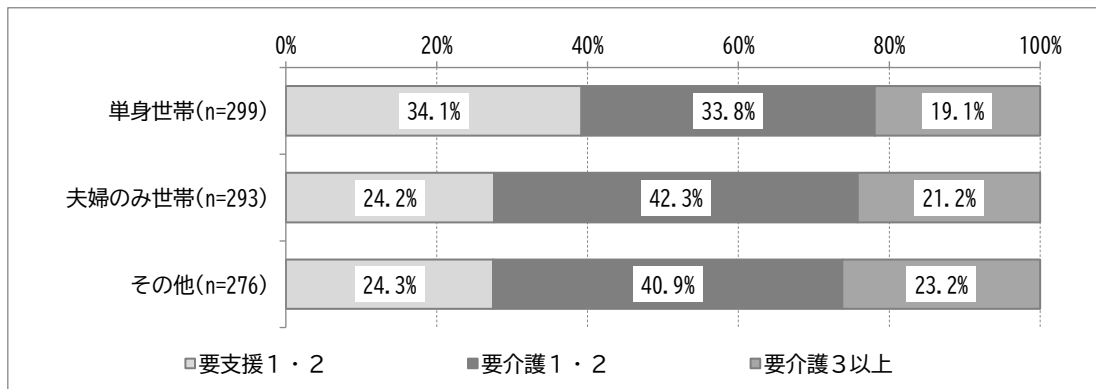
図表 4-1 要介護度別・世帯類型



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要支援1・2」が34.1%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が33.8%、「要介護3以上」が19.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要介護1・2」が42.3%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が24.2%、「要介護3以上」が21.2%となっている。「その他」では「要介護1・2」が40.9%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が24.3%、「要介護3以上」が23.2%となっている。

図表 4-2 世帯類型別・要介護度

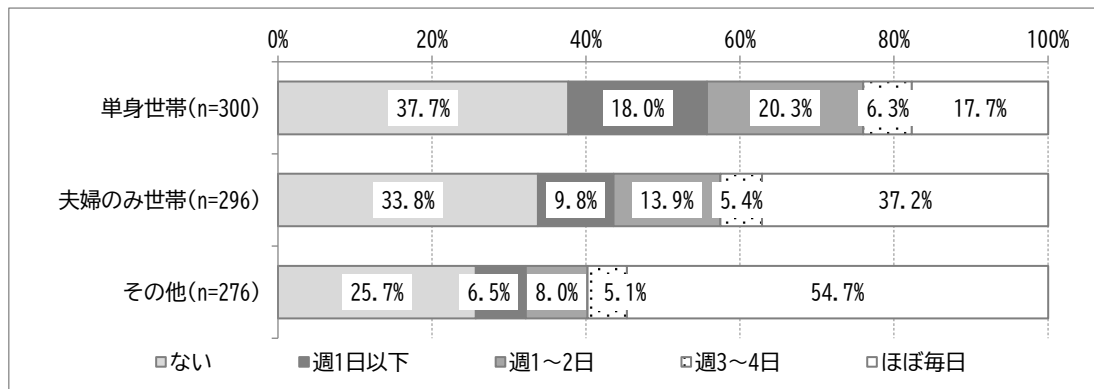


(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」が37.7%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が20.3%、「週1日以下」が18.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が37.2%と最も割合が高く、次いで「ない」が33.8%、「週1～2日」が13.9%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が54.7%と最も割合が高く、次いで「ない」が25.7%、「週1～2日」が8.0%となっている。

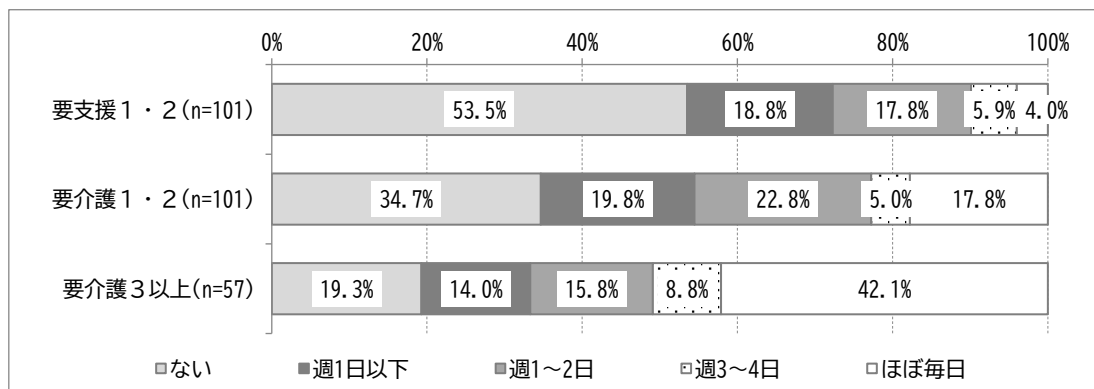
図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が53.5%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が18.8%、「週1～2日」が17.8%となっている。「要介護1・2」では「ない」が34.7%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が22.8%、「週1日以下」が19.8%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が42.1%と最も割合が高く、次いで「ない」が19.3%、「週1～2日」が15.8%となっている。

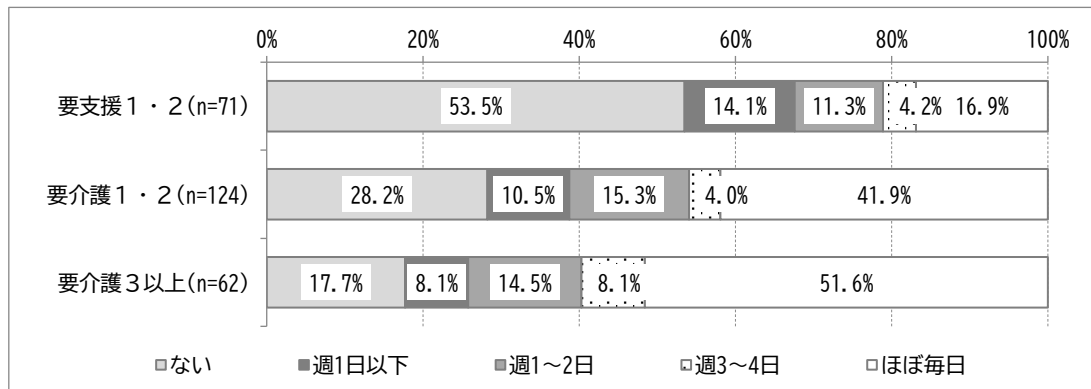
図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)



【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が53.5%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が16.9%、「週1日以下」が14.1%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が41.9%と最も割合が高く、次いで「ない」が28.2%、「週1～2日」が15.3%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が51.6%と最も割合が高く、次いで「ない」が17.7%、「週1～2日」が14.5%となっている。

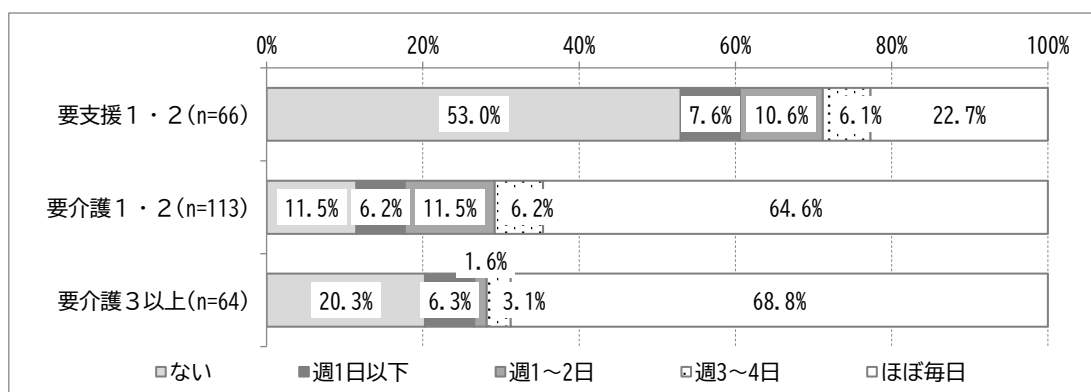
図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が53.0%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が22.7%、「週1～2日」が10.6%となっている。「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が64.6%と最も割合が高く、次いで「ない」、「週1～2日」が11.5%、「週1日以下」、「週3～4日」が6.2%となっている。「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が68.8%と最も割合が高く、次いで「ない」が20.3%、「週1日以下」が6.3%となっている。

図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度(その他世帯)

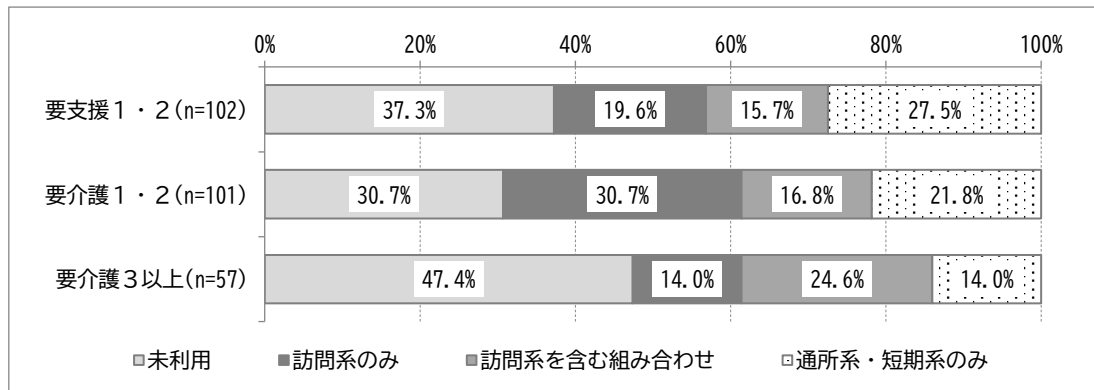


(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が37.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.5%、「訪問系のみ」が19.6%となっている。「要介護1・2」では「未利用」「訪問系のみ」が30.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が21.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が16.8%となっている。「要介護3以上」では「未利用」が47.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が24.6%、「訪問系のみ」「通所系・短期系のみ」が14.0%となっている。

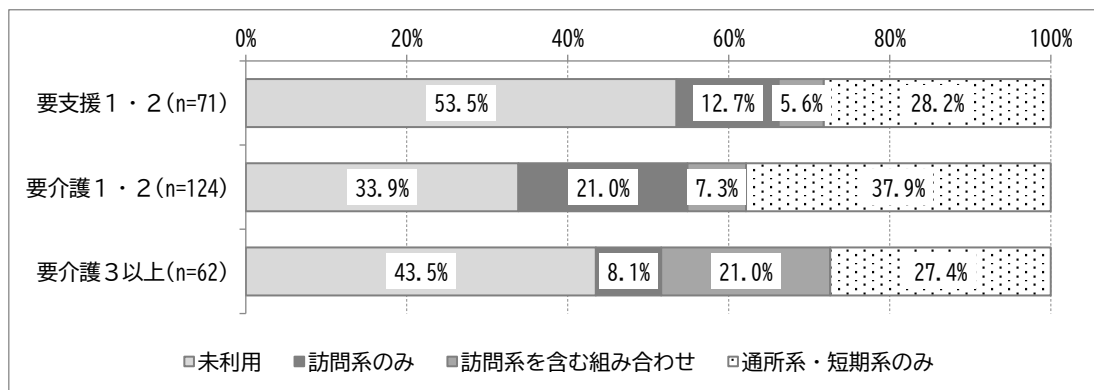
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が53.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.2%、「訪問系のみ」が12.7%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が37.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が33.9%、「訪問系のみ」が21.0%となっている。「要介護3以上」では「未利用」が43.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が21.0%となっている。

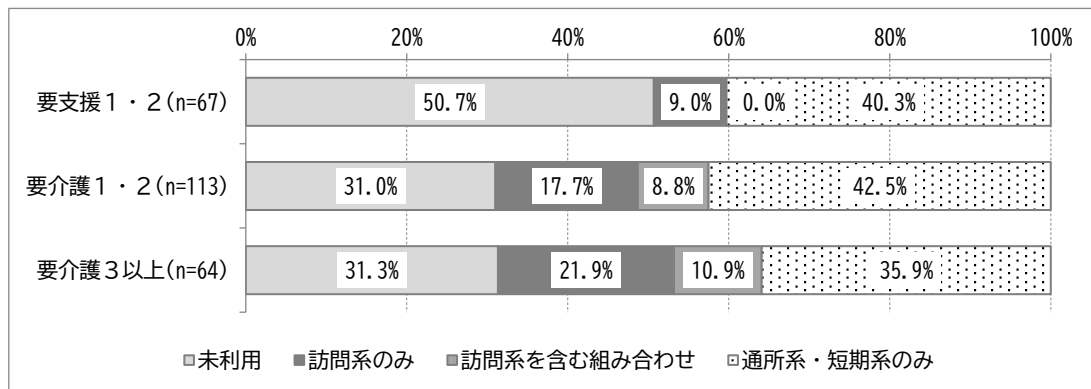
図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」が50.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が40.3%、「訪問系のみ」が9.0%となっている。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が42.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.0%、「訪問系のみ」が17.7%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が35.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.3%、「訪問系のみ」が21.9%となっている。

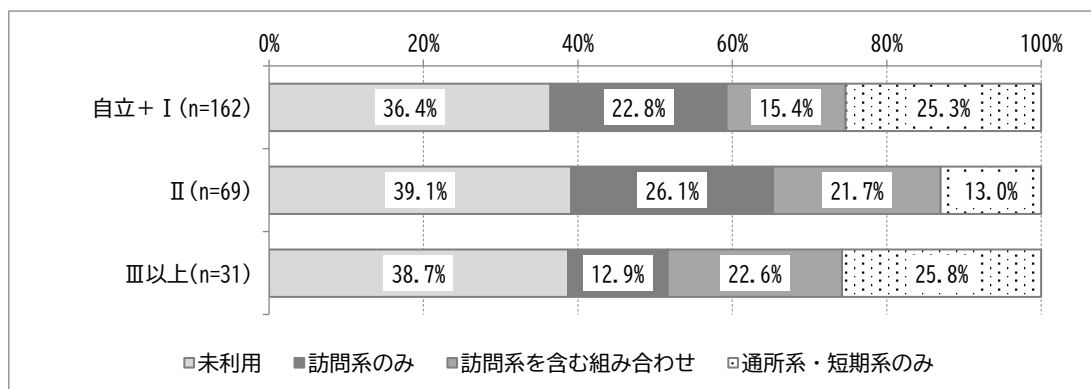
図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「未利用」が36.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.3%、「訪問系のみ」が22.8%となっている。「II」では「未利用」が39.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が26.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が21.7%となっている。「III以上」では「未利用」が38.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が25.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が22.6%となっている。

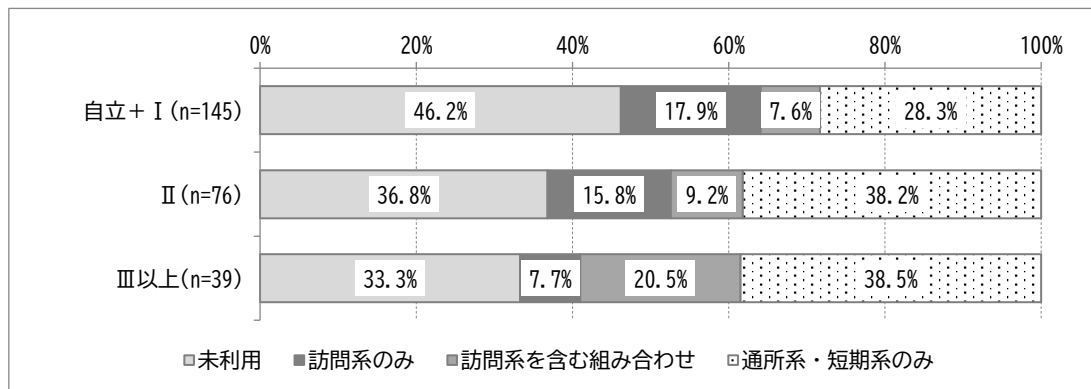
図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「未利用」が46.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.3%、「訪問系のみ」が17.9%となっている。「II」では「通所系・短期系のみ」が38.2%と最も割合が高く、次いで「未利用」が36.8%、「訪問系のみ」が15.8%となっている。「III以上」では「通所系・短期系のみ」が38.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が33.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が20.5%となっている。

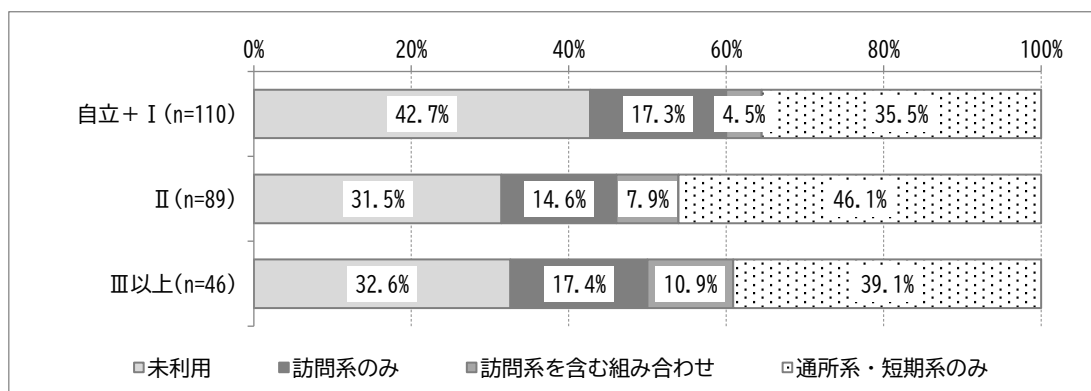
図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)<+>



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「未利用」が42.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が35.5%、「訪問系のみ」が17.3%となっている。「II」では「通所系・短期系のみ」が46.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.5%、「訪問系のみ」が14.6%となっている。「III以上」では「通所系・短期系のみ」が39.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が32.6%、「訪問系のみ」が17.4%となっている。

図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)

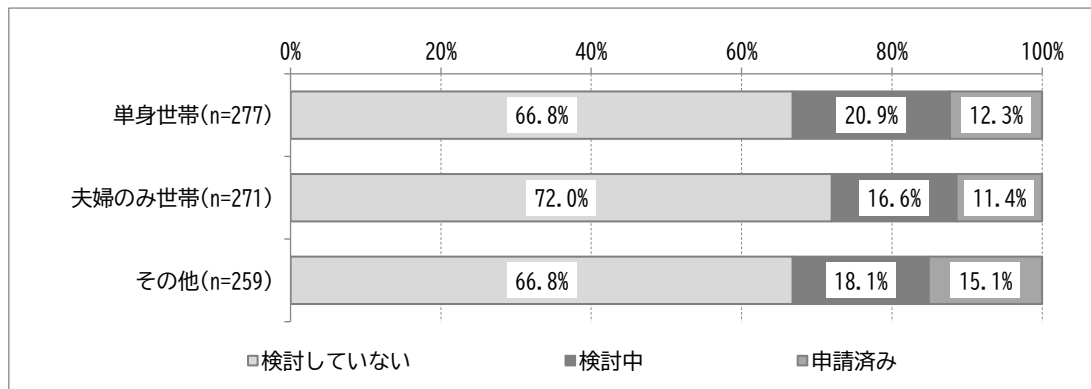


(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

【世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が66.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.9%、「申請済み」が12.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が72.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.6%、「申請済み」が11.4%となっている。「その他」では「検討していない」が66.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.1%、「申請済み」が15.1%となっている。

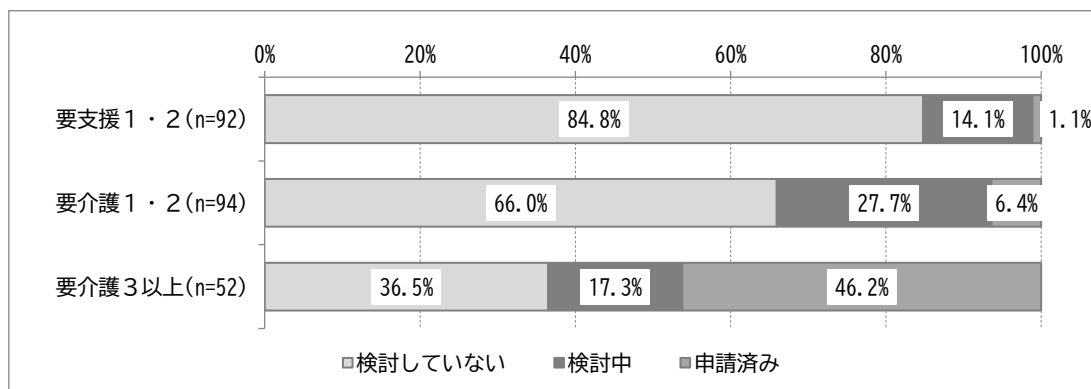
図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況(全要介護度)



【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が84.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が14.1%、「申請済み」が1.1%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が66.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.7%、「申請済み」が6.4%となっている。「要介護3以上」では「申請済み」が46.2%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が36.5%、「検討中」が17.3%となっている。

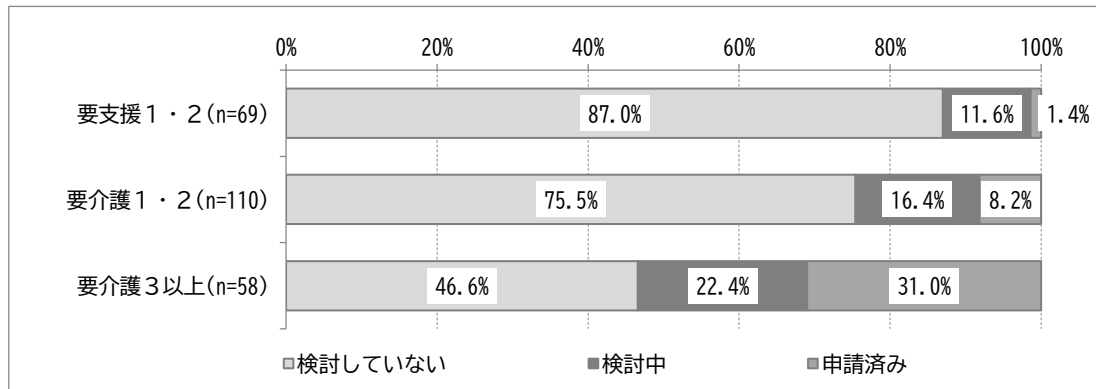
図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)



【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が87.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.6%、「申請済み」が1.4%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が75.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.4%、「申請済み」が8.2%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が46.6%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が31.0%、「検討中」が22.4%となっている。

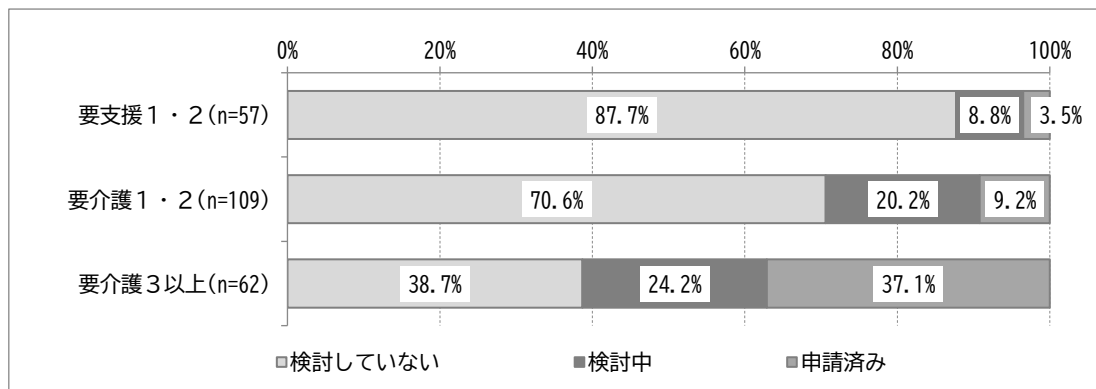
図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が87.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が8.8%、「申請済み」が3.5%となっている。「要介護1・2」では「検討していない」が70.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.2%、「申請済み」が9.2%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が38.7%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が37.1%、「検討中」が24.2%となっている。

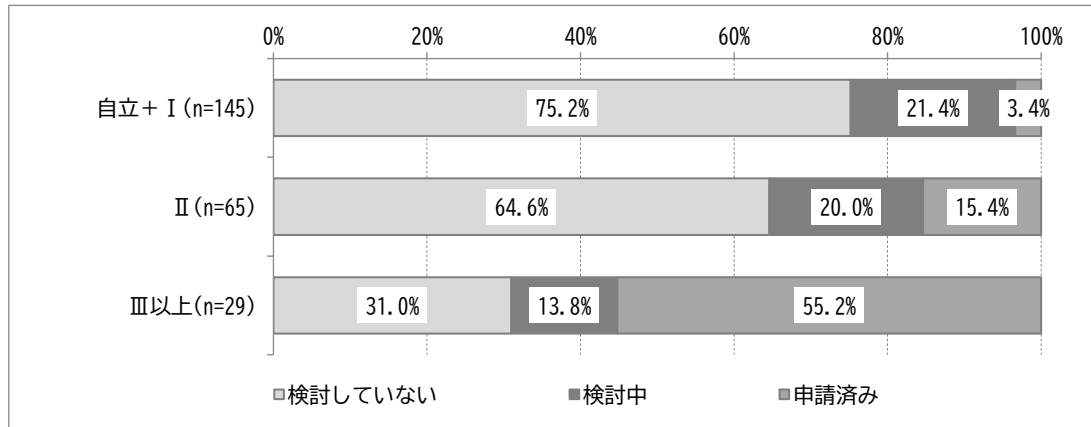
図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)



【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が75.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.4%、「申請済み」が3.4%となっている。「II」では「検討していない」が64.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%、「申請済み」が15.4%となっている。「III以上」では「申請済み」が55.2%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が31.0%、「検討中」が13.8%となっている。

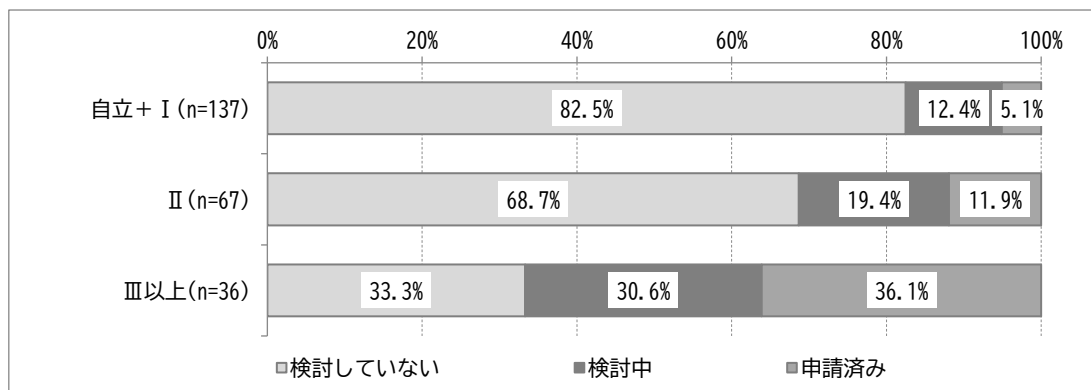
図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)



【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が82.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が12.4%、「申請済み」が5.1%となっている。「II」では「検討していない」が68.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が19.4%、「申請済み」が11.9%となっている。「III以上」では「申請済み」が36.1%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「検討中」が30.6%となっている。

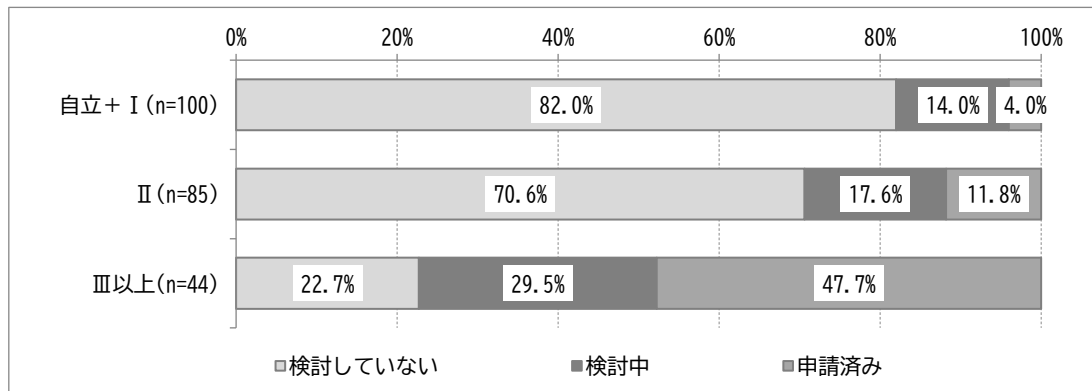
図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「検討していない」が82.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が14.0%、「申請済み」が4.0%となっている。「II」では「検討していない」が70.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.6%、「申請済み」が11.8%となっている。「III以上」では「申請済み」が47.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が29.5%、「検討していない」が22.7%となっている。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)



(5) 将来の世帯類型の変化に応じた介護サービス提供体制に関する考察

① 世帯の状況とお体の状態の関係: 重度化による暮らしの変化

図表 4-1 および 4-2 のデータを確認すると、重度化(要介護3以上)に伴って、「その他(同居世帯)」が35.0%に増えています。これは、重度化に伴い一人暮らしを続けることが難しくなり、親族など同居せざるを得ない現状を示しています。注目すべきは、単身世帯で重度(要介護3以上)の方は全体の約2割(19.1%)に留まっている点です。多くの方が自宅での生活を離れざるを得ない状況にあり、一人暮らしの重度の方を支える支援体制の充実が求められています。

② 家族等による介護の実態

図表 4-3~4-6 によれば、要介護3以上の単身世帯の42.1%が「ほぼ毎日」家族などの介護を受けています。これは、重度の単身者が在宅生活を続けるためには、近くに住む家族などの手厚い支援が欠かせないことを示しています。支援する側の高齢化や就労状況が変われば、今の生活を維持できなくなるリスクが高い状態と言えます。

③ サービスの利用方法と在宅生活継続の検討

世帯類型と認知症自立度は、介護サービスの組み合わせ(訪問・通所・短期)を規定する主要因です。しかし、データからは、サービス提供体制が十分に機能していない可能性を示す課題も見られます。

図表 4-7~4-12 の分析から、要介護3以上の単身世帯の47.4%がサービスを「未利用」とあるという事実は、これを「自立」と捉えるのではなく、支援から孤立している「危険な状況」と考えるべきです。

また、認知症自立度 III 以上の認知症状が進んでいる単身世帯の38.7%がサービスを利用していません。認知症の進行によりサービスの手続きなどが難しくなる一方で、これほど高い未利用率があることは、適切な支援が届かないまま、施設入所を検討せざるを得ない状況を生み出している可能性があります。

④ 施設入所の検討状況に見る在宅生活の課題

図表 4-13～4-19 を比較すると、単身世帯が要介護3以上になると、施設入所の「申請済」割合が 46.2%に増加します。さらに認知症自立度でみると、単身世帯では自立度 II の申請率 15.4%に対し、III 以上では 55.2%へと大幅に上昇します。この「II から III への移行」し、認知症状が進むこの時期が、在宅生活を継続するかどうかの転換点となっています。

一方で、「夫婦のみ世帯」では、要介護3以上でも 46.6%が「検討していない」と回答していますが、この世帯の 51.6%が「ほぼ毎日」介護を担っています。これは在宅継続の強い意思というより、高齢夫婦が限界まで頑張っている「共倒れ」の恐れがある状態です。唯一の支えである配偶者が倒れた際、深刻な状況に陥るリスクがあり、事前の備えが必要です。

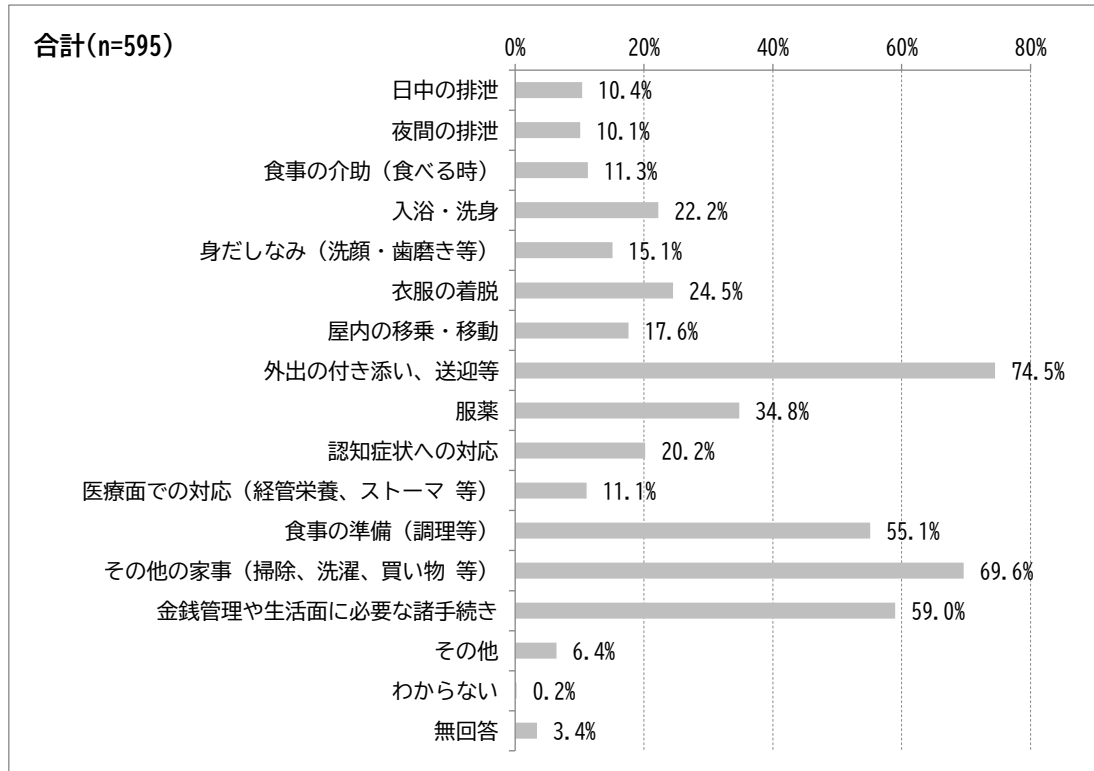
5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

(1) 基礎集計

【★主な介護者が行っている介護】

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く74.5%となっている。次いで、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)(69.6%)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き(59.0%)」となっている。

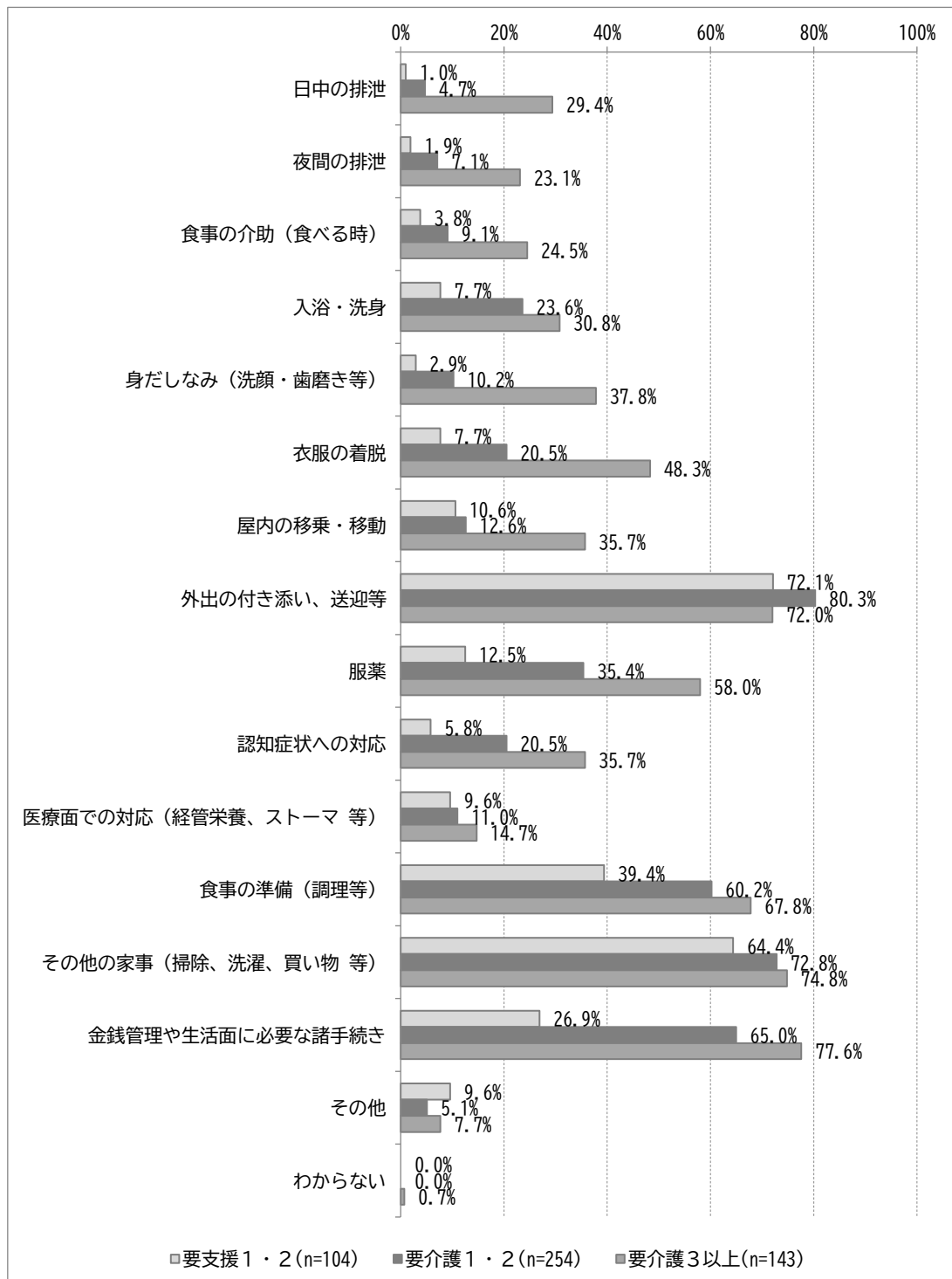
図表 5-1 ★主な介護者が行っている介護



【要介護度別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が72.1%と最も割合が高く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」が64.4%、「食事の準備(調理等)」が39.4%となっている。「要介護1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が80.3%と最も割合が高く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」が72.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が65.0%となっている。「要介護3以上」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が77.6%と最も割合が高く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」が74.8%、「外出の付き添い、送迎等」が72.0%となっている。

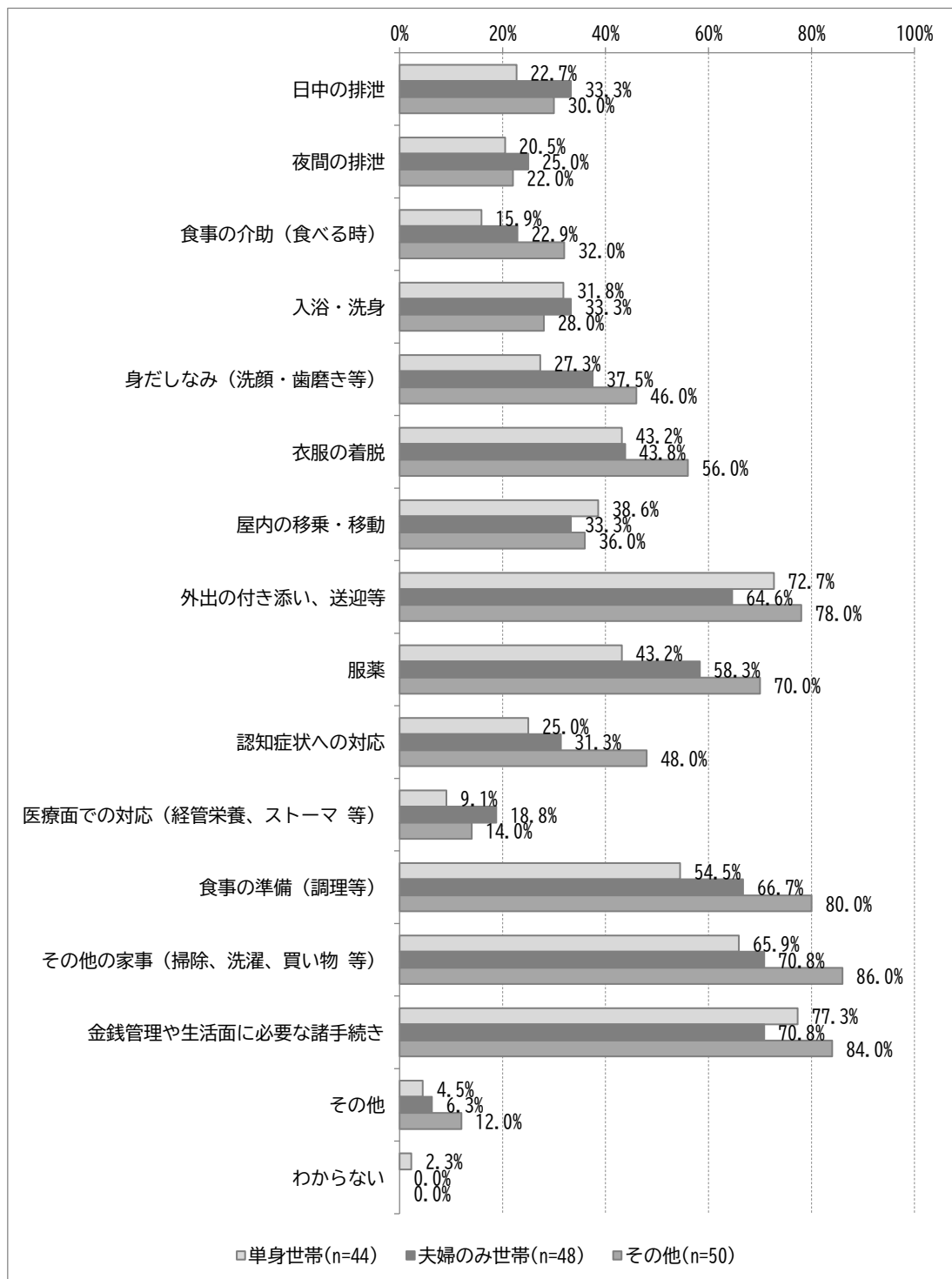
図表 5-2 要介護度別・★主な介護者が行っている介護



【世帯類型別・★主な介護者が行っている介護(要介護3以上)】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が77.3%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が72.7%、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が65.9%となっている。「夫婦のみ世帯」では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が70.8%と最も割合が高く、次いで「食事の準備(調理等)」が66.7%、「外出の付き添い、送迎等」が64.6%となっている。「その他」では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が86.0%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が84.0%、「食事の準備(調理等)」が80.0%となっている。

図表 5-3 世帯類型別・★主な介護者が行っている介護(要介護3以上)

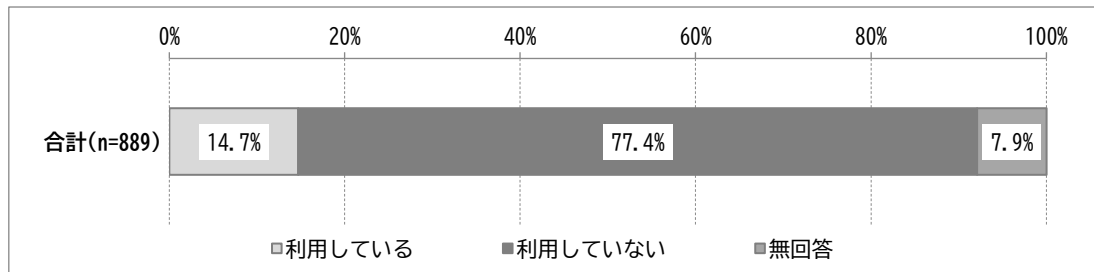


(2) 訪問診療の利用割合

【★訪問診療の利用の有無】

「利用していない」の割合が最も高く77.4%となっている。次いで、「利用している(14.7%)」となっている。

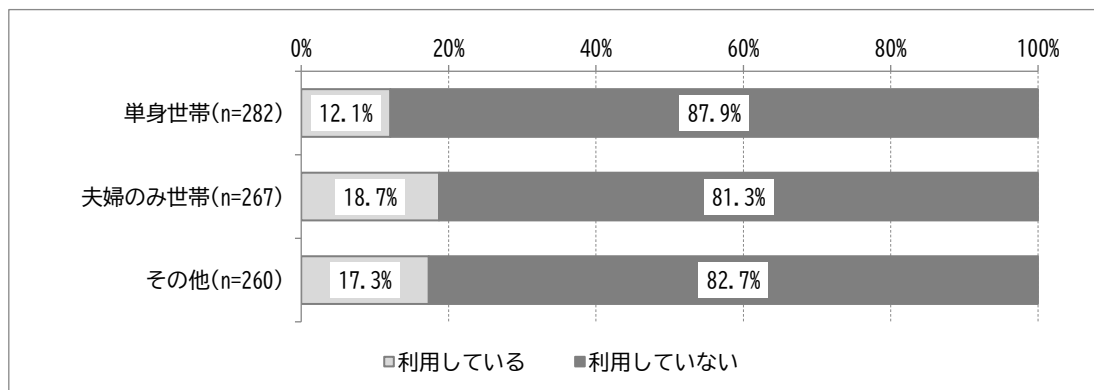
図表 5-4 ★訪問診療の利用の有無



【世帯類型別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が87.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が12.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が81.3%と最も割合が高く、次いで「利用している」が18.7%となっている。「その他」では「利用していない」が82.7%と最も割合が高く、次いで「利用している」が17.3%となっている。

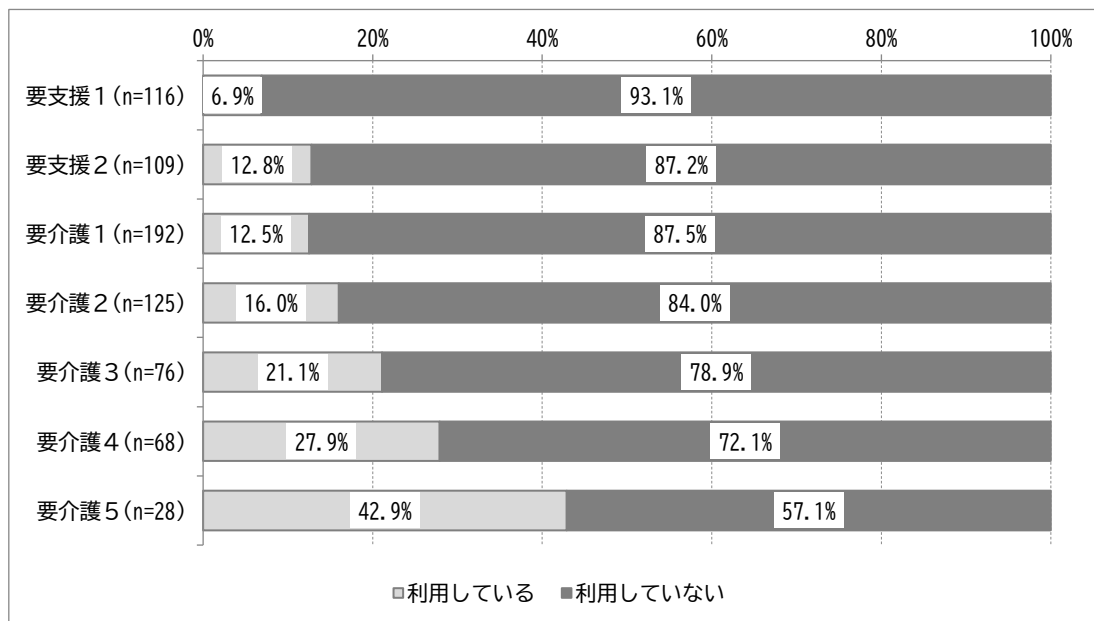
図表 5-5 世帯類型別・★訪問診療の利用割合



【要介護度別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要支援1」では「利用していない」が93.1%と最も割合が高く、次いで「利用している」が6.9%となっている。「要支援2」では「利用していない」が87.2%と最も割合が高く、次いで「利用している」が12.8%となっている。「要介護1」では「利用していない」が87.5%と最も割合が高く、次いで「利用している」が12.5%となっている。「要介護2」では「利用していない」が84.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が16.0%となっている。「要介護3」では「利用していない」が78.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が21.1%となっている。「要介護4」では「利用していない」が72.1%と最も割合が高く、次いで「利用している」が27.9%となっている。「要介護5」では「利用していない」が57.1%と最も割合が高く、次いで「利用している」が42.9%となっている。

図表 5-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合

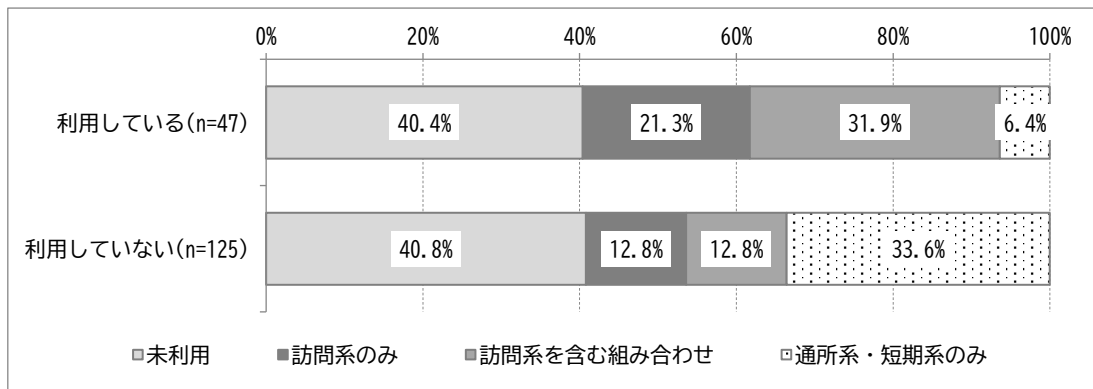


(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ(要介護3以上)】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「未利用」が40.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が31.9%、「訪問系のみ」が21.3%となっている。「利用していない」では「未利用」が40.8%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.6%、「訪問系のみ」が12.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が12.8%となっている。

図表 5-7 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ(要介護3以上)

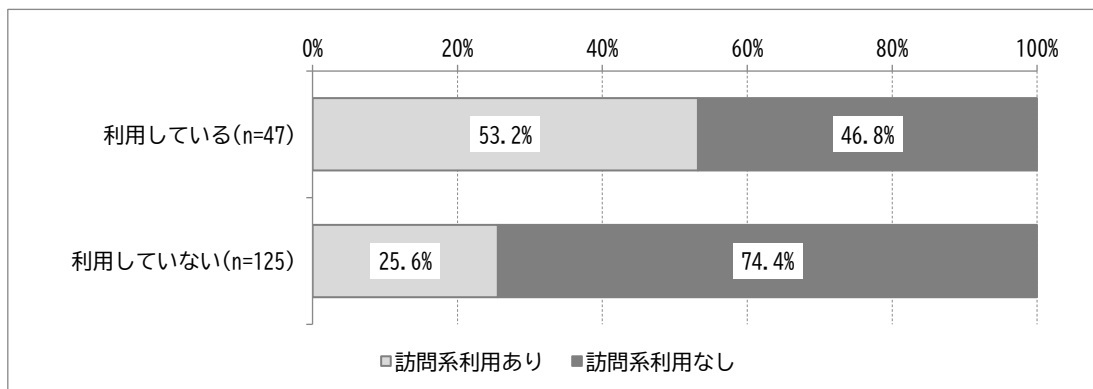


(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無(訪問系、要介護3以上)】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が53.2%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用なし」が46.8%となっている。「利用していない」では「訪問系利用なし」が74.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用あり」が25.6%となっている。

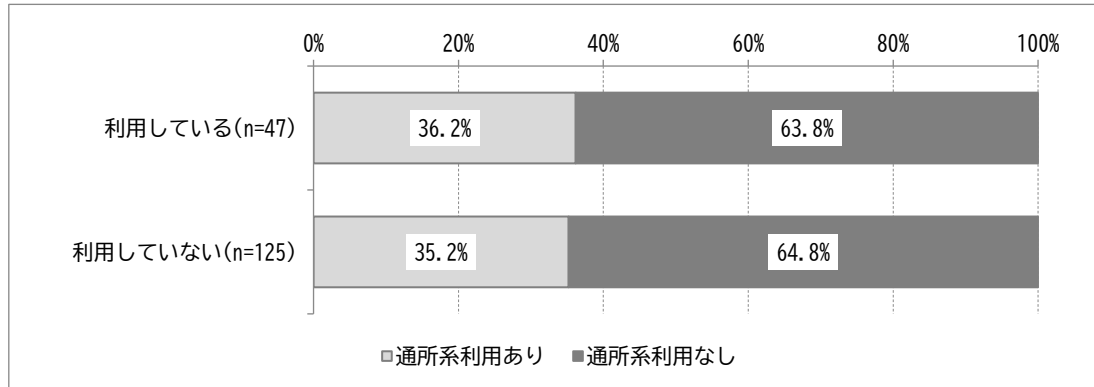
図表 5-8 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無(訪問系、要介護3以上)



【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無(通所系、要介護3以上)】

通所系の利用の有無(定期巡回を除く)を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用なし」が63.8%と最も割合が高く、次いで「通所系利用あり」が36.2%となっている。「利用していない」では「通所系利用なし」が64.8%と最も割合が高く、次いで「通所系利用あり」が35.2%となっている。

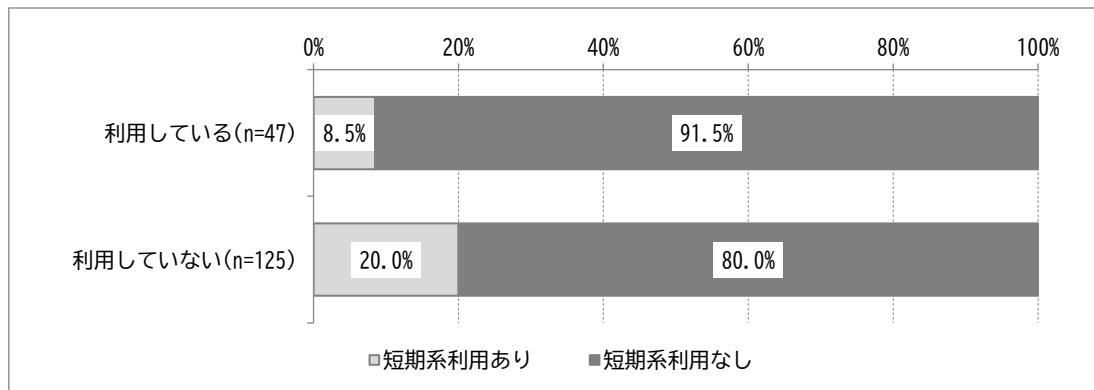
図表 5-9 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無(通所系、要介護3以上)



【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無(短期系、要介護3以上)】

短期系の利用の有無(定期巡回を除く)を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が91.5%と最も割合が高く、次いで「短期系利用あり」が8.5%となっている。「利用していない」では「短期系利用なし」が80.0%と最も割合が高く、次いで「短期系利用あり」が20.0%となっている。

図表 5-10 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無(短期系、要介護3以上)<+>



(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援に関する考察

① 介護を担う家族の負担と世帯ごとの特徴

家族介護の現状を見ると、「外出の付き添い(74.5%)」「家事(69.6%)」「金銭管理や諸手続き(59.0%)」が上位を占めています。これは、食事や排泄の介助以上に、家事や金銭管理といった「日常生活の支援」が家族の日常的な負担になっていることを示しています。こうした暮らしへの支援が不足すると、介護をする方の疲れが溜まるだけでなく、自宅での療養生活を続けることが難しくなる恐れがあります。

- 状態が進むにつれた負担の変化

要介護3以上になると「金銭管理や手続き」の負担を感じる方が 77.6%に達し、最も多くなります。身体状況の変化に伴い、社会的な手続きや事務的な管理が大きな負担となっています。

- 世帯に合わせた重点的な支援

「単身世帯」では金銭管理や手続き(77.3%)、「夫婦のみ世帯」では食事の準備(66.7%)が特に大きな負担です。単身世帯には成年後見制度などの権利を守る支援、夫婦のみの世帯には家事代行などの生活を支える支援を、優先的に届ける必要があります。

② 医療的なケアへの着目

医療的なケア(経管栄養など)を担う家族の負担は非常に重く、常に緊張を強いられます。こうしたケアに伴う不安や疲れは深刻で、家族の精神力だけに頼るのには限界があります。市として、専門職による休息支援(レスパイト)の体制構築が急務と考えています。

③ 訪問診療の利用状況とこれからの必要性

- 身体状況の変化による利用率の高まり

訪問診療(医師による訪問)の利用は、要介護度が進むにつれて増加していきます。要介護5で 42.9%を超える方が利用している事実は、重度者にとって医療的管理が欠かせないことを示しています。訪問診療は、状態の悪化を防ぎ、最期まで自分らしく暮らすために不可欠な役割を担っています。

- 一人暮らしの方の利用の課題

単身世帯の訪問診療の利用率(12.1%)は、夫婦のみ世帯より低くなっています。これは単身世帯の場合、体調の変化に周囲が気づきにくい状況があることを示しています。異変を早めに見つけて医療につなげるための積極的な訪問(アウトリーチ)の強化が求められます。

④ 訪問診療の利用によるサービスの変化

- 訪問サービスとの連携

訪問診療を利用している要介護3以上の方のうち、53.2%が訪問介護などのサービスを利用しており、非利用者(25.6%)の2倍以上となっています。訪問診療をきっかけとして、訪問看護や介護を組み合わせ、自宅で医療と介護を一体的に受けられる体制づくりが進んでいます。

- ショートステイ利用の課題

一方で、訪問診療利用者のショートステイ利用(8.5%)は、利用していない方(20.0%)に比べて非常に

少ない状況です。これは、医療的なケアが必要な方を施設で受け入れられる体制が、まだ十分でないことが原因の一つと考えられます。施設の受け入れ能力について、関係する専門職の間で具体的に検討・確認を進めます。

- サービスを利用していない方の状況

要介護3以上の方の約4割がサービスを利用していない現状は、深刻な「潜在的な課題」です。家族が無理をして支えている場合が多く、急な悪化で共倒れになる恐れがあります。こうした方々を早期に見つけ出し、事前にサポートする体制を整えていきます。

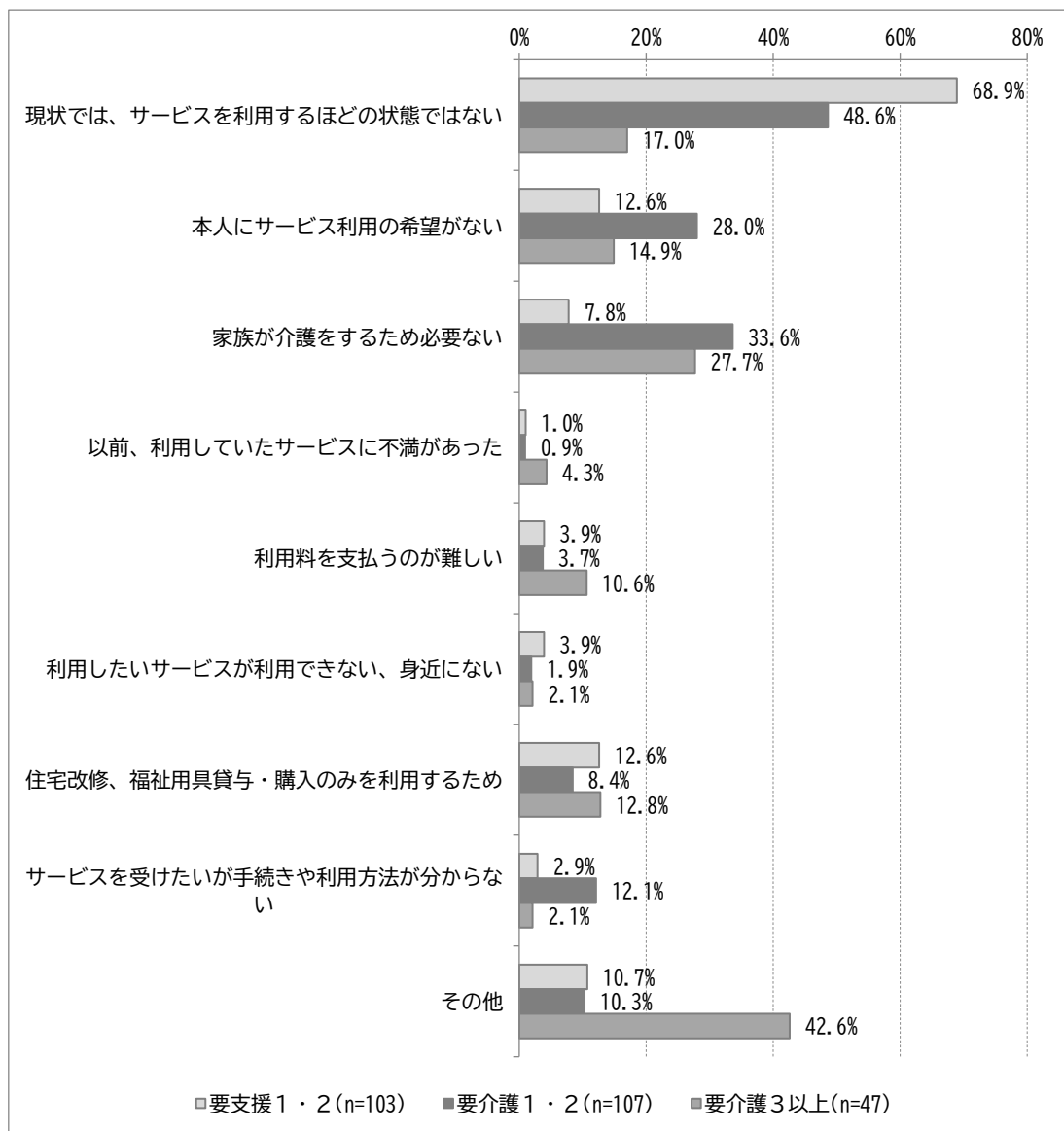
6. サービス未利用の理由など

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【要介護度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が68.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が12.6%、「その他」が10.7%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が48.6%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が33.6%、「本人にサービス利用の希望がない」が28.0%となっている。「要介護3以上」では「その他」が42.6%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が27.7%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が17.0%となっている。

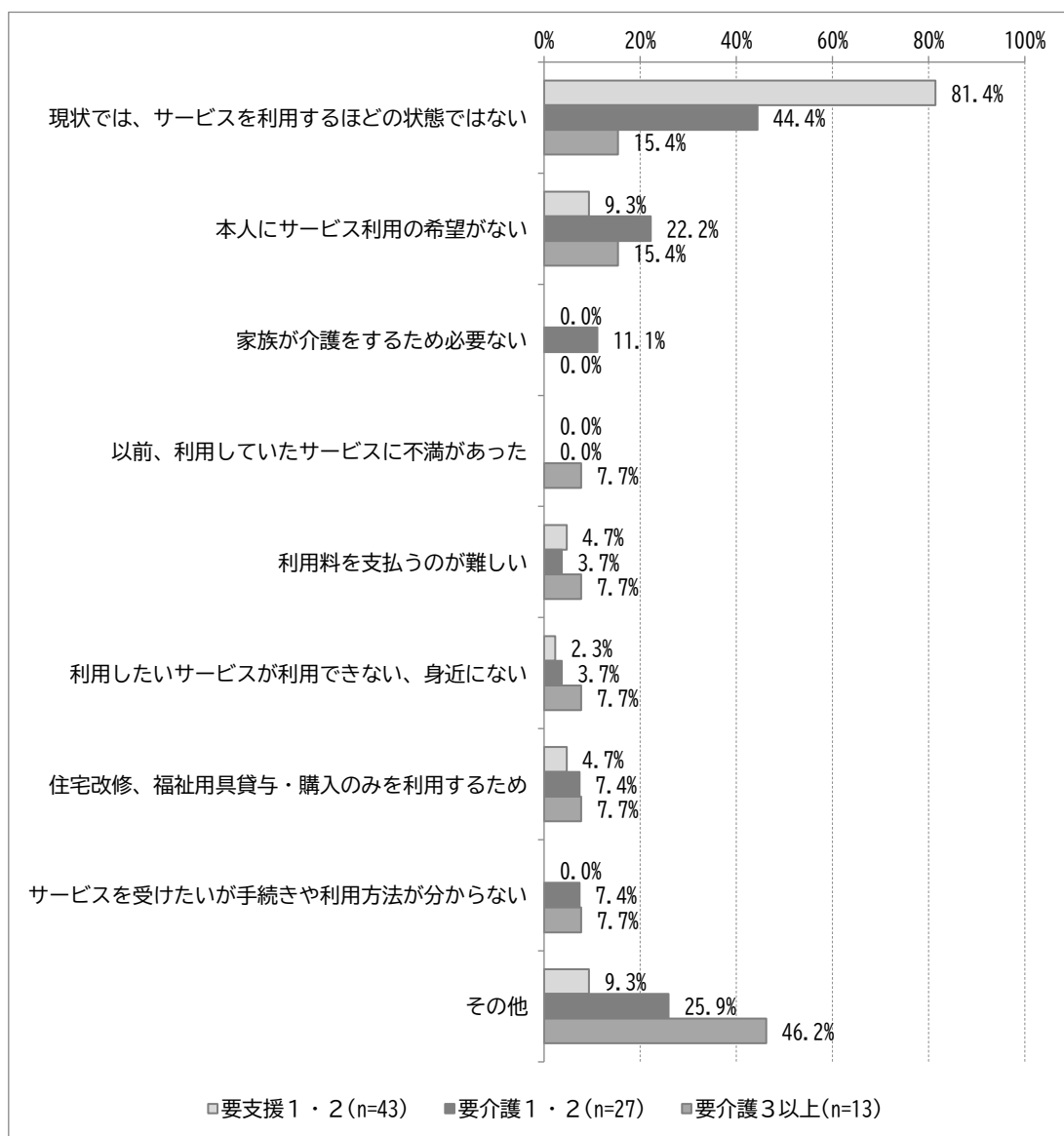
図表 6-1 要介護度別の★サービス未利用の理由



【要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が81.4%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」「その他」が9.3%、「利用料を支払うのが難しい」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が4.7%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が44.4%と最も割合が高く、次いで「その他」が25.9%、「本人にサービス利用の希望がない」が22.2%となっている。「要介護3以上」では「その他」が46.2%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」「本人にサービス利用の希望がない」が15.4%、「以前、利用していたサービスに不満があった」「利用料を支払うのが難しい」「利用したいサービスが利用できない、身近にない」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が7.7%となっている。

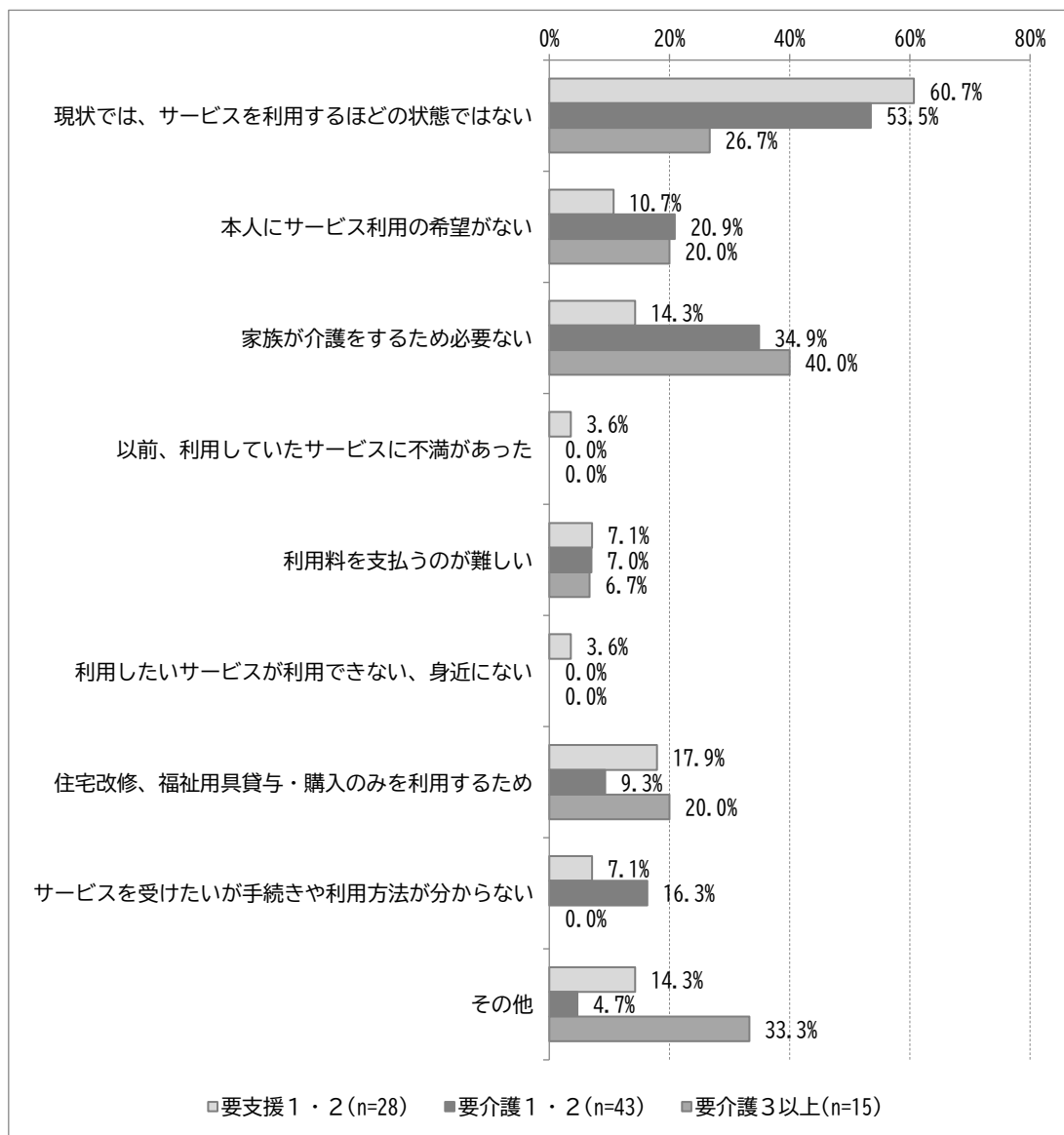
図表 6-2 要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)



【要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.7%と最も割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が17.9%、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が14.3%となっている。「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が53.5%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が34.9%、「本人にサービス利用の希望がない」が20.9%となっている。「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が33.3%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が26.7%となっている。

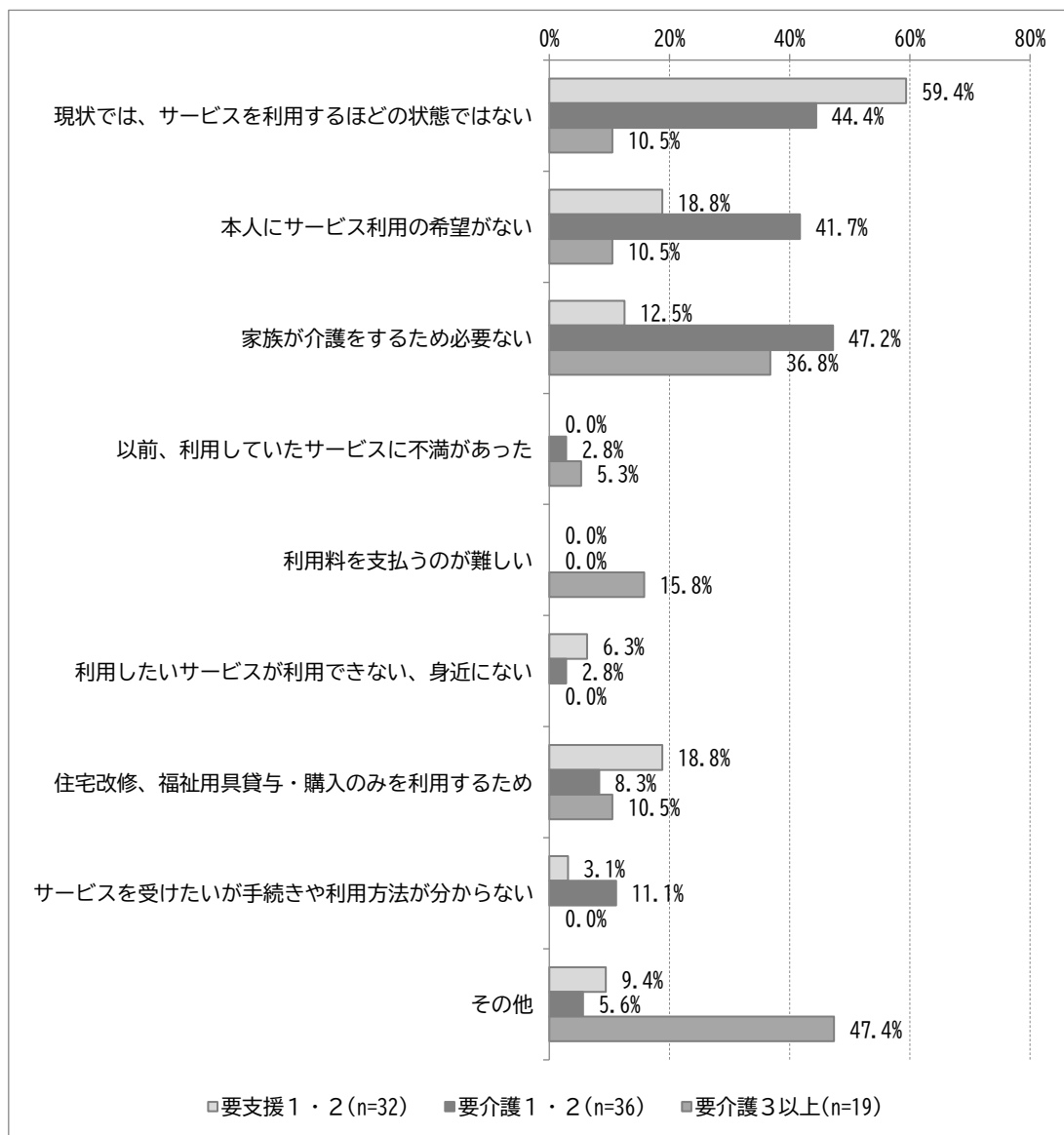
図表 6-3 要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)



【要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が59.4%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が18.8%、「家族が介護をするため必要ない」が12.5%となっている。「要介護1・2」では「家族が介護をするため必要ない」が47.2%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が44.4%、「本人にサービス利用の希望がない」が41.7%となっている。「要介護3以上」では「その他」が47.4%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が36.8%、「利用料を支払うのが難しい」が15.8%となっている。

図表 6-4 要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)

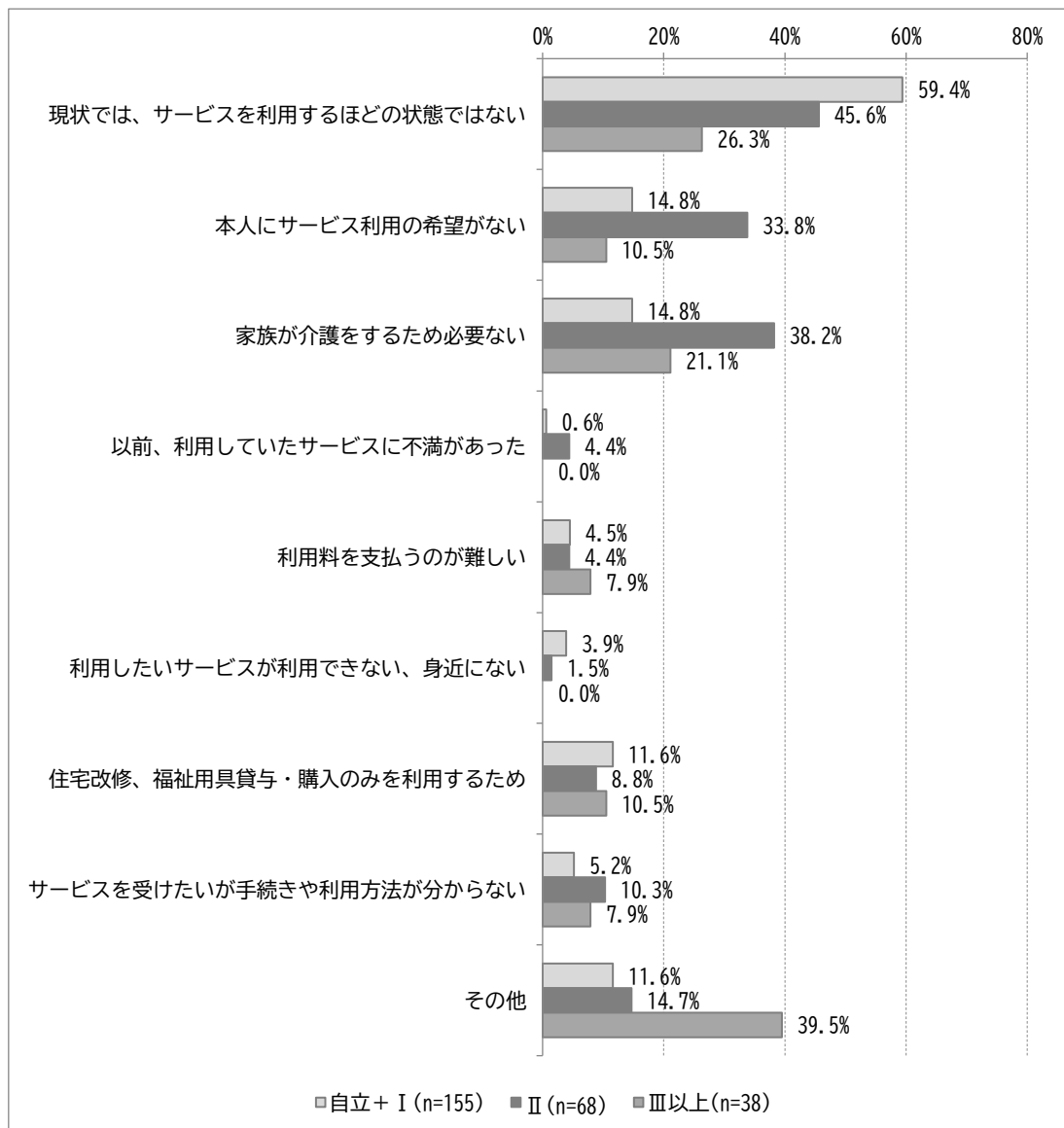


(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が59.4%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」「家族が介護をするため必要ない」が14.8%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」「その他」が11.6%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が45.6%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が38.2%、「本人にサービス利用の希望がない」が33.8%となっている。「Ⅲ以上」では「その他」が39.5%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が26.3%、「家族が介護をするため必要ない」が21.1%となっている。

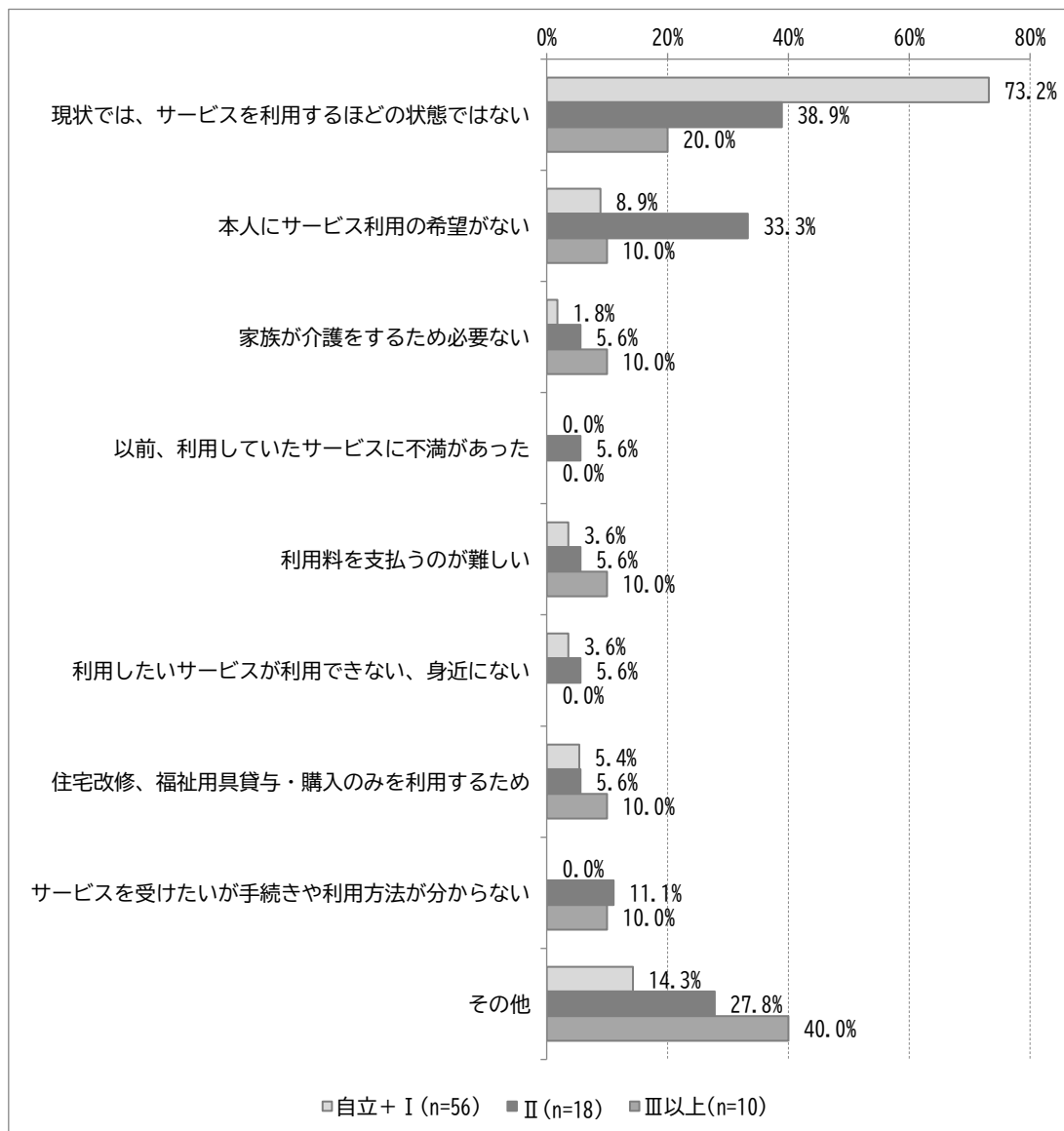
図表 6-5 認知症自立度別の★サービス未利用の理由



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が73.2%と最も割合が高く、次いで「その他」が14.3%、「本人にサービス利用の希望がない」が8.9%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が38.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が33.3%、「その他」が27.8%となっている。「Ⅲ以上」では「その他」が40.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が20.0%、「本人にサービス利用の希望がない」「家族が介護をするため必要ない」「利用料を支払うのが難しい」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が10.0%となっている。

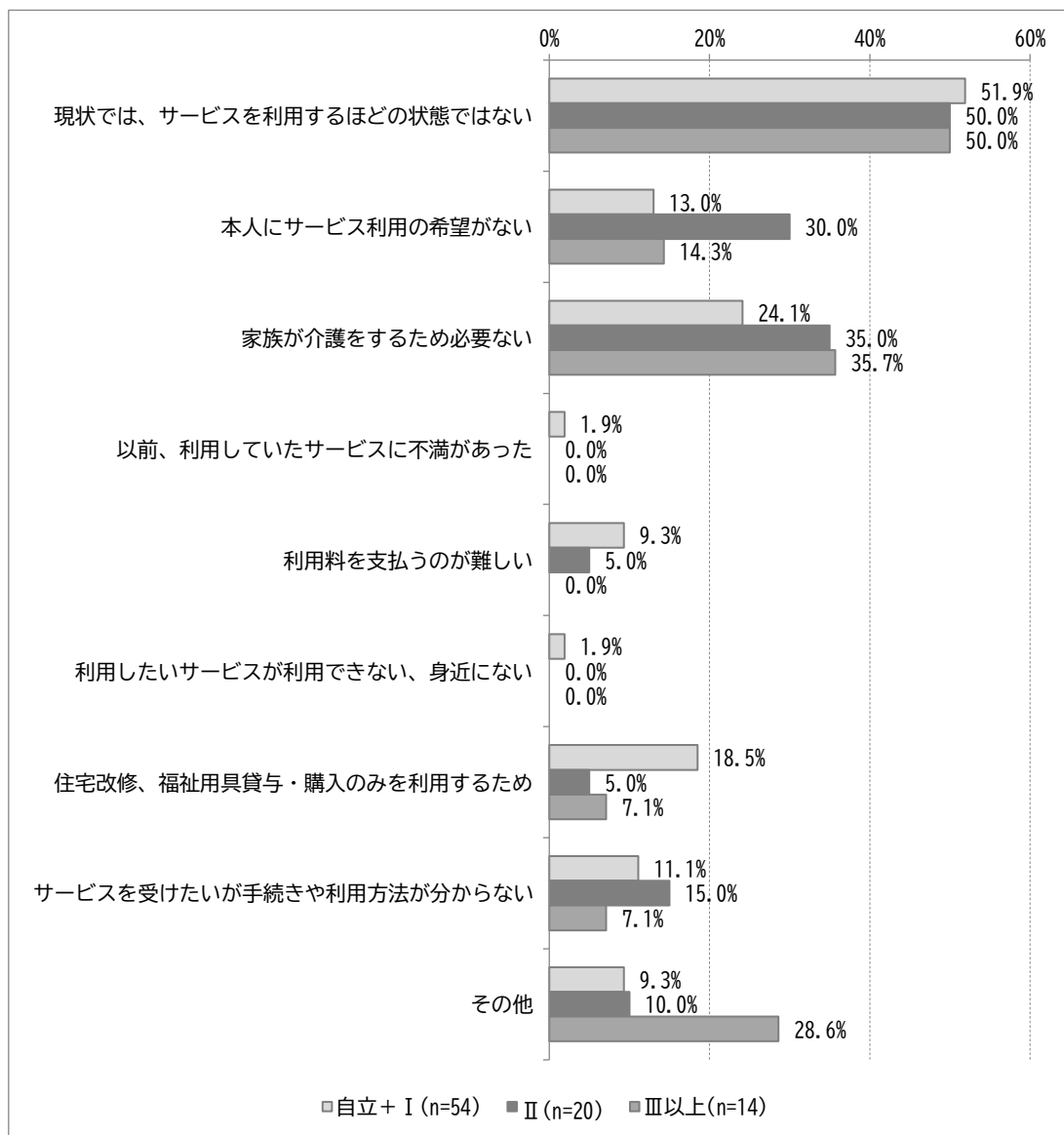
図表 6-6 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.9%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が24.1%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が18.5%となっている。「II」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が35.0%、「本人にサービス利用の希望がない」が30.0%となっている。「III以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が35.7%、「その他」が28.6%となっている。

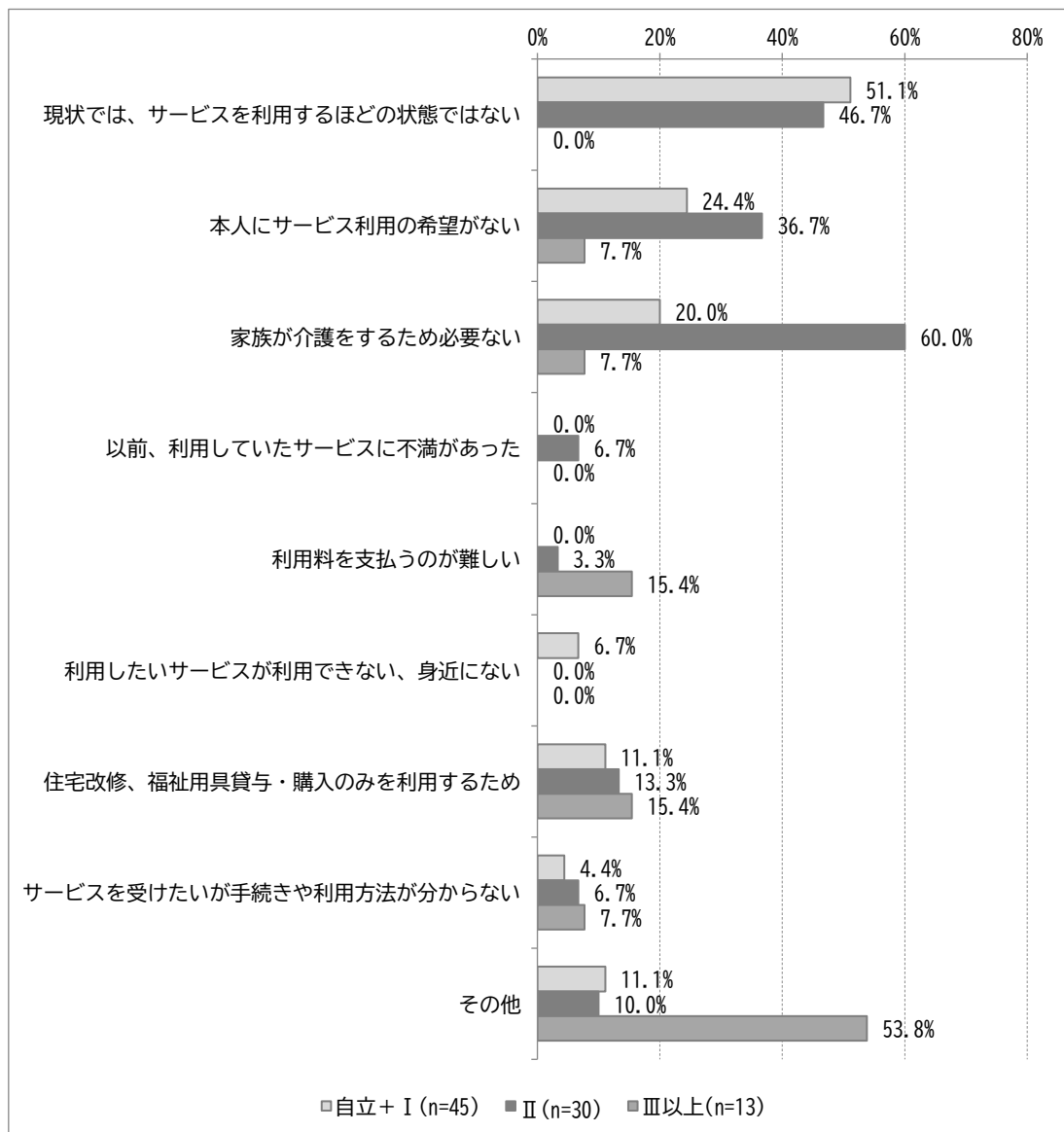
図表 6-7 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.1%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が24.4%、「家族が介護をするため必要ない」が20.0%となっている。「Ⅱ」では「家族が介護をするため必要ない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が46.7%、「本人にサービス利用の希望がない」が36.7%となっている。「Ⅲ以上」では「その他」が53.8%と最も割合が高く、次いで「利用料を支払うのが難しい」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が15.4%、「本人にサービス利用の希望がない」「家族が介護をするため必要ない」「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が7.7%となっている。

図表 6-8 認知症自立度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)

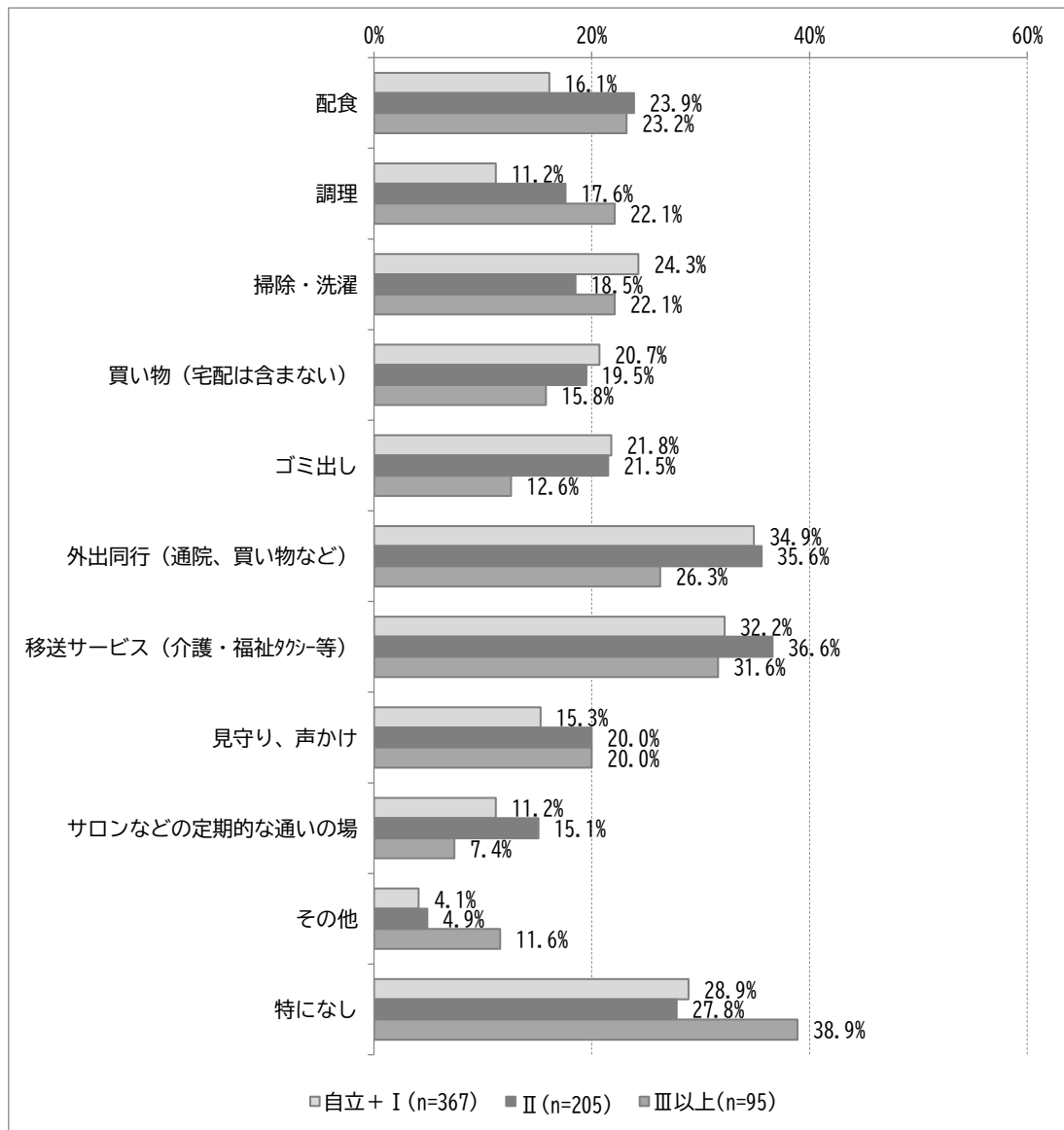


(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス

【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「外出同行(通院、買い物など)」が34.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が32.2%、「特になし」が28.9%となっている。「Ⅱ」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が36.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が35.6%、「特になし」が27.8%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が38.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が31.6%、「外出同行(通院、買い物など)」が26.3%となっている。

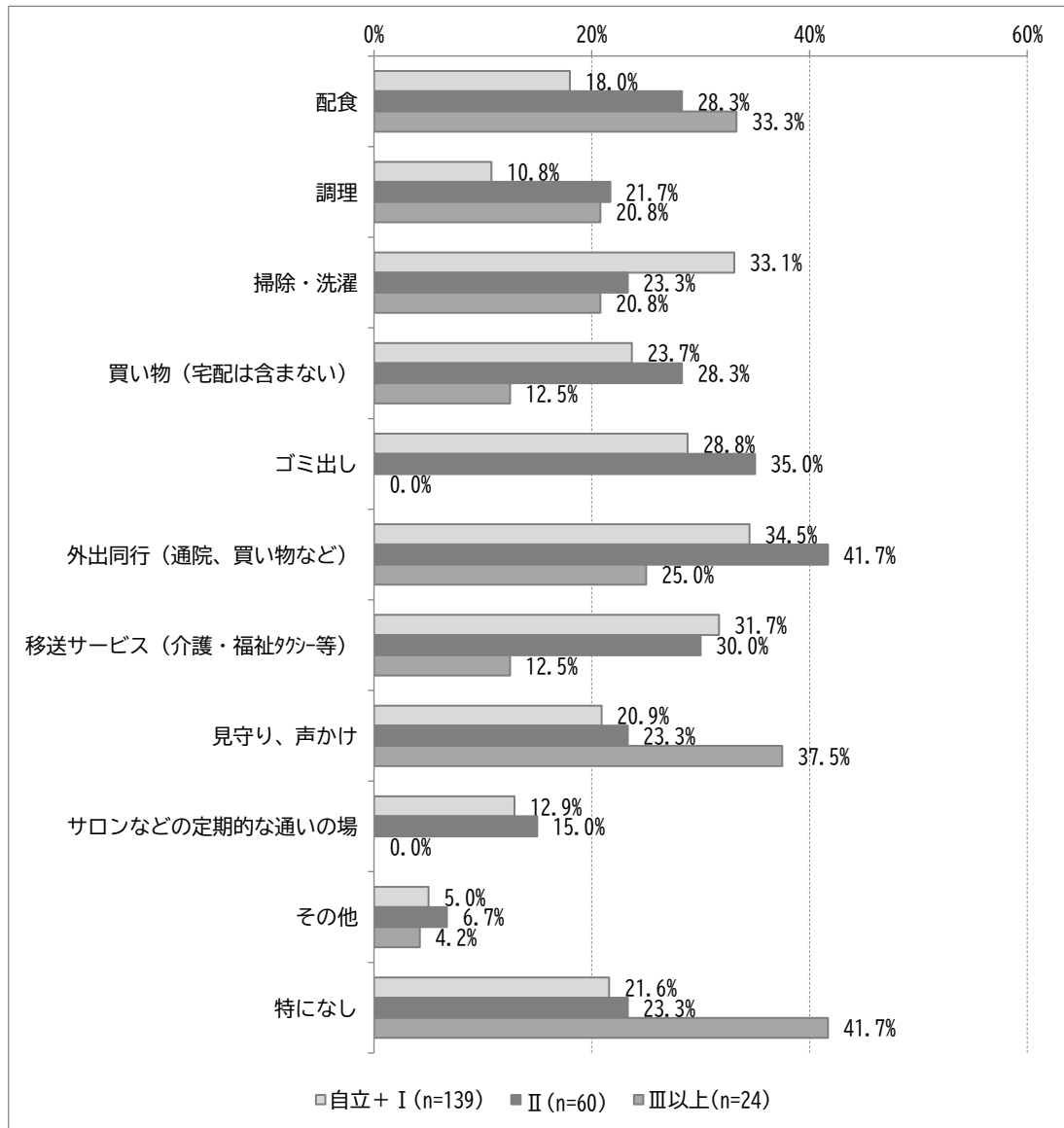
図表 6-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「外出同行(通院、買い物など)」が34.5%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が33.1%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が31.7%となっている。「II」では「外出同行(通院、買い物など)」が41.7%と最も割合が高く、次いで「ゴミ出し」が35.0%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が30.0%となっている。「III以上」では「特になし」が41.7%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が37.5%、「配食」が33.3%となっている。

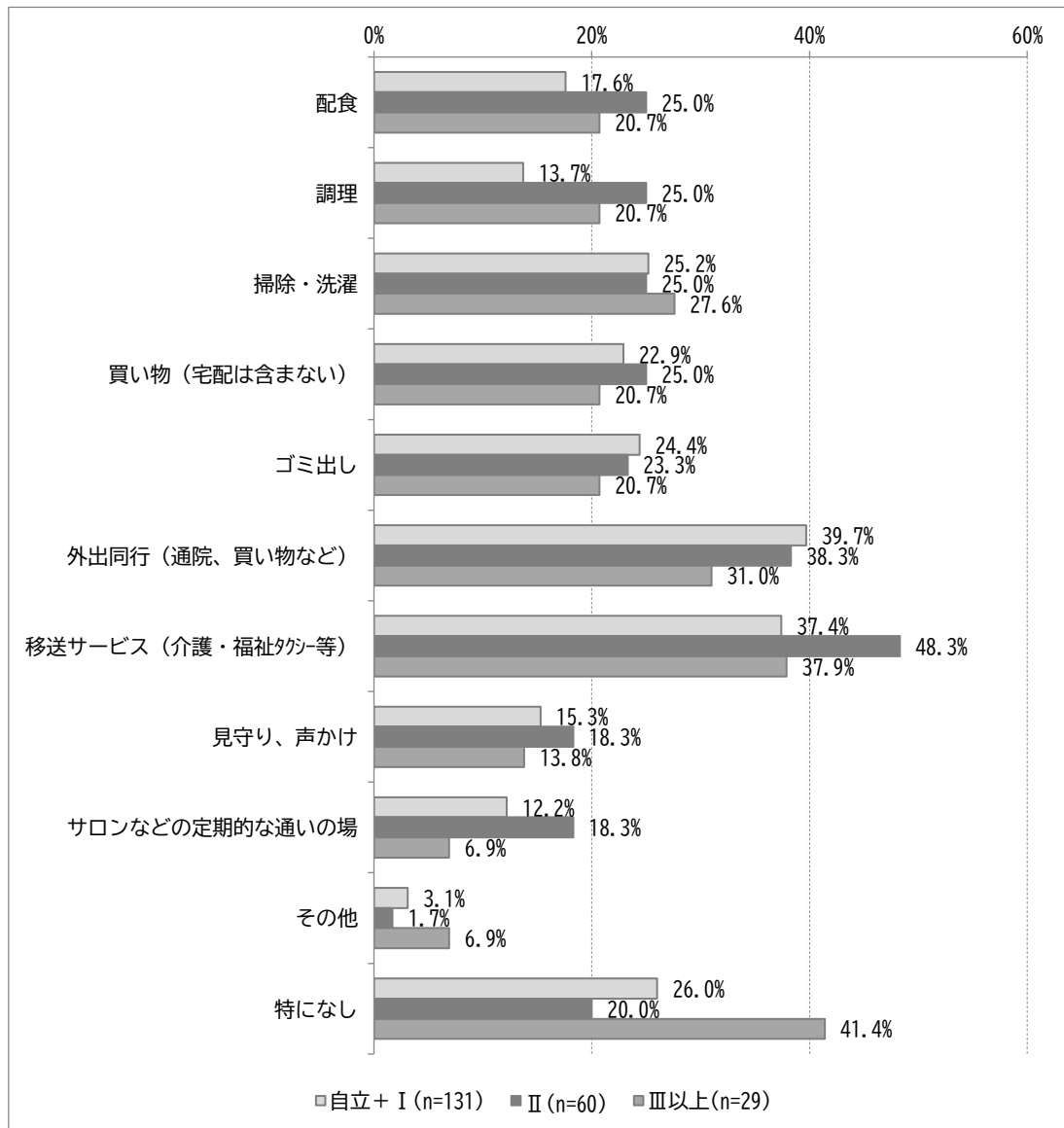
図表 6-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「外出同行(通院、買い物など)」が39.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が37.4%、「特になし」が26.0%となっている。「II」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が48.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が38.3%、「配食」「調理」「掃除・洗濯」「買い物(宅配は含まない)」が25.0%となっている。「III以上」では「特になし」が41.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が37.9%、「外出同行(通院、買い物など)」が31.0%となっている。

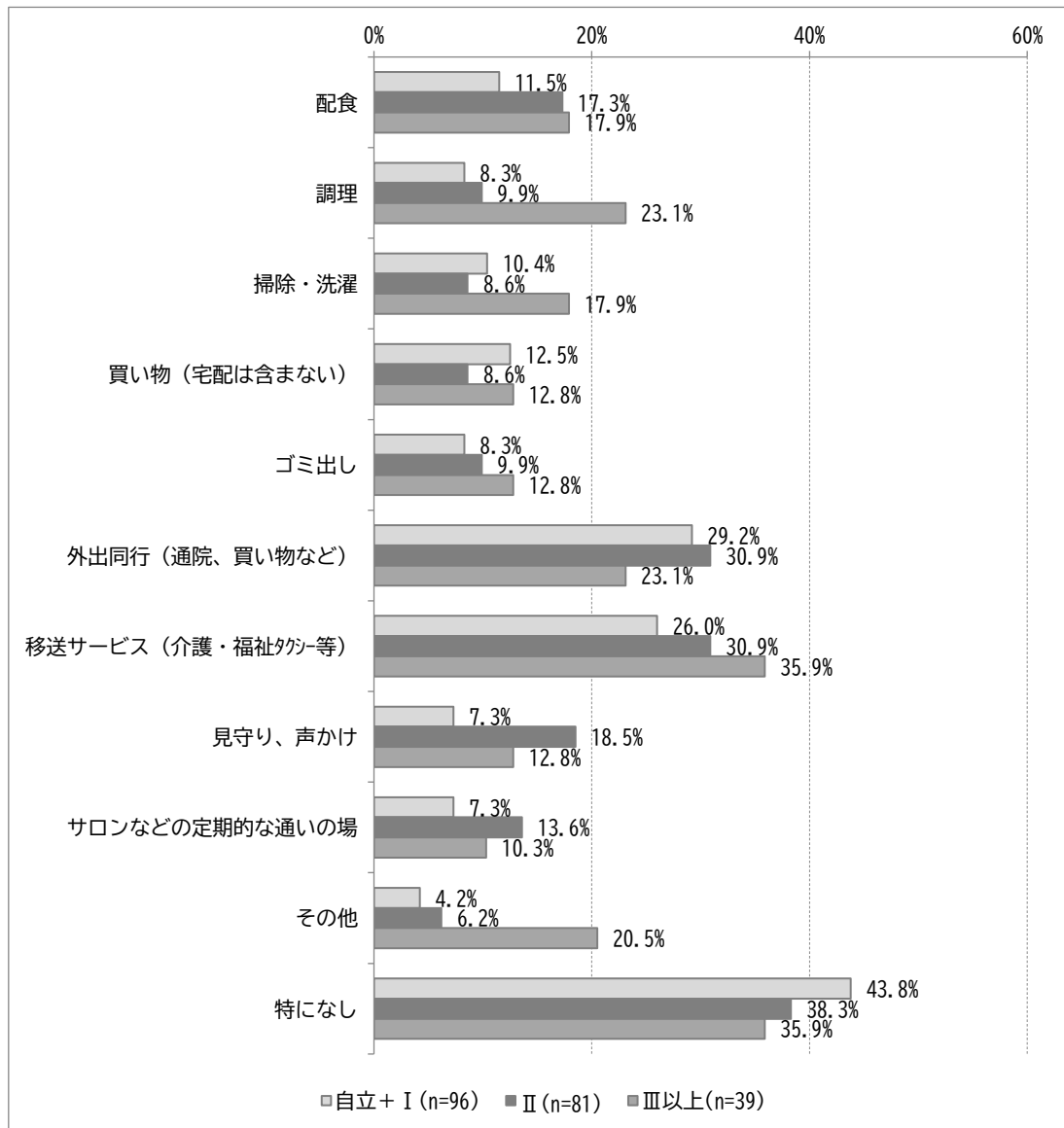
図表 6-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が43.8%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が29.2%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が26.0%となっている。「Ⅱ」では「特になし」が38.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が30.9%、「見守り、声かけ」が18.5%となっている。「Ⅲ以上」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」「特になし」が35.9%と最も割合が高く、次いで「調理」「外出同行(通院、買い物など)」が23.1%、「その他」が20.5%となっている。

図表 6-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)

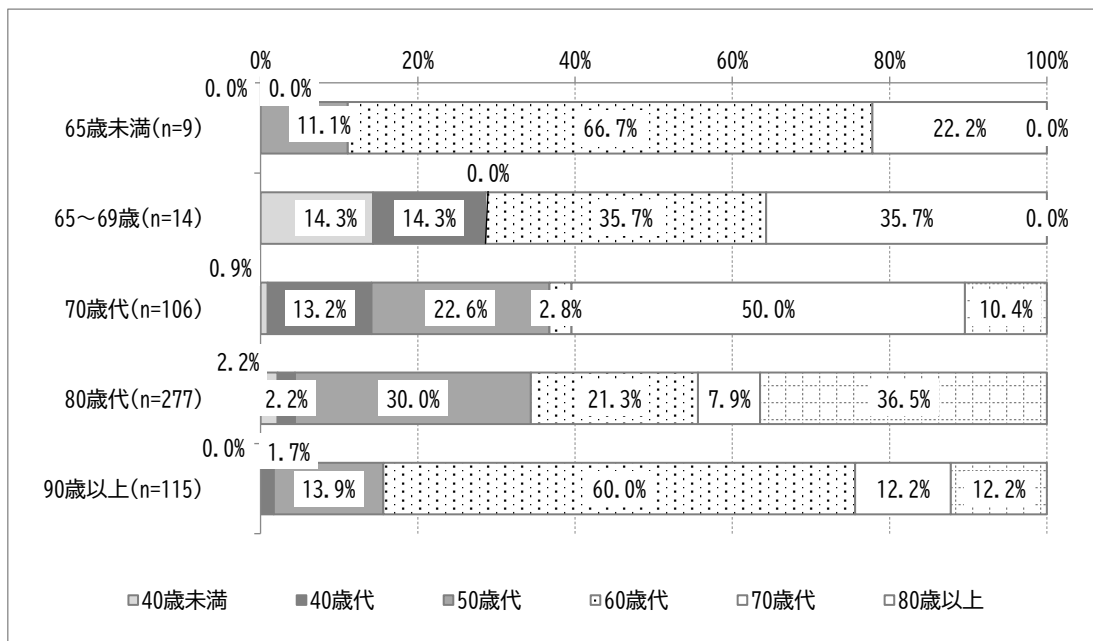


(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「60歳代」が66.7%と最も割合が高く、次いで「70歳代」が22.2%、「50歳代」が11.1%となっている。「65～69歳」では「60歳代」、「70歳代」が35.7%と最も割合が高く、次いで「40歳未満」、「40歳代」が14.3%、「50歳代」、「80歳以上」が0.0%となっている。「70歳代」では「70歳代」が50.0%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が22.6%、「40歳代」が13.2%となっている。「80歳代」では「80歳以上」が36.5%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が30.0%、「60歳代」が21.3%となっている。「90歳以上」では「60歳代」が60.0%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が13.9%、「70歳代」「80歳以上」が12.2%となっている。

図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢

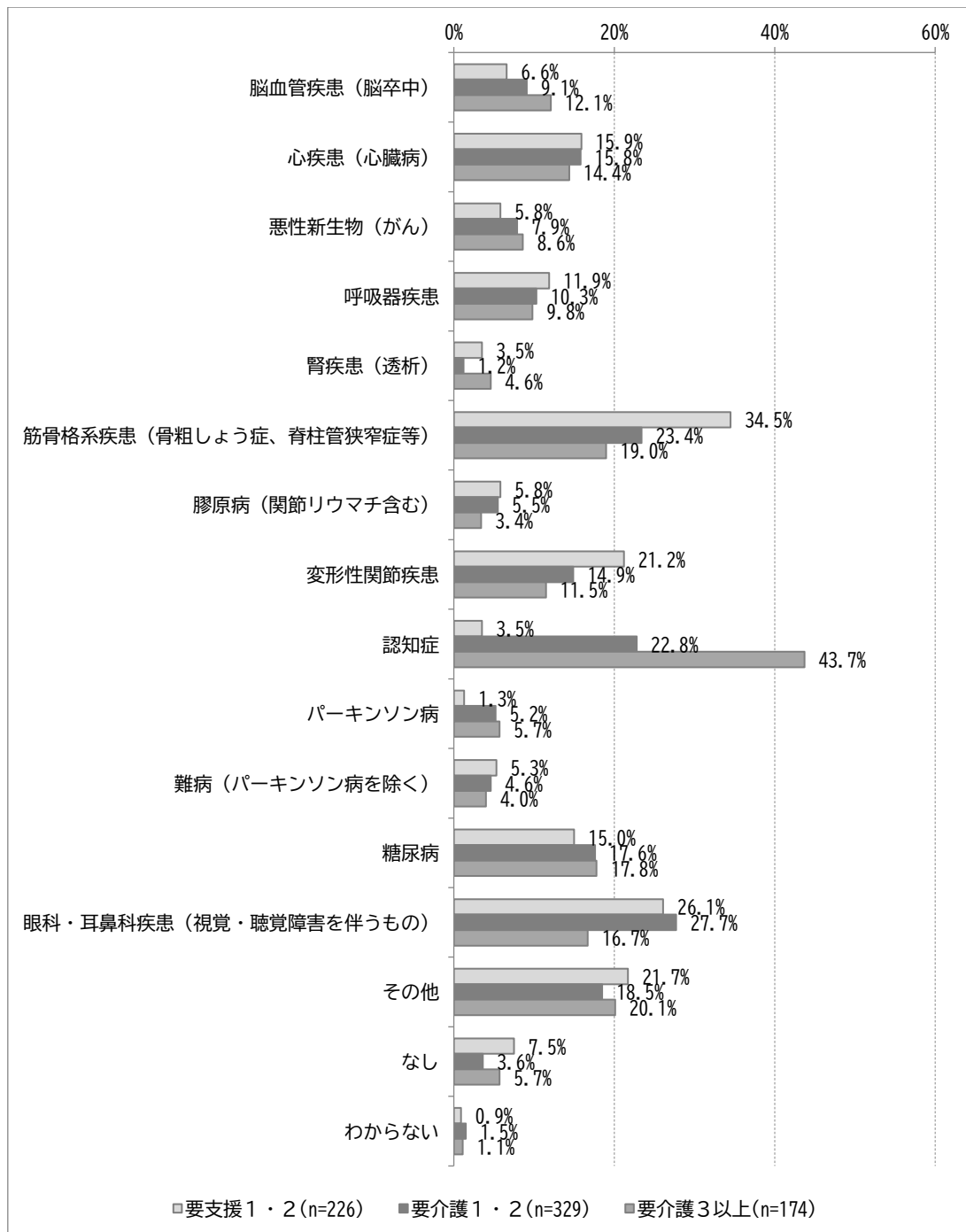


(5) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が34.5%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が26.1%、「その他」が21.7%となっている。「要介護1・2」では「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が27.7%と最も割合が高く、次いで「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が23.4%、「認知症」が22.8%となっている。「要介護3以上」では「認知症」が43.7%と最も割合が高く、次いで「その他」が20.1%、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が19.0%となっている。

図表 6-14 要介護度別・★抱えている傷病

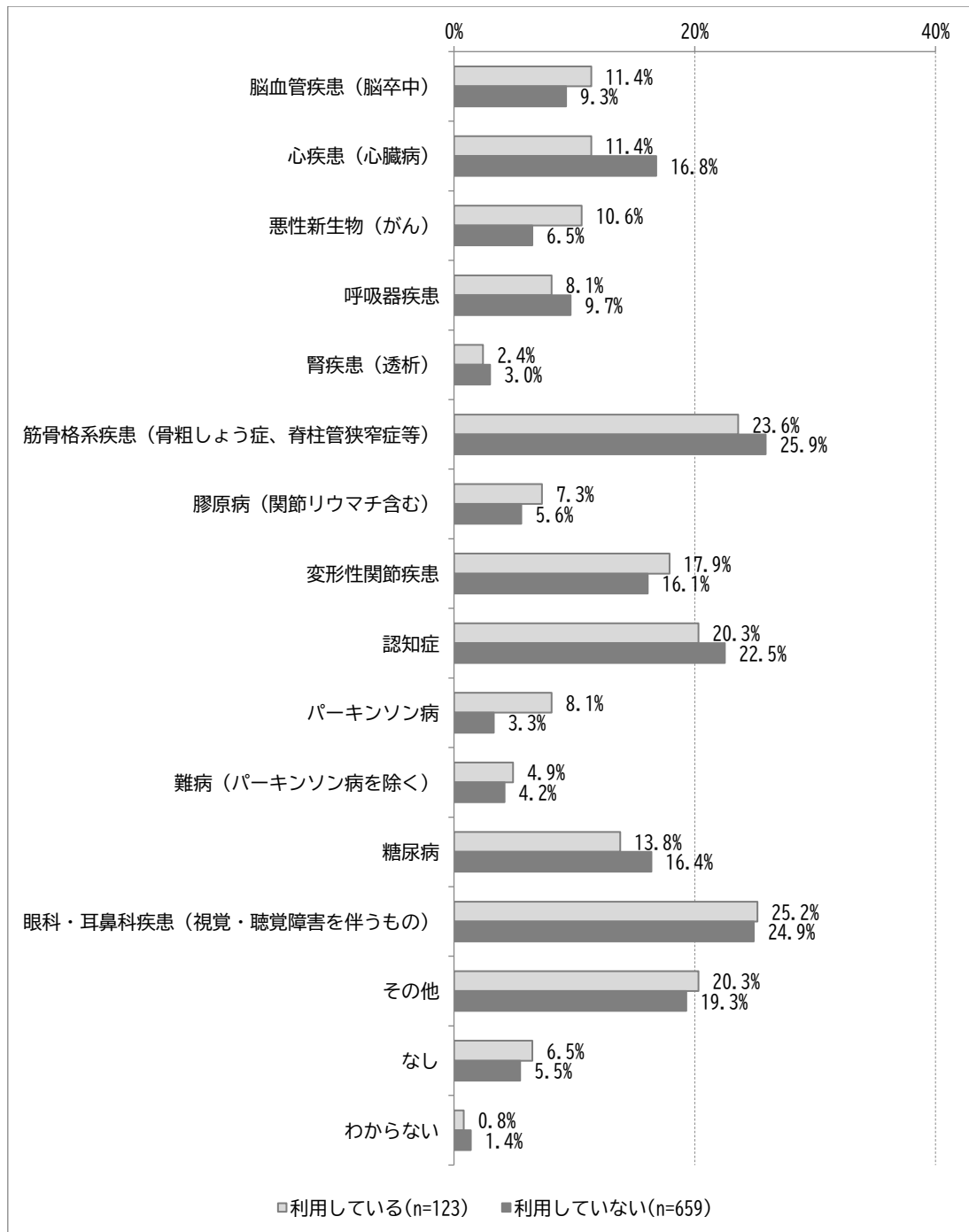


(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が25.2%と最も割合が高く、次いで「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が23.6%、「認知症」「その他」が20.3%となっている。「利用していない」では「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が25.9%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が24.9%、「認知症」が22.5%となっている。

図表 6-15 ★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病



河内長野市在宅介護実態調査報告書

令和8(2026)年3月

編集・発行:河内長野市こどもの未来とウェルビーイング推進局

総合健康部介護保険課

〒586-8501

大阪府河内長野市原町一丁目1番1号

TEL 0721-53-1111(代表)

<https://www.city.kawachinagano.lg.jp/>